

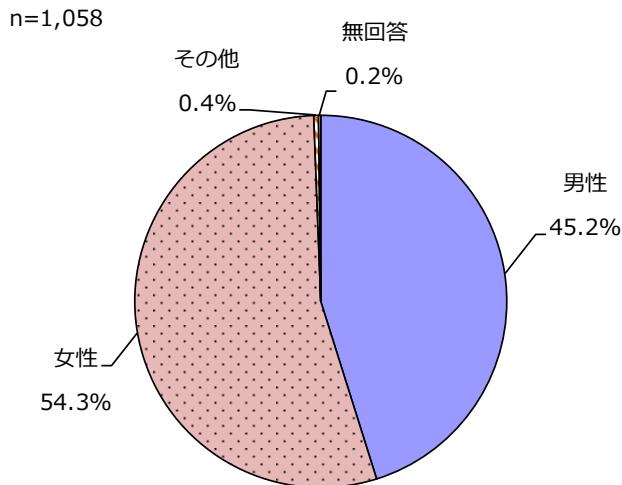
II 調査結果

1 回答者属性

(1) 性別

F1 性別

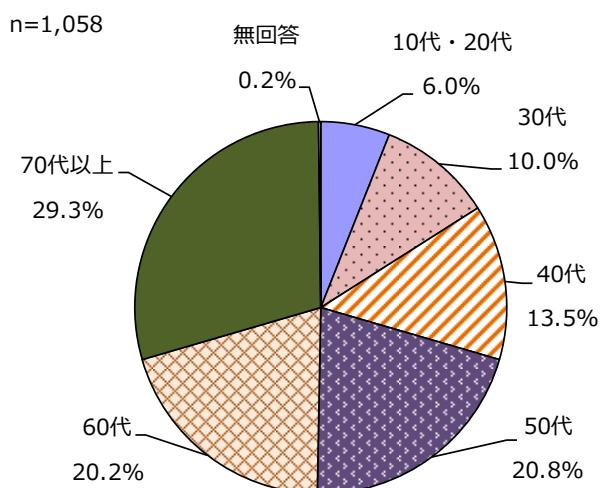
性別は、「男性」が45.2%、「女性」が54.3%となっています。



(2) 年齢

F2 年齢

年齢は、「70代以上」が29.3%と最も高く、次いで「50代」が20.8%、「60代」が20.2%となっています。

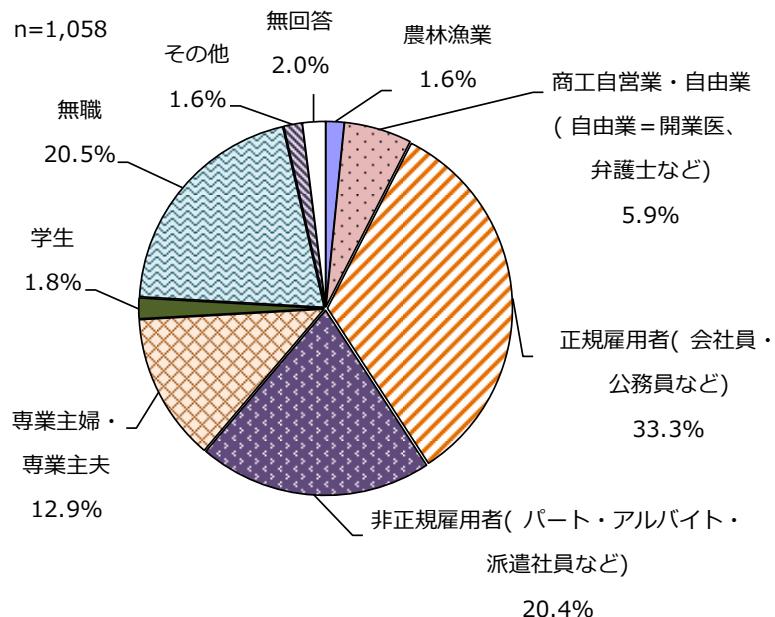


II 調査結果

(3) 職業

F3 職業(※主な職業に○をしてください)

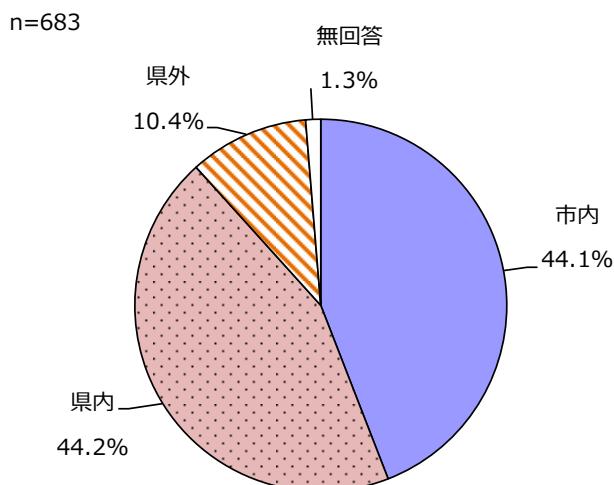
職業は、「正規雇用者(会社員・公務員など)」が 33.3%と3割を超えて最も高く、次いで「無職」が 20.5%、「非正規雇用者(パート・アルバイト・派遣社員など)」が 20.4%と約2割を占めて続いています。



(4) 職場(通学地)の所在地

F4 職場(通学地)の所在地

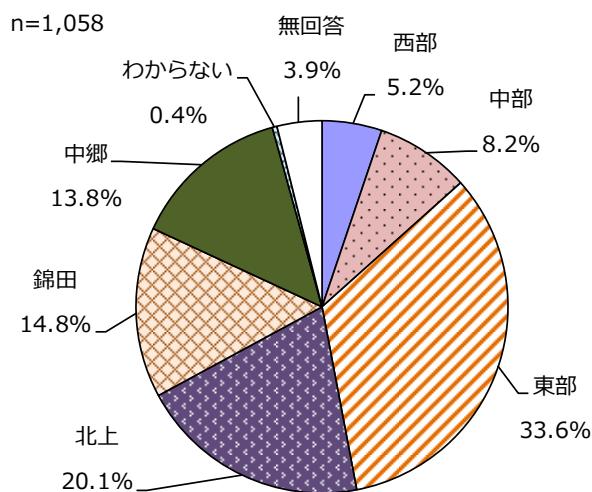
職場や通学地の所在地は、「県内」が 44.2%、「市内」が 44.1%と4割台で、二つ合わせた“(三島市を含む)県内”で9割近くを占めています。



(5) 居住地区

F5 居住地区

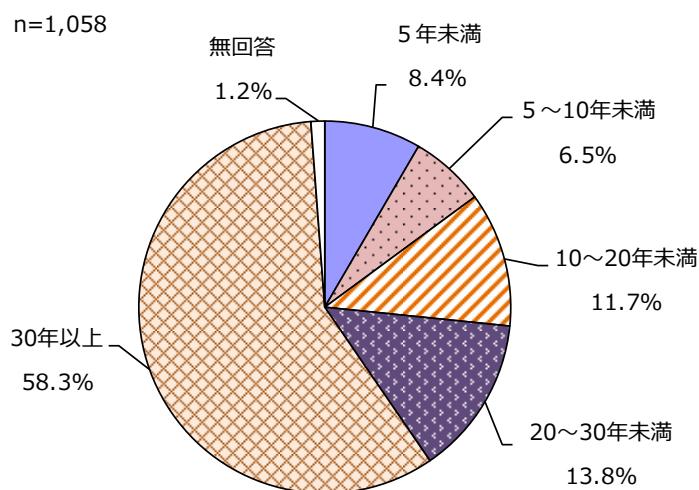
居住地区は、「東部」が33.6%と最も高く、次いで「北上」が20.1%、「錦田」が14.8%となっています。



(6) 三島市在住歴

F6 三島市在住歴

三島市の在住歴は、「30年以上」が58.3%と6割近くを占めて最も高く、次いで「20~30年未満」が13.8%、「10~20年未満」が11.7%と続いており、「10年以上」で約8割を占めています。



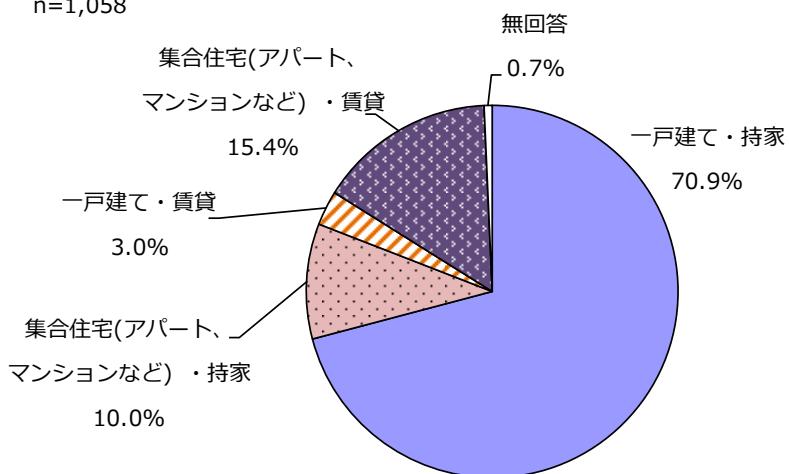
II 調査結果

(7) 住居の種類

F7 お住まいの住宅

住居の種類は、「一戸建て・持家」が70.9%と約7割を占めて最も高く、次いで「集合住宅(アパート、マンションなど)・賃貸」が15.4%、「集合住宅(アパート、マンションなど)・持家」が10.0%と続いています。

n=1,058



2 『居住環境』について

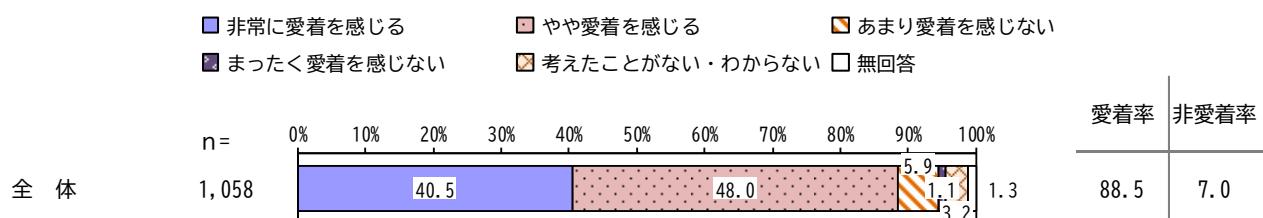
(1) 三島市への愛着

問1 三島市に愛着を感じますか。(○は一つ)

— 三島市への“愛着率”は 88.5% —

三島市への愛着について、「非常に愛着を感じる」(40.5%) と「やや愛着を感じる」(48.0%) を合わせた“愛着率”は 88.5% と 9割近くを占めています。

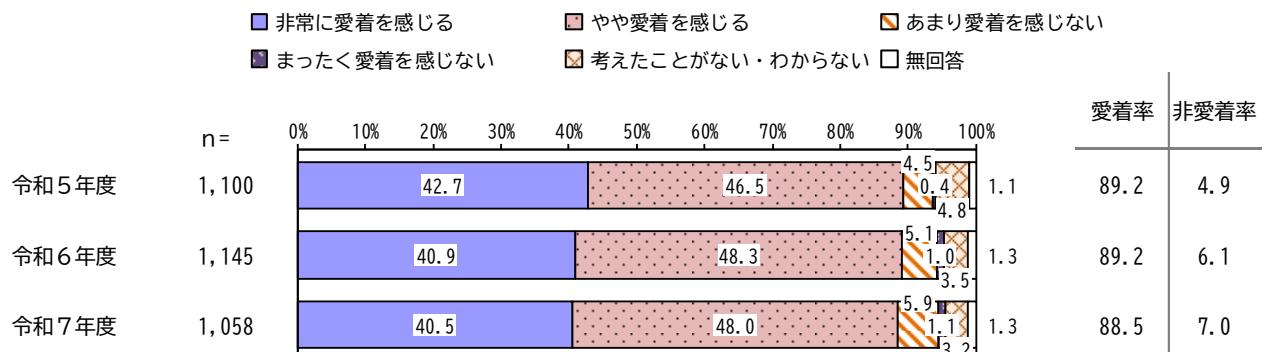
一方、「あまり愛着を感じない」(5.9%) と「まったく愛着を感じない」(1.1%) を合わせた“非愛着率”は 7.0% となっています。



愛着率＝「非常に愛着を感じる」+「やや愛着を感じる」
非愛着率＝「あまり愛着を感じない」+「まったく愛着を感じない」

【経年比較】

過去調査と比較すると、令和6年度とあまり変化がありません。

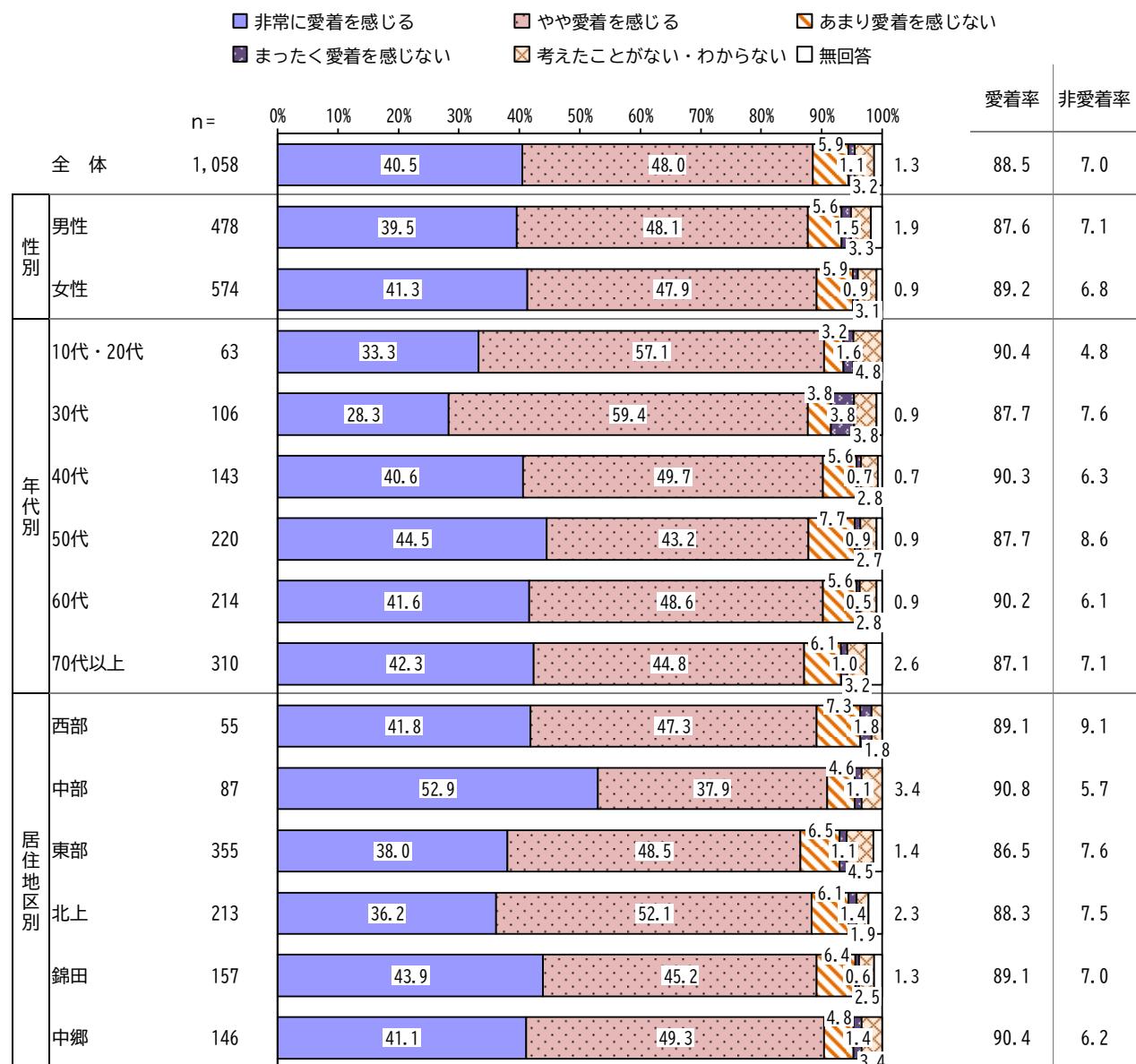


愛着率＝「非常に愛着を感じる」+「やや愛着を感じる」
非愛着率＝「あまり愛着を感じない」+「まったく愛着を感じない」

II 調査結果

【属性比較別】

性別でみると、“愛着率”（男性 87.6%、女性 89.2%）に大きな差異はみられません。
 年代別でみると、“愛着率”は、10代・20代（90.4%）、40代（90.3%）、60代（90.2%）で9割台と高くなっています。
 居住地区別でみると、“非愛着率”は、西部（9.1%）が最も高くなっています。



愛着率＝「非常に愛着を感じる」+「やや愛着を感じる」
 非愛着率＝「あまり愛着を感じない」+「まったく愛着を感じない」

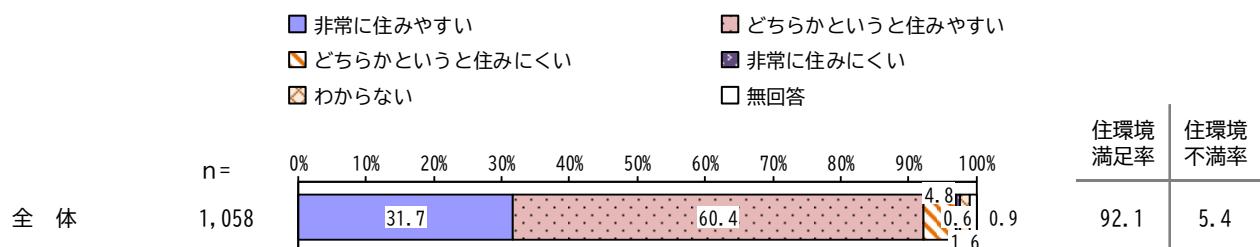
(2) 三島市の住みやすさ

問2 三島市が住みやすいところだと思いますか。(○は一つ)

- 三島市が“住みやすい”と感じる人は 92.1% -

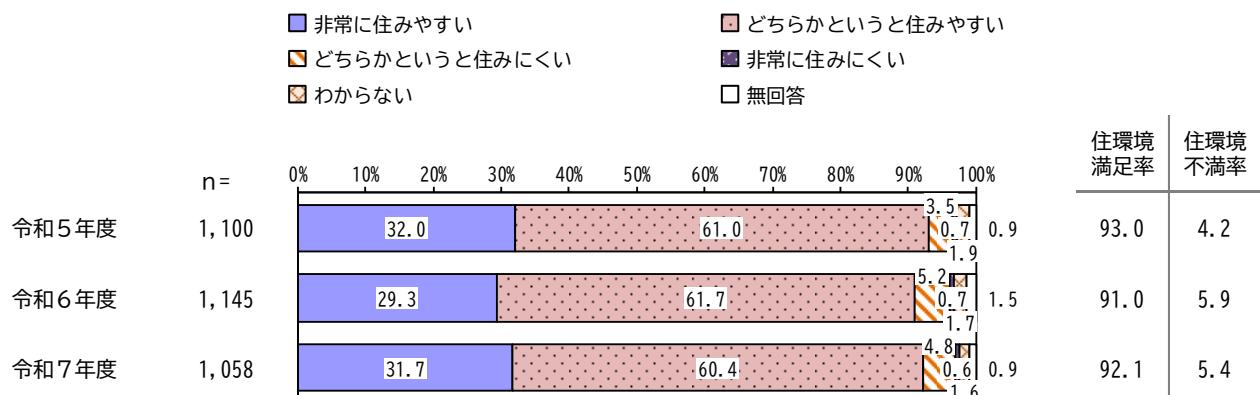
三島市の住みやすさについて、「非常に住みやすい」(31.7%) と「どちらかというと住みやすい」(60.4%) を合わせた “住環境満足率” は 92.1% となっています。

一方、「どちらかというと住みにくい」(4.8%) と「非常に住みにくい」(0.6%) を合わせた “住環境不満率” は 5.4% となっています。



【経年比較】

過去調査と比較すると、令和6年度とあまり変化がありません。



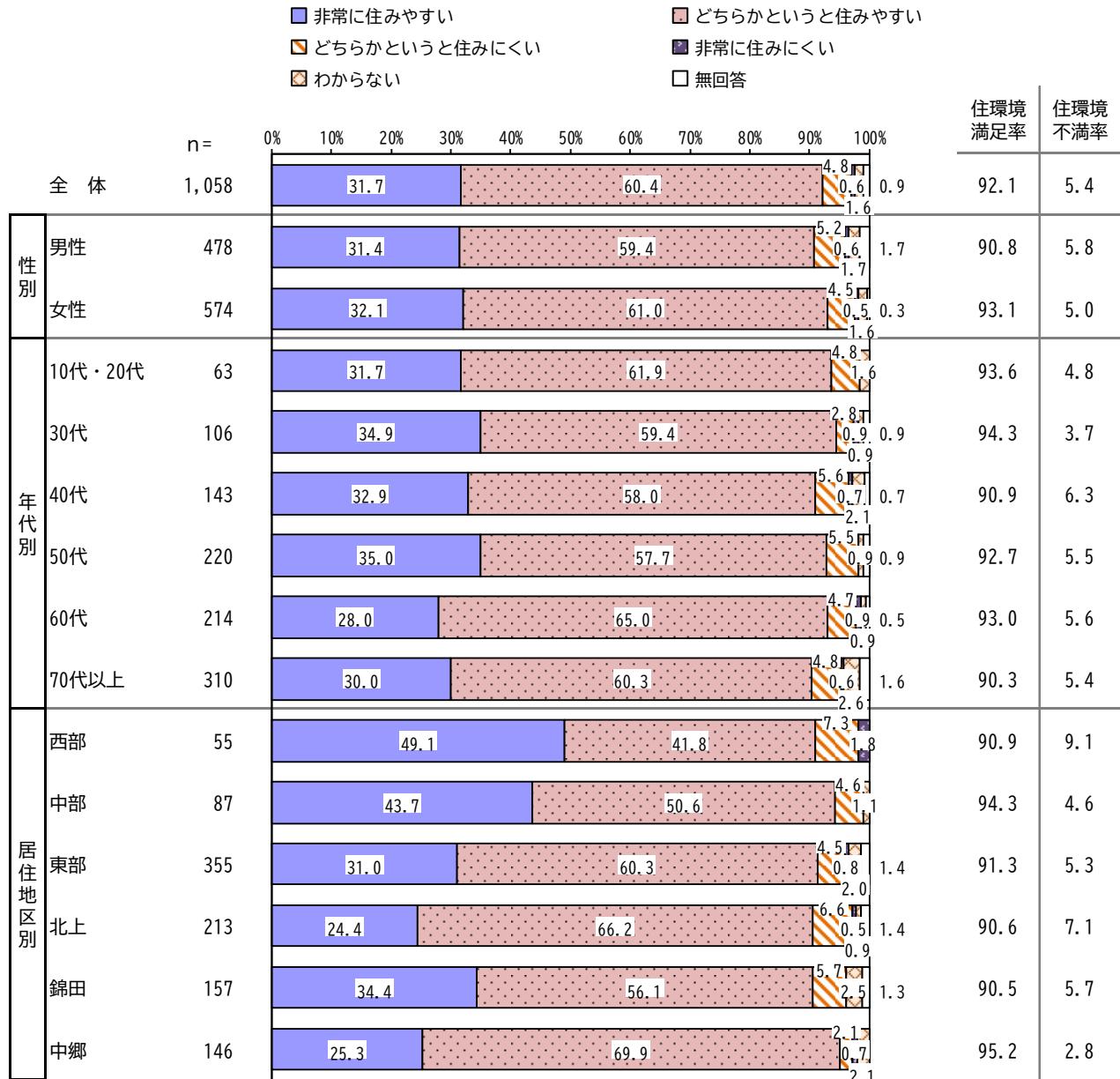
II 調査結果

【属性比較別】

性別でみると、“住環境満足率”は、男性（90.8%）より女性（93.1%）の割合が高くなっています。

年代別でみると、“住環境満足率”は、30代（94.3%）が最も高くなっています。

居住地区別でみると、“住環境満足率”は、中郷（95.2%）が最も高くなっています。



住環境満足率＝「非常に住みやすい」+「どちらかというと住みやすい」

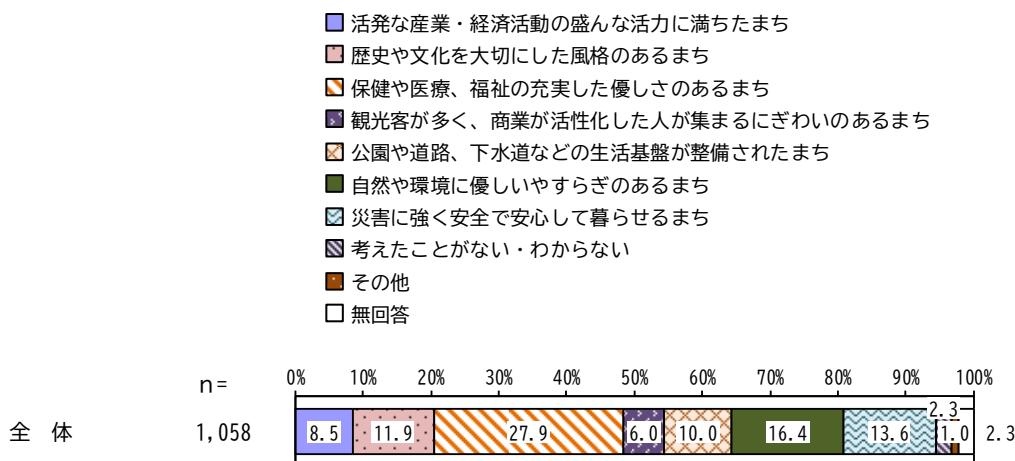
住環境不満率＝「どちらかというと住みにくい」+「非常に住みにくい」

(3) 三島市の将来像

問3 三島市が将来どのようなまちになったらよいと思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。(○は一つ)

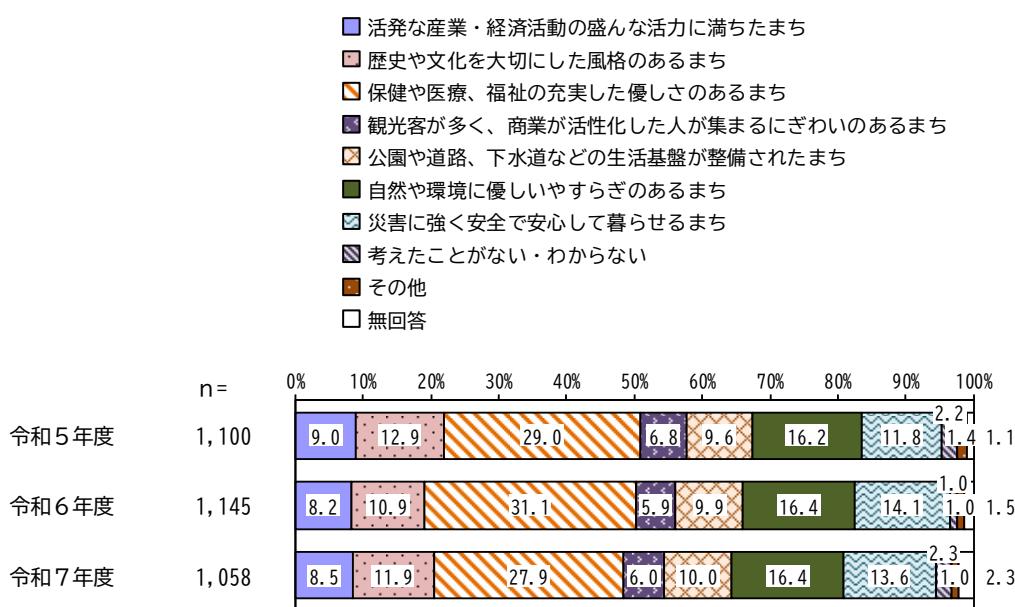
– 三島市の将来像は「保健や医療、福祉の充実した優しさのあるまち」が 27.9% –

「保健や医療、福祉の充実した優しさのあるまち」が 27.9% と最も高く、次いで「自然や環境に優しいやすらぎのあるまち」が 16.4%、「災害に強く安全で安心して暮らせるまち」が 13.6% と続いています。



【経年比較】

過去調査と比較すると、令和6年度とあまり変化がありません。



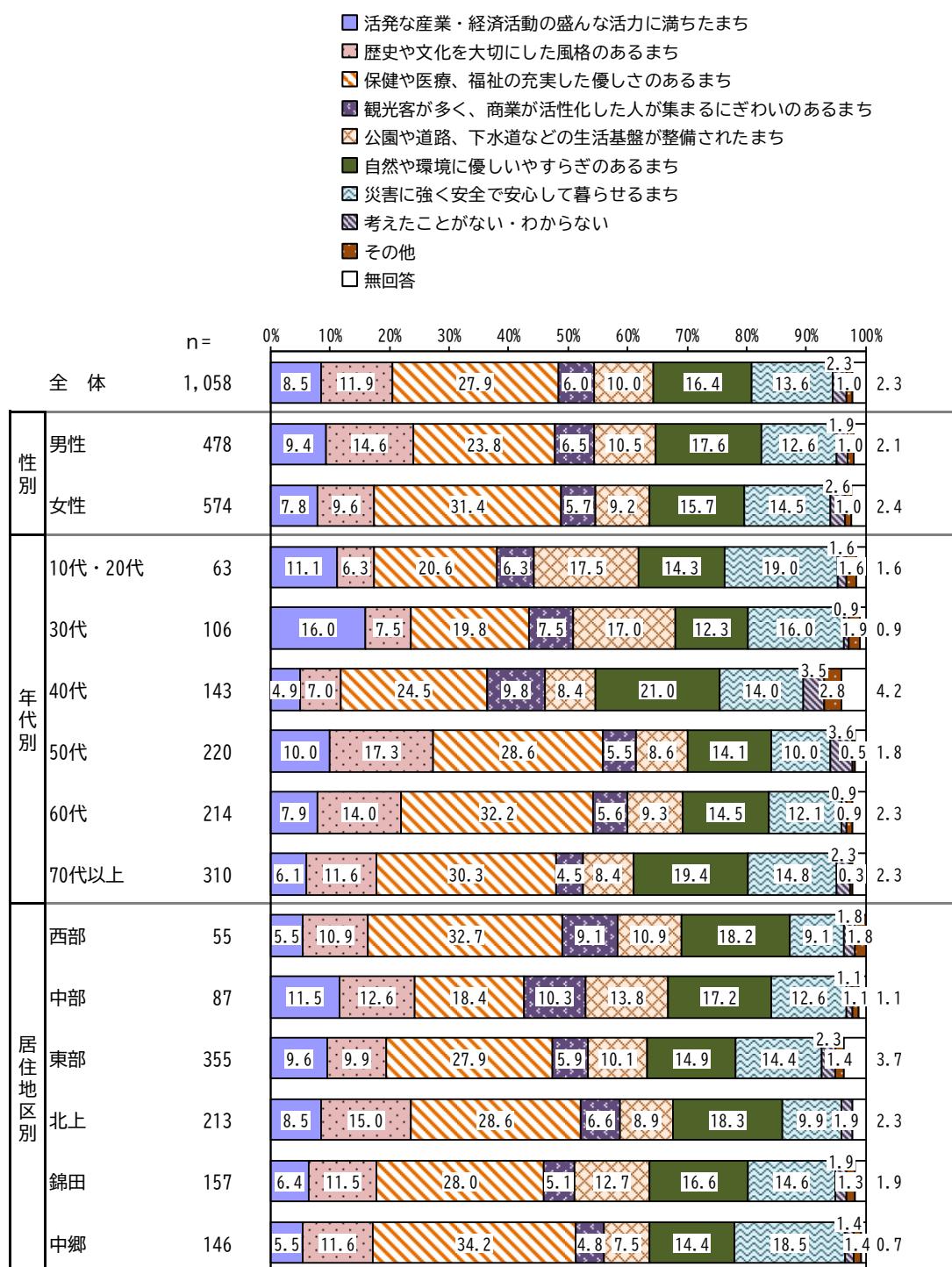
II 調査結果

【属性比較別】

性別でみると、「保健や医療、福祉の充実した優しさのあるまち」は、男性(23.8%)より女性(31.4%)の割合が高くなっています。

年代別でみると、「活発な産業・経済活動の盛んな活力に満ちたまち」は30代(16.0%)が最も高くなっています。また、「保健や医療、福祉の充実した優しさのあるまち」は60代と70代以上で3割台と高くなっています。

居住地区別でみると、「保健や医療、福祉の充実した優しさのあるまち」は、中部(18.4%)が2割を切って、他の地区よりも低くなっています。

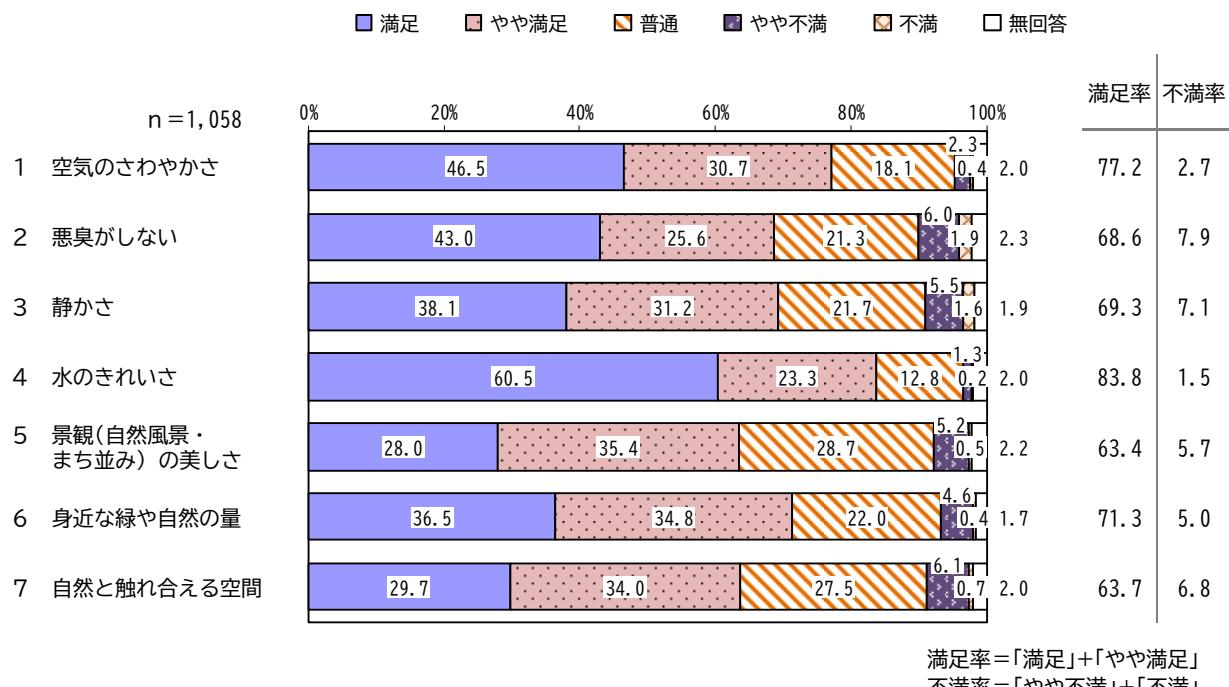


(4) 生活環境の満足度

問4 あなたが住む地域の生活環境の満足度についてお答えください。1~7の項目ごとに該当する番号を選んでください。満足度(それぞれ○は一つ)

- 生活環境の“満足率”が最も高いのは『水のきれいさ』で 83.8% -

生活環境の満足度について、いずれの項目でも「満足」と「やや満足」を合わせた“満足率”が「やや不満」と「不満」を合わせた“不満率”を大きく上回っています。中でも『1 空気のさわやかさ』、『4 水のきれいさ』、『6 身近な緑や自然の量』の“満足率”は7割を超えて高くなっています。

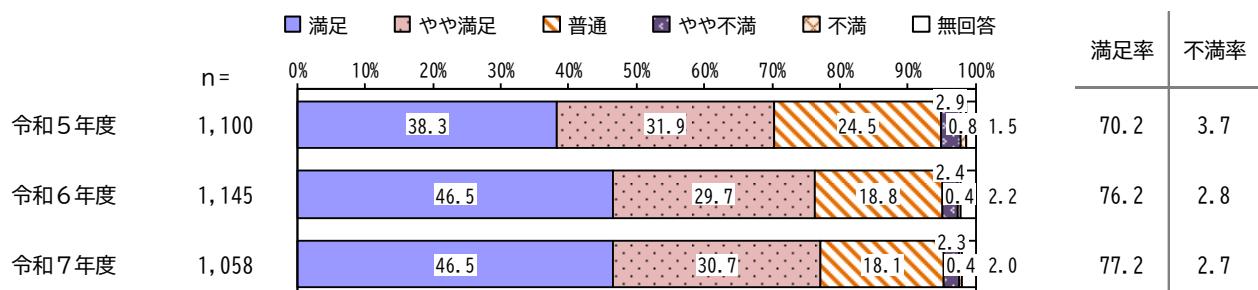


II 調査結果

(4)-1 空気のさわやかさ

【経年比較】

過去調査と比較すると、令和5年度以降“満足率”が上がっています。

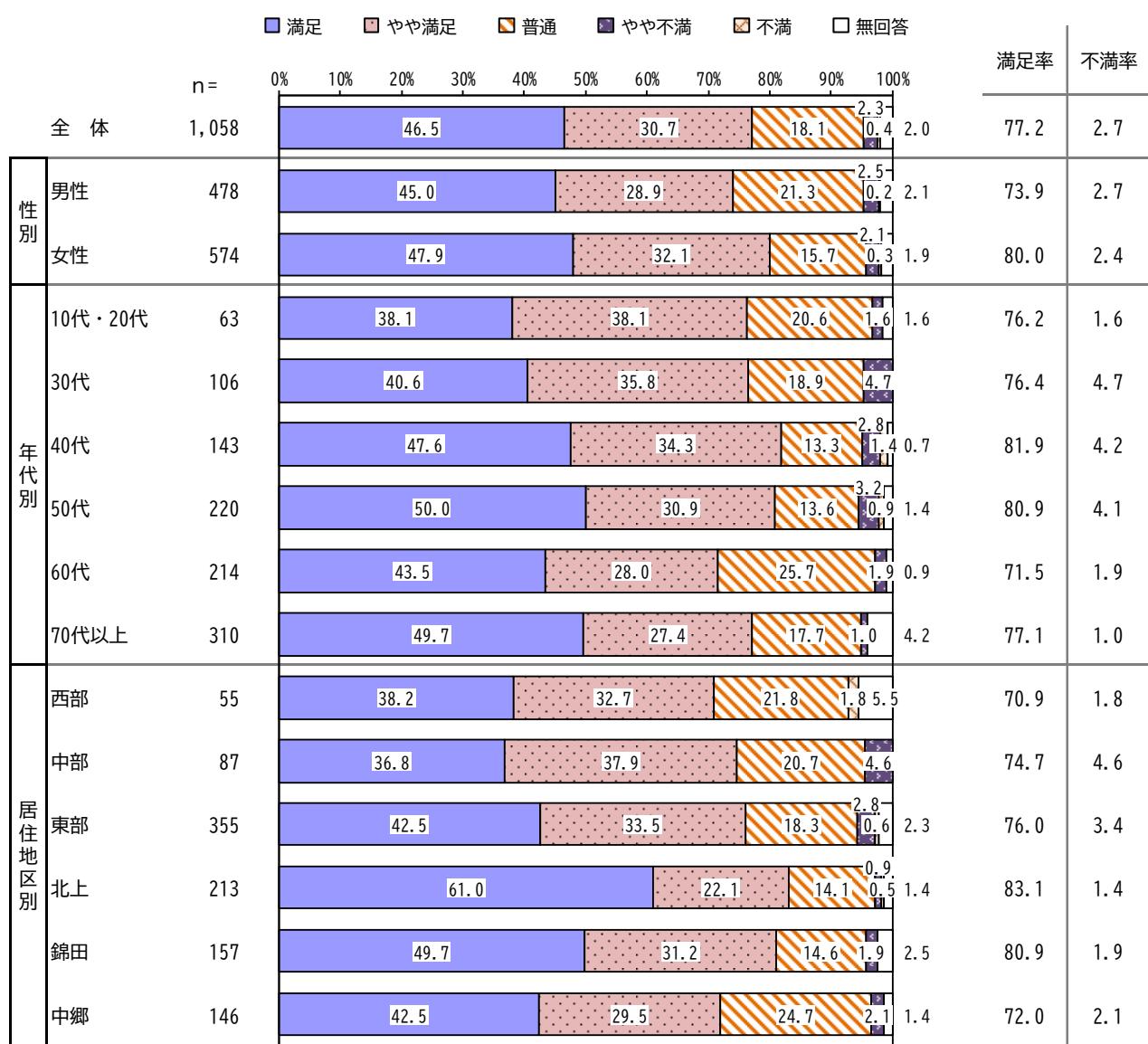


満足率＝「満足」+「やや満足」

不満率＝「やや不満」+「不満」

【属性比較別】

性別でみると、“満足率”は、男性（73.9%）より女性（80.0%）の割合が高くなっています。
年代別でみると、“満足率”は、40代（81.9%）と50代（80.9%）で8割台と高くなっています。
居住地区別でみると、“満足率”は、北上（83.1%）が最も高くなっています。



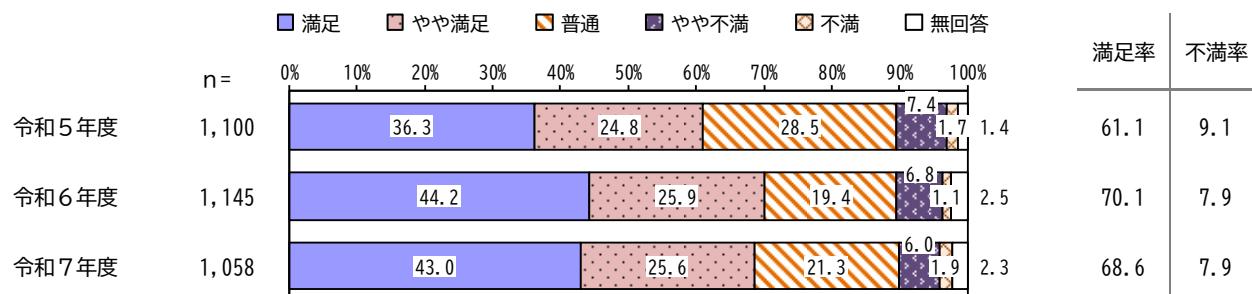
満足率＝「満足」+「やや満足」

不満率＝「やや不満」+「不満」

(4)-2 悪臭がしない

【経年比較】

過去調査と比較すると、令和5年度以降“満足率”に増加傾向がみられます。



満足率＝「満足」+「やや満足」

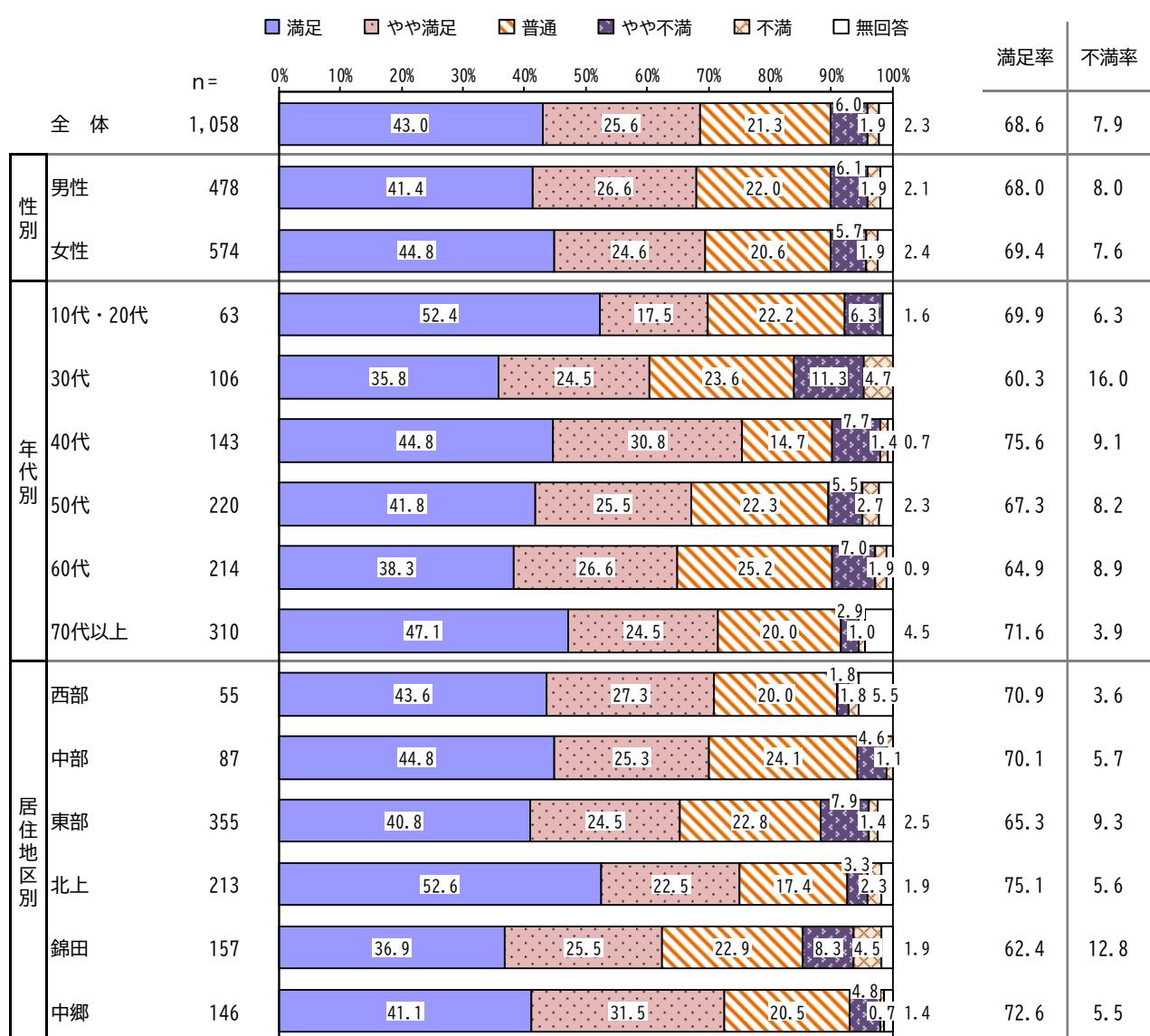
不満率＝「やや不満」+「不満」

【属性比較別】

性別でみると、“満足率”（男性 68.0%、女性 69.4%）に大きな差異はみられません。

年代別でみると、“満足率”は、40代（75.6%）が最も高くなっています。

居住地区別でみると、“満足率”は、北上（75.1%）が最も高くなっています。



満足率＝「満足」+「やや満足」

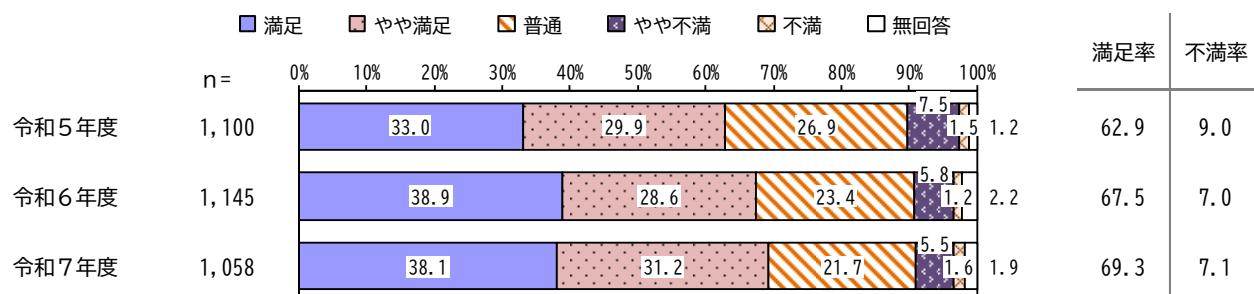
不満率＝「やや不満」+「不満」

II 調査結果

(4)-3 静かさ

【経年比較】

過去調査と比較すると、令和5年度以降“満足率”が上がっています。



満足率＝「満足」+「やや満足」

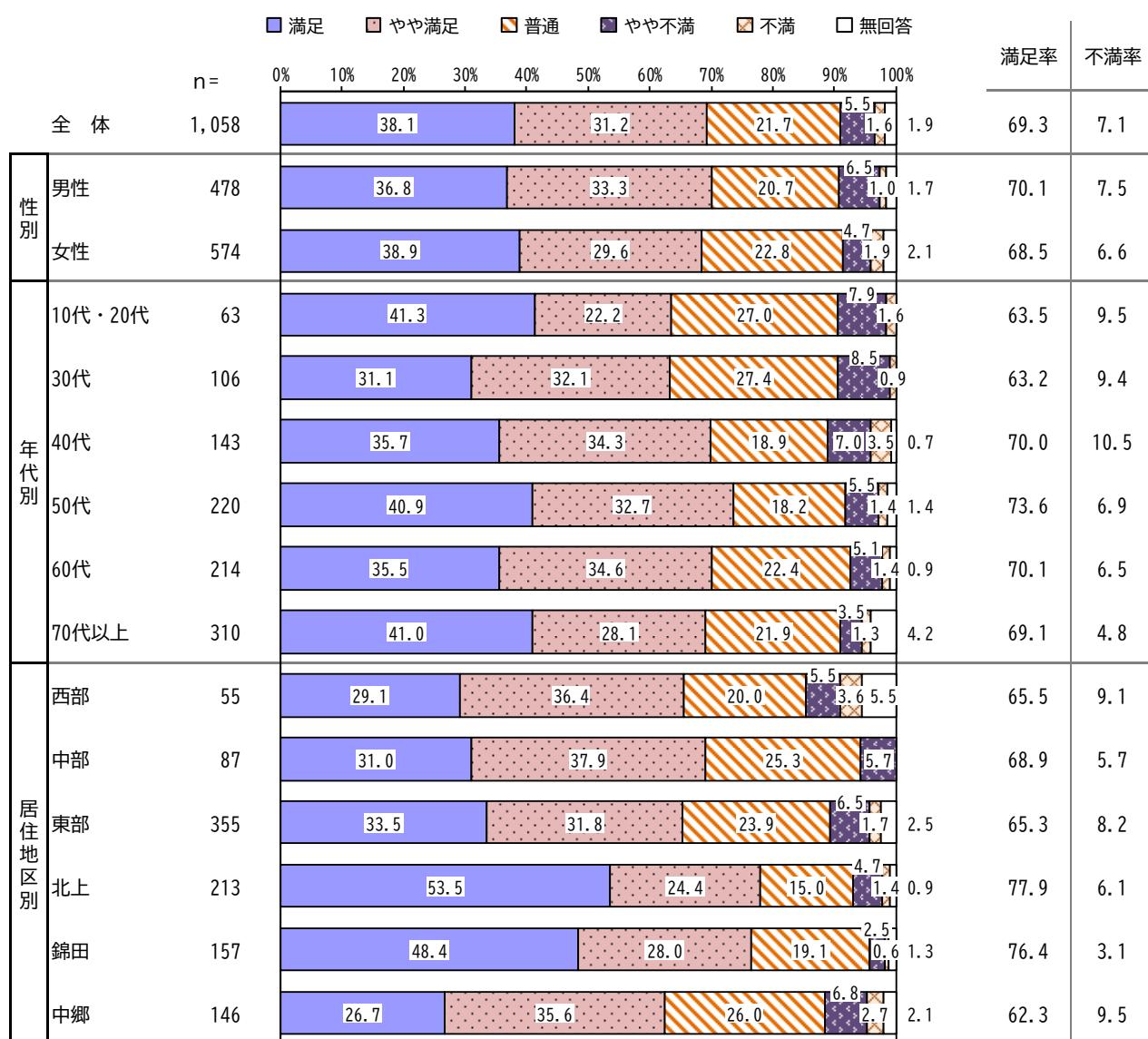
不満率＝「やや不満」+「不満」

【属性比較別】

性別でみると、“満足率”（男性 70.1%、女性 68.5%）に大きな差異はみられません。

年代別でみると、“満足率”は、40代～60代で7割台と高くなっています。

居住地区別でみると、“満足率”は、北上と錦田で7割半ばを超えていいます。



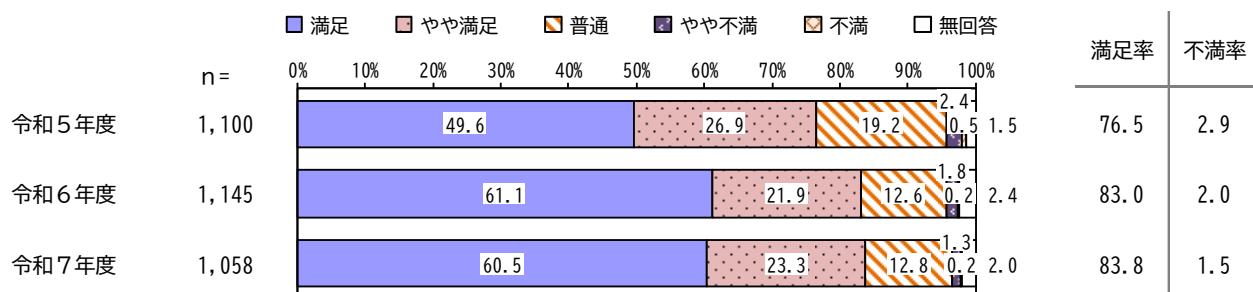
満足率＝「満足」+「やや満足」

不満率＝「やや不満」+「不満」

(4)-4 水のきれいさ

【経年比較】

過去調査と比較すると、令和5年度以降“満足率”が上がっています。



満足率＝「満足」+「やや満足」

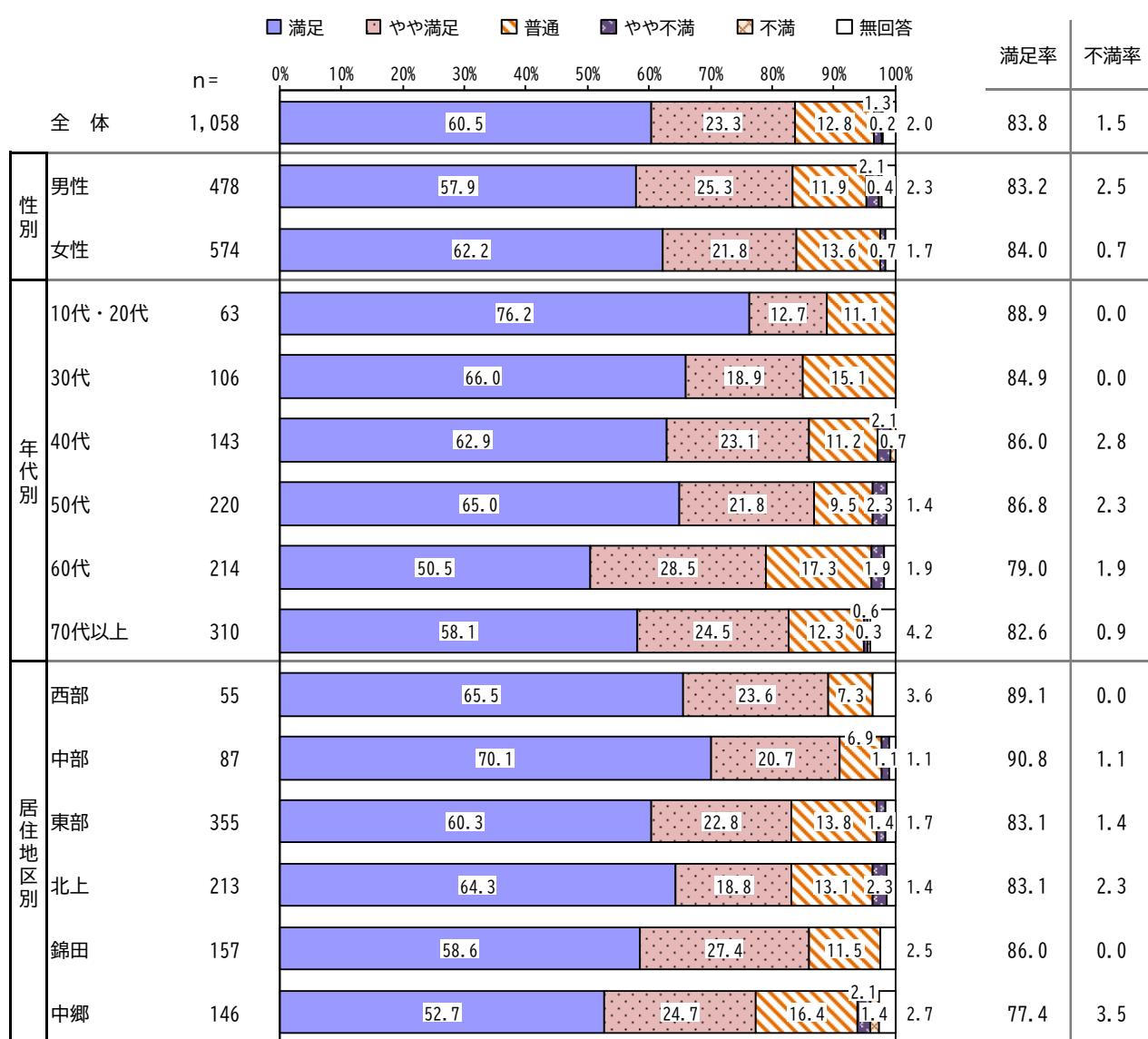
不満率＝「やや不満」+「不満」

【属性比較別】

性別でみると、“満足率”（男性 83.2%、女性 84.0%）に大きな差異はみられません。

年代別でみると、“満足率”は、60代以外の年代でいずれも8割を超えてています。

居住地区別でみると、“満足率”は、中郷（77.4%）が8割を切ってやや低くなっています。



満足率＝「満足」+「やや満足」

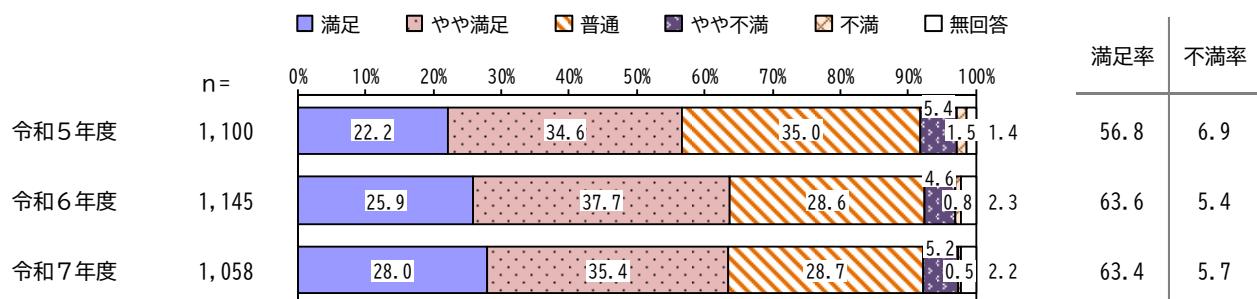
不満率＝「やや不満」+「不満」

II 調査結果

(4)-5 景観(自然風景・まち並み)の美しさ

【経年比較】

過去調査と比較すると、令和5年度以降“満足率”に増加傾向がみられます。

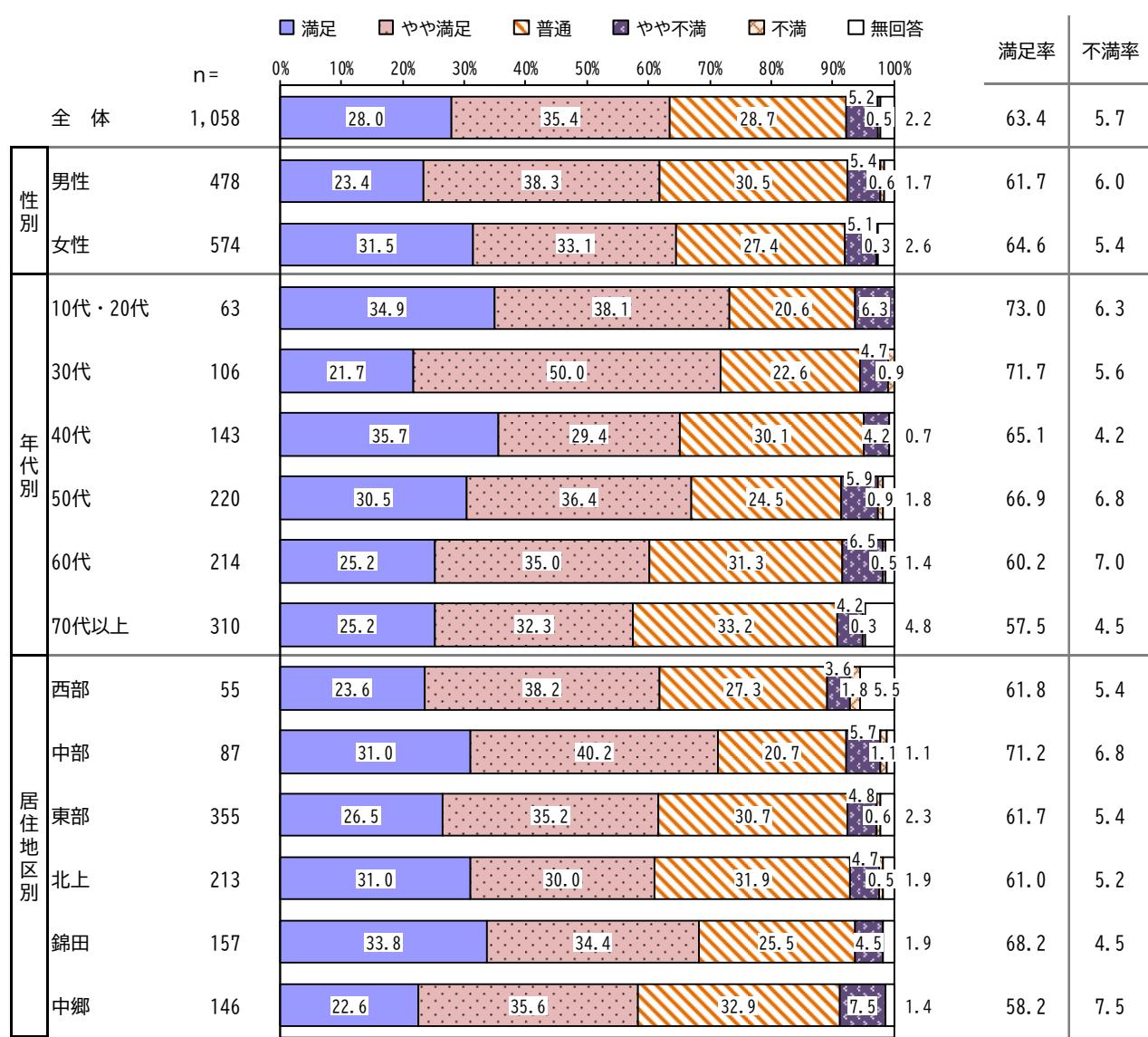


【属性比較別】

性別でみると、“満足率”は、男性（61.7%）より女性（64.6%）の割合が高くなっています。

年代別でみると、年代が上がるにつれて“満足率”的割合は低くなる傾向にあり、70代以上（57.5%）で5割台と最も低くなっています。

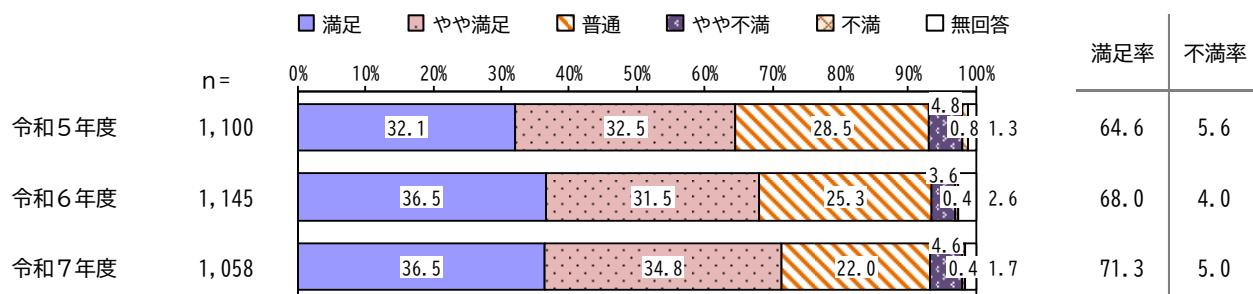
居住地区別でみると、“満足率”は、中部（71.2%）が最も高くなっています。



(4)-6 身近な緑や自然の量

【経年比較】

過去調査と比較すると、令和5年度以降“満足率”が上がっています。



満足率=「満足」+「やや満足」

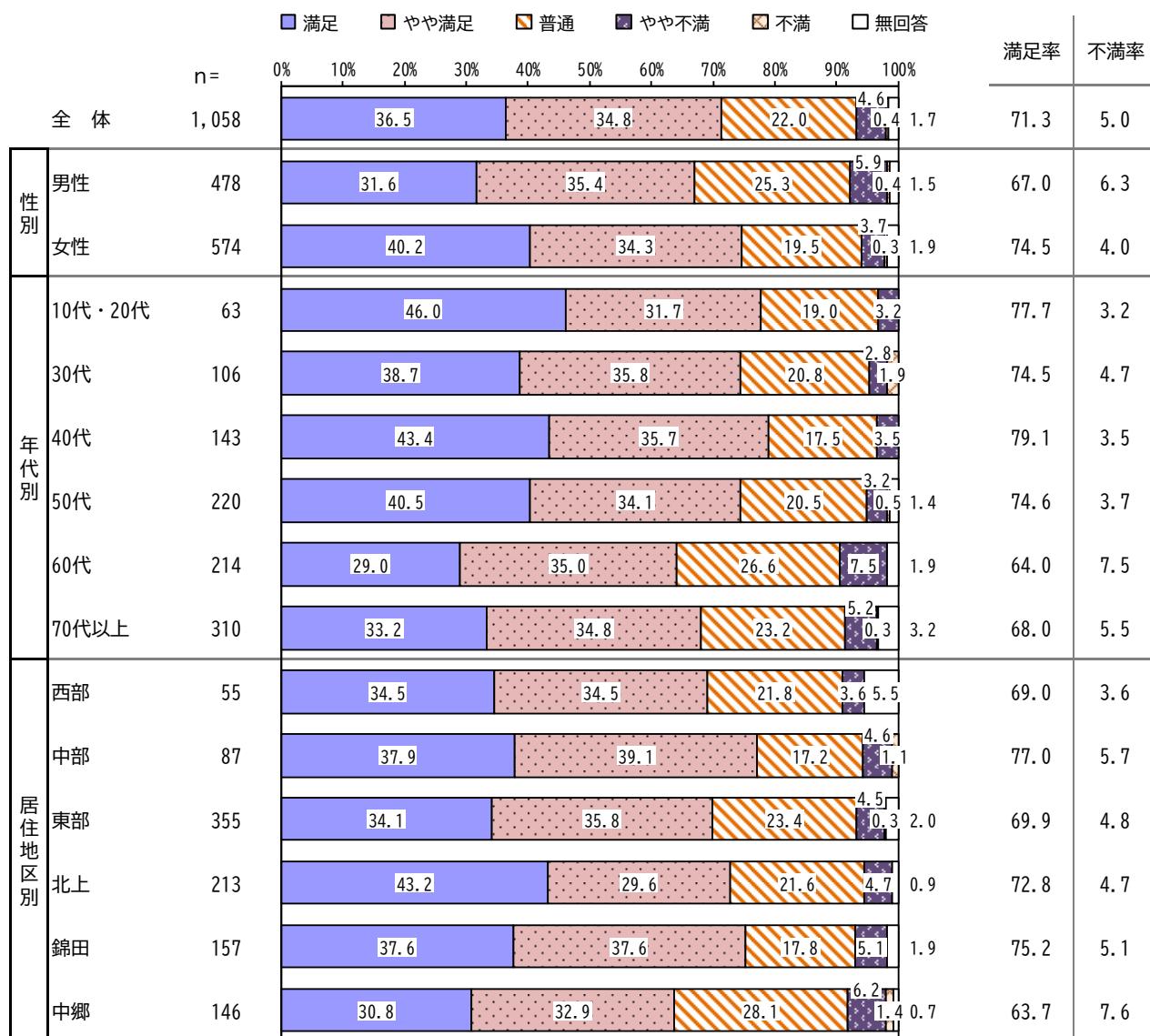
不満率=「やや不満」+「不満」

【属性比較別】

性別でみると、“満足率”は、男性（67.0%）より女性（74.5%）の割合が高くなっています。

年代別でみると、“満足率”は、50代以下の年代で7割を超えてています。

居住地区別でみると、“満足率”は、中郷（63.7%）が6割半ば程度で低くなっています。



満足率=「満足」+「やや満足」

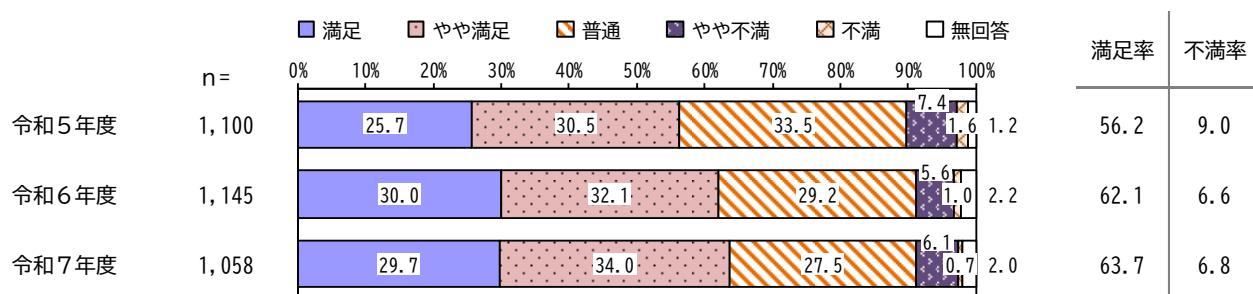
不満率=「やや不満」+「不満」

II 調査結果

(4)-7 自然と触れ合える空間

【経年比較】

過去調査と比較すると、令和5年度以降“満足率”が上がっています。



満足率=「満足」+「やや満足」

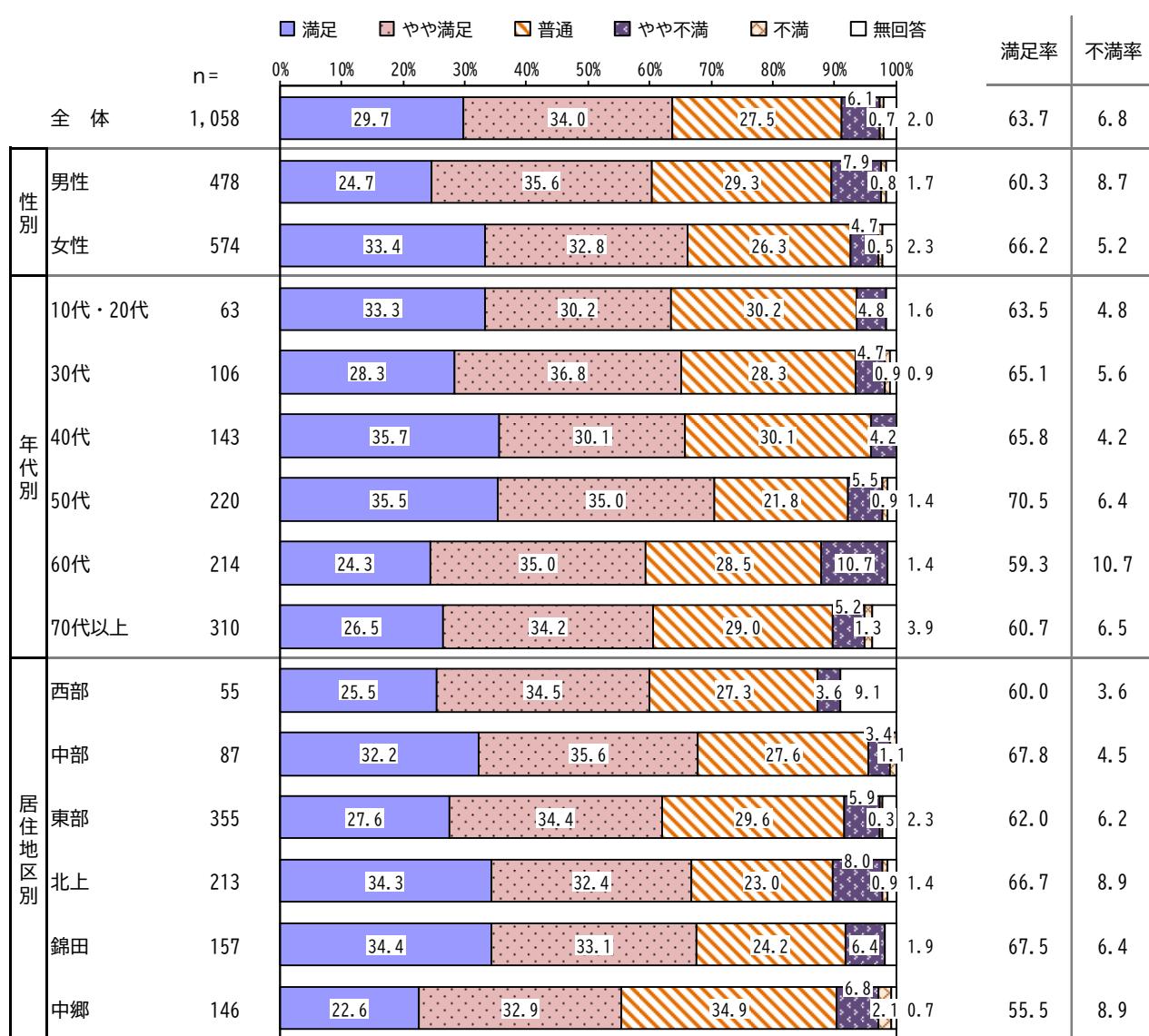
不満率=「やや不満」+「不満」

【属性比較別】

性別でみると、“満足率”は、男性（60.3%）より女性（66.2%）の割合が高くなっています。

年代別でみると、“満足率”は、50代（70.5%）で約7割を占めて最も高くなっています。

居住地区別でみると、“満足率”は、中郷（55.5%）が5割半ばで低くなっています。



満足率=「満足」+「やや満足」

不満率=「やや不満」+「不満」

3 『市の取り組みの満足度』について

(1) 市の取り組みの満足度

問5 毎日の暮らしを通じて、市が行っている施策に対する満足(充実)度についてお答えください。1~36の項目ごとに該当する番号を選んでください。

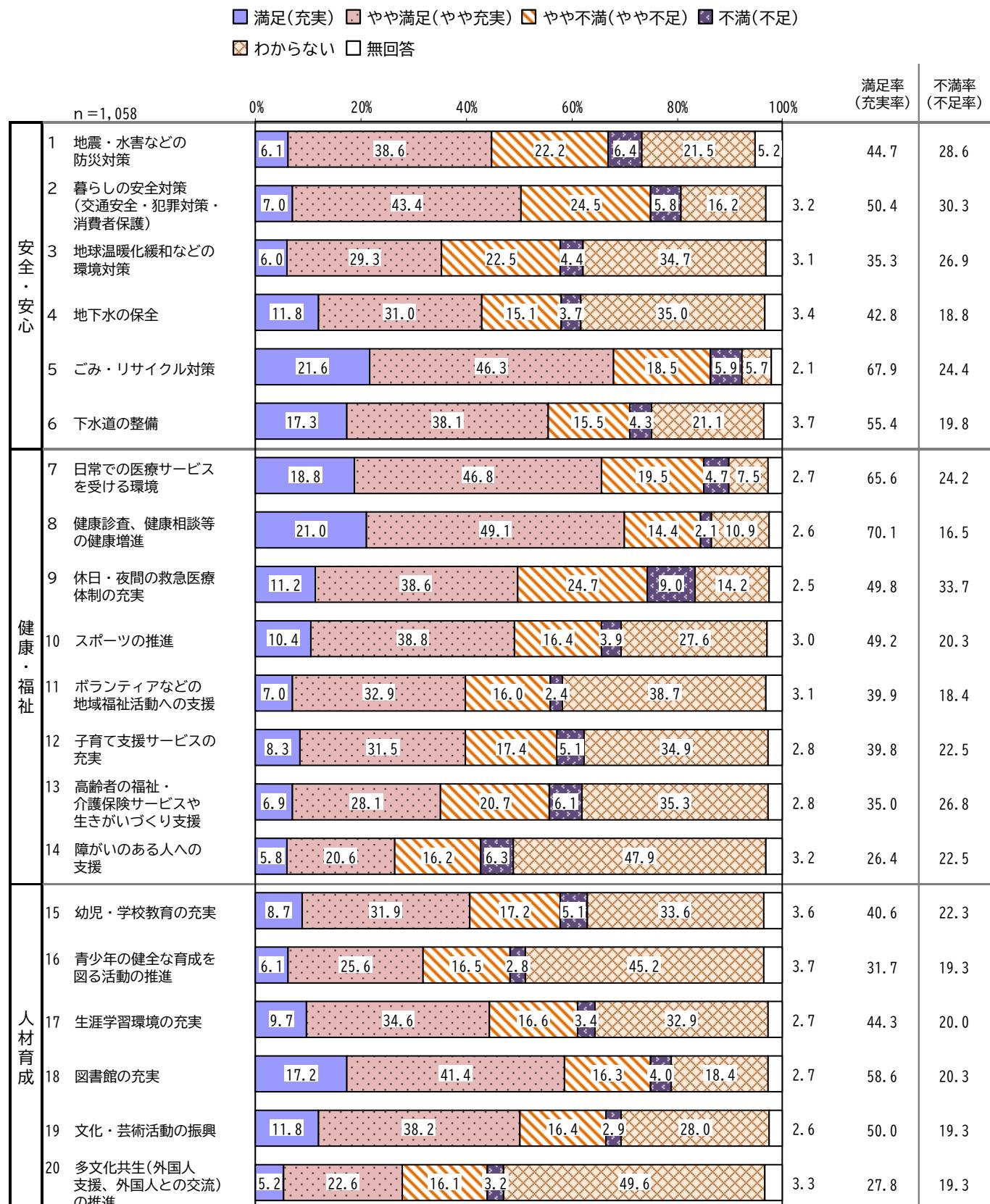
– 三島市の施策の“満足率”は『せせらぎと緑や花を活かしたまちづくり』が 81.7% –

– “不満率”は『生活道路・歩道の整備』が 57.8% –

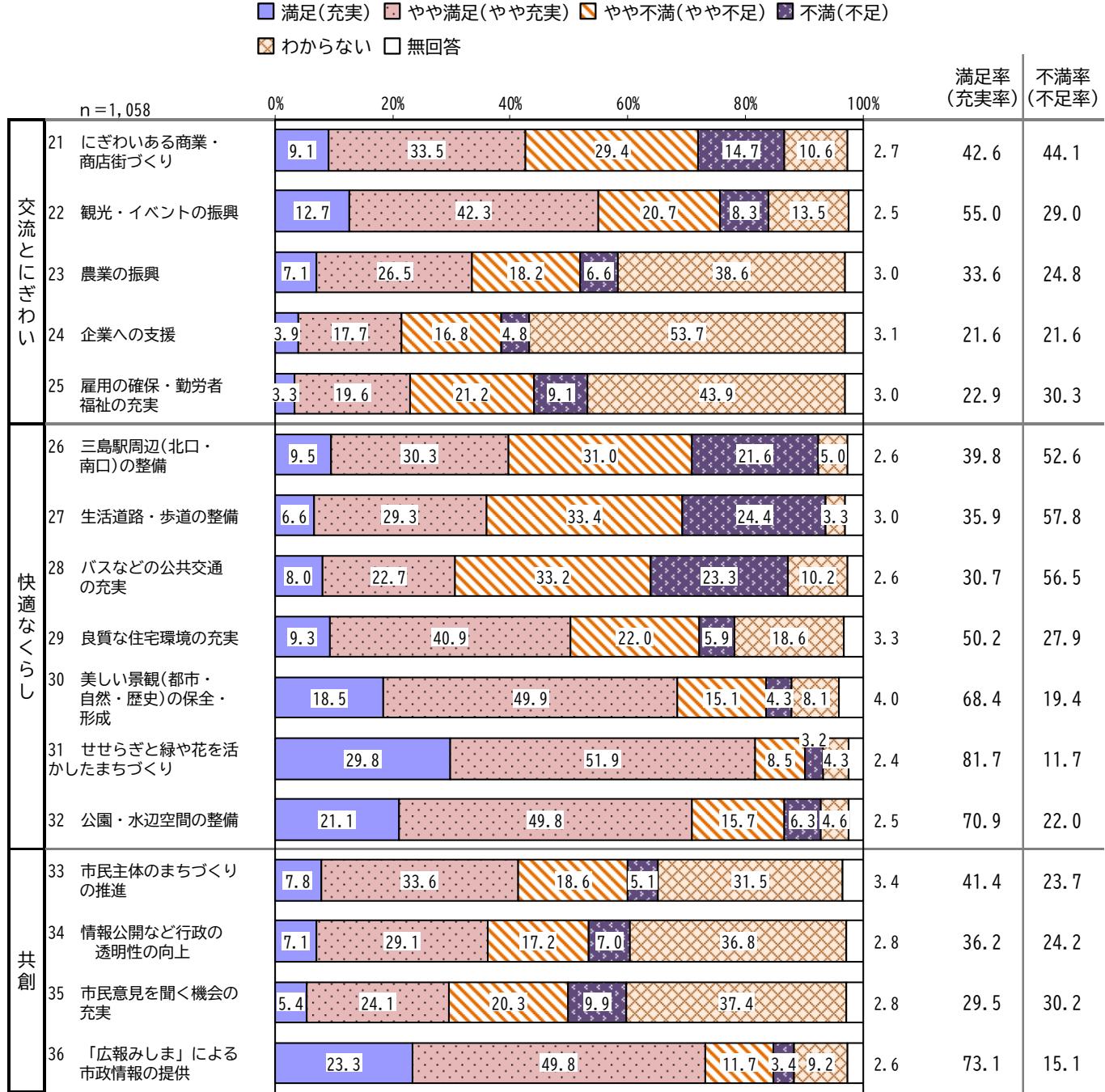
三島市の施策に対する満足（充実）率について聞いたところ、“満足率”は、安全・安心に関する項目では『5 ごみ・リサイクル対策』(67.9%)、健康・福祉に関する項目では『8 健康診査、健康相談等の健康増進』(70.1%)、人材育成に関する項目では『18 図書館の充実』(58.6%)、交流とにぎわいに関する項目では『22 観光・イベントの振興』(55.0%)、快適なくらしに関する項目では『31 せせらぎと緑や花を活かしたまちづくり』(81.7%)、共創に関する項目では『36 「広報みしま」による市政情報の提供』(73.1%) が最も高くなっています。

“不満率”は、安全・安心に関する項目では『2 暮らしの安全対策（交通安全・犯罪対策・消費者保護）』(30.3%)、健康・福祉に関する項目では『9 休日・夜間の救急医療体制の充実』(33.7%)、人材育成に関する項目では『15 幼児・学校教育の充実』(22.3%)、交流とにぎわいに関する項目では『21 にぎわいある商業・商店街づくり』(44.1%)、快適なくらしに関する項目では『27 生活道路・歩道の整備』(57.8%)、共創に関する項目では『35 市民意見を聞く機会の充実』(30.2%) が最も高くなっています。

II 調査結果



満足率(充実率)=「満足(充実)」+「やや満足(やや充実)」
 不満率(不足率)=「やや不満(やや不足)」+「不満(不足)」



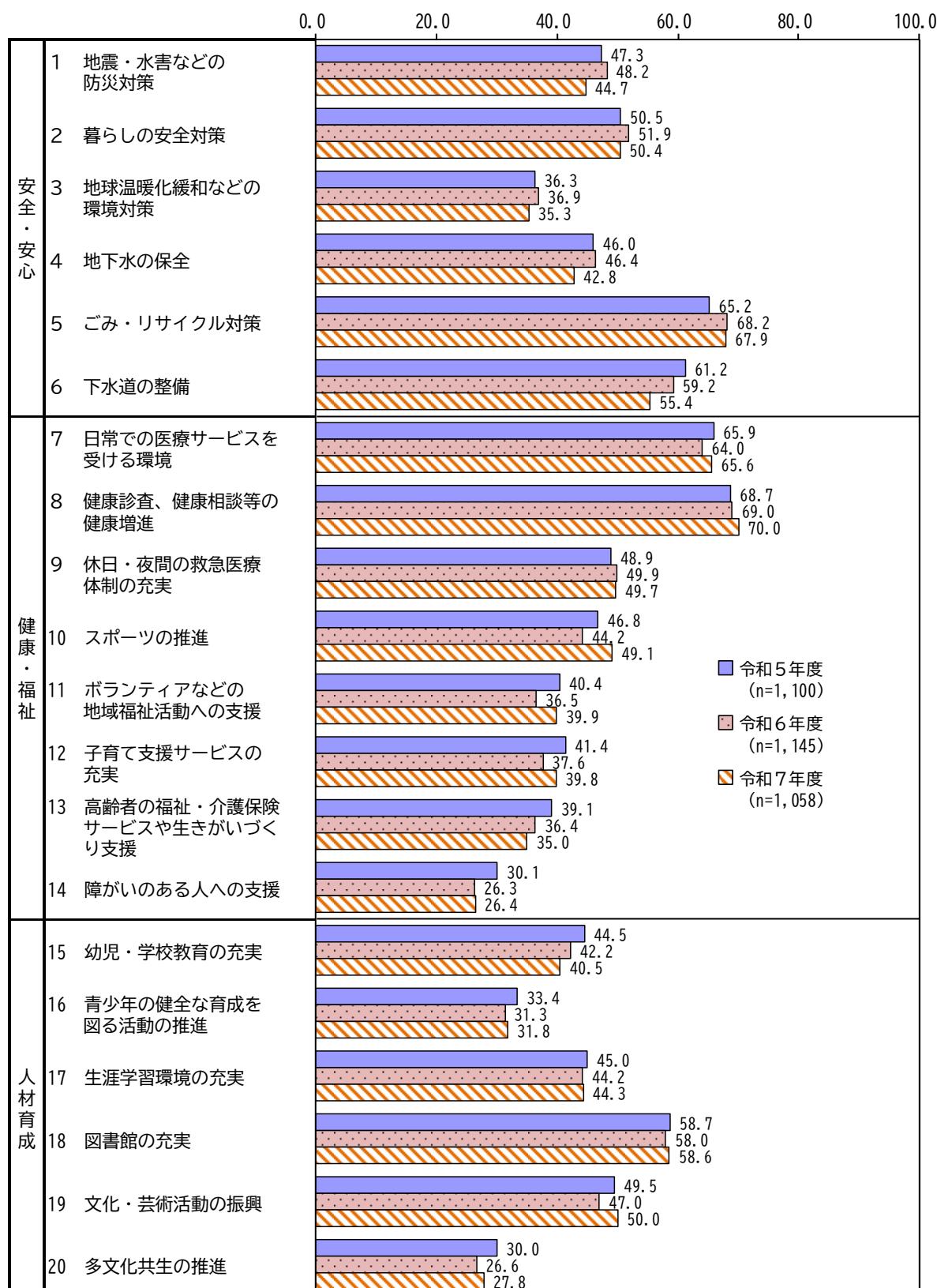
満足率(充実率)=「満足(充実)」+「やや満足(やや充実)」
 不満率(不足率)=「やや不満(やや不足)」+「不満(不足)」

II 調査結果

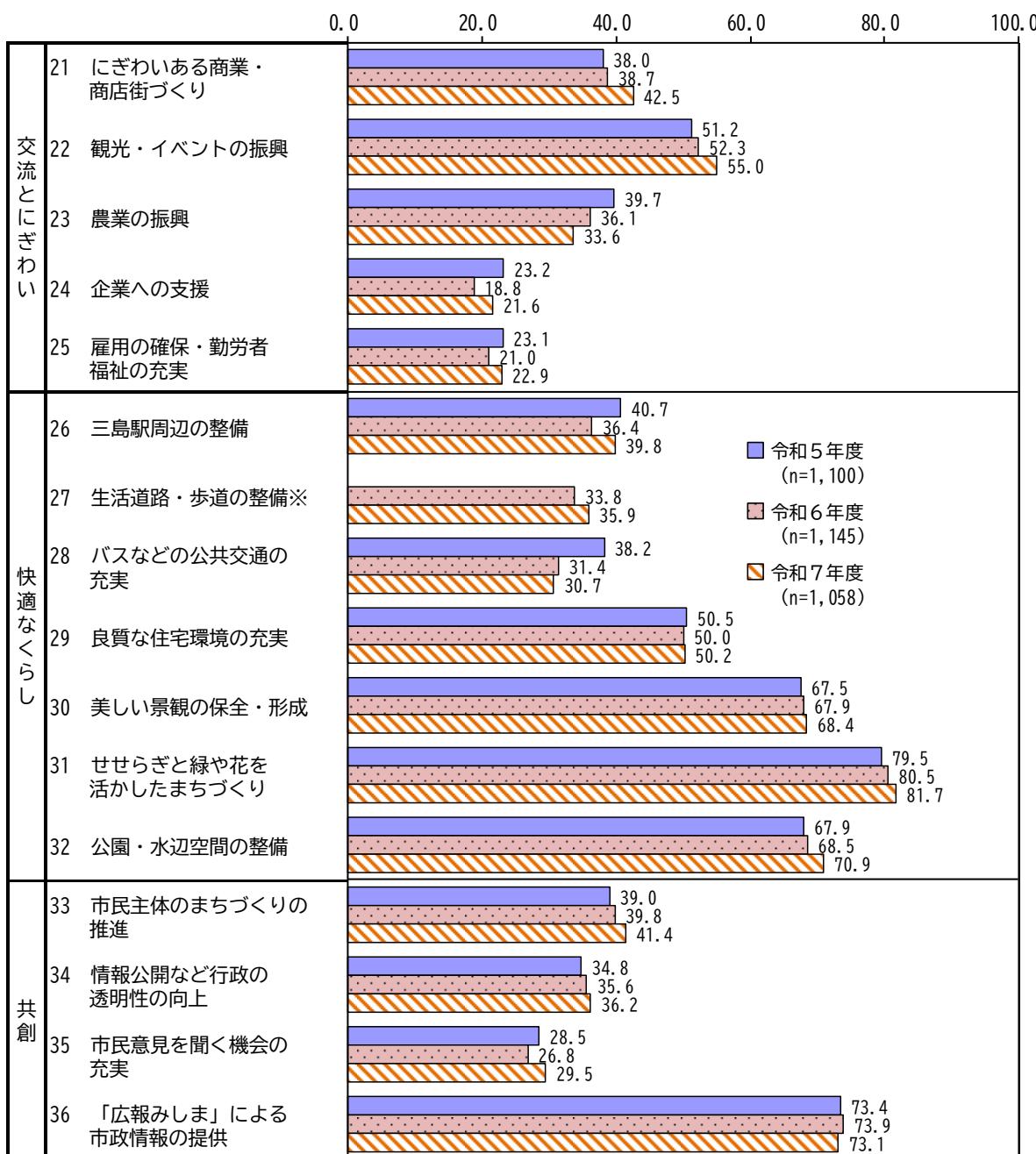
【経年比較】

① 満足率

過去調査と比較すると、満足率は令和5年度と全体的な傾向はあまり変化がありません。安全・安心に関する項目ではいずれの施策でも令和6年度より満足率が下がっているのに対し、健康・福祉に関する項目では『9 休日・夜間の救急医療体制の充実』と『13 高齢者の福祉・介護保険サービスや生きがいづくり支援』以外の施策、人材育成に関する項目では『15 幼児・学校教育の充実』以外の施策の満足率が、令和6年度より上がっています。



交流とにぎわいに関する項目では『21 にぎわいある商業・商店街づくり』が3.8ポイント上がっています。快適なくらしに関する項目では『26 三島駅周辺（北口・南口）の整備』が3.5ポイント上がっています。共創に関する項目では令和5年度よりあまり変化ありません。

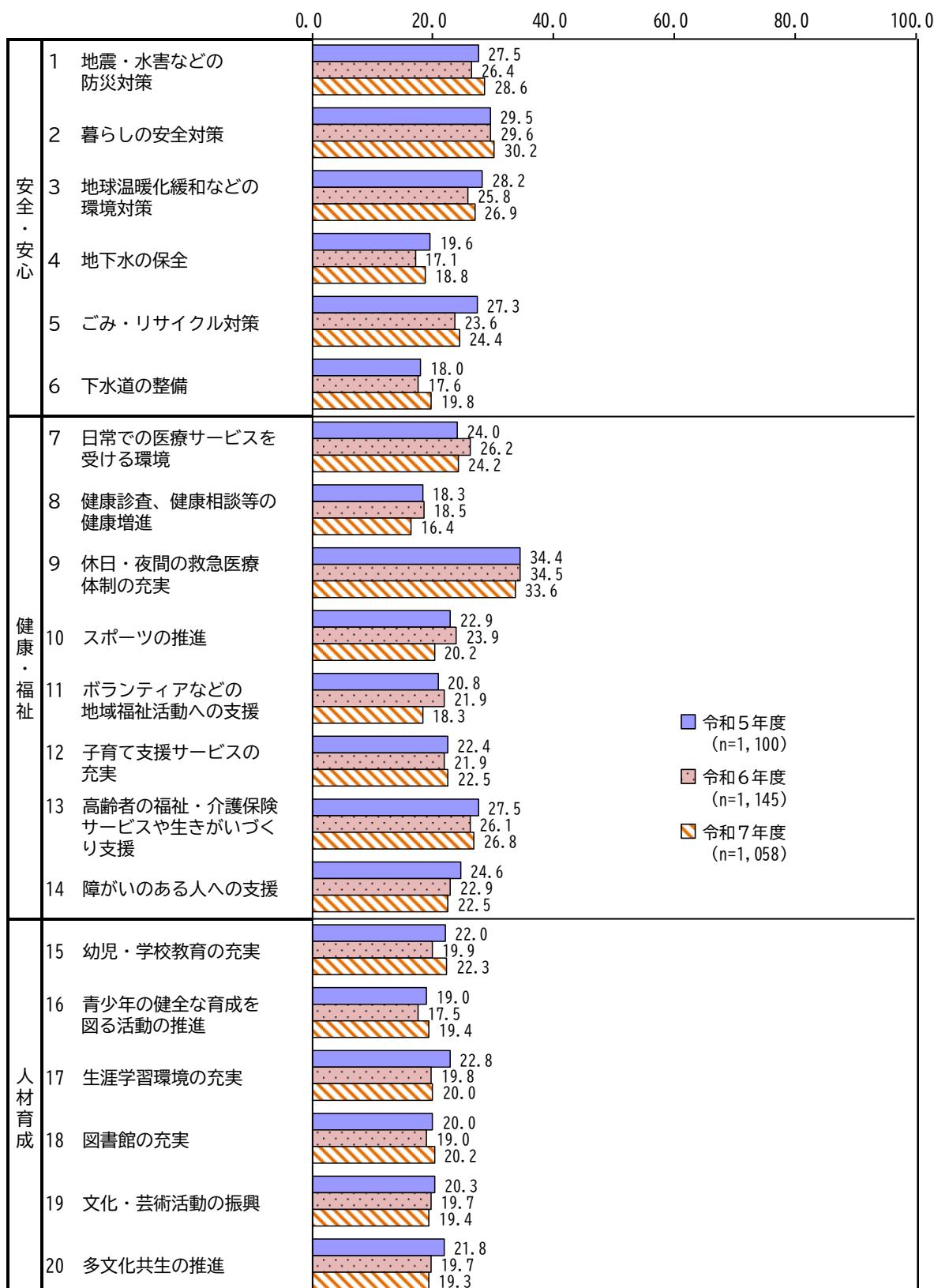


※「27 生活道路・歩道の整備」は令和5年度の「歩道の整備」と「生活道路の整備」を統合したため、記載なし。

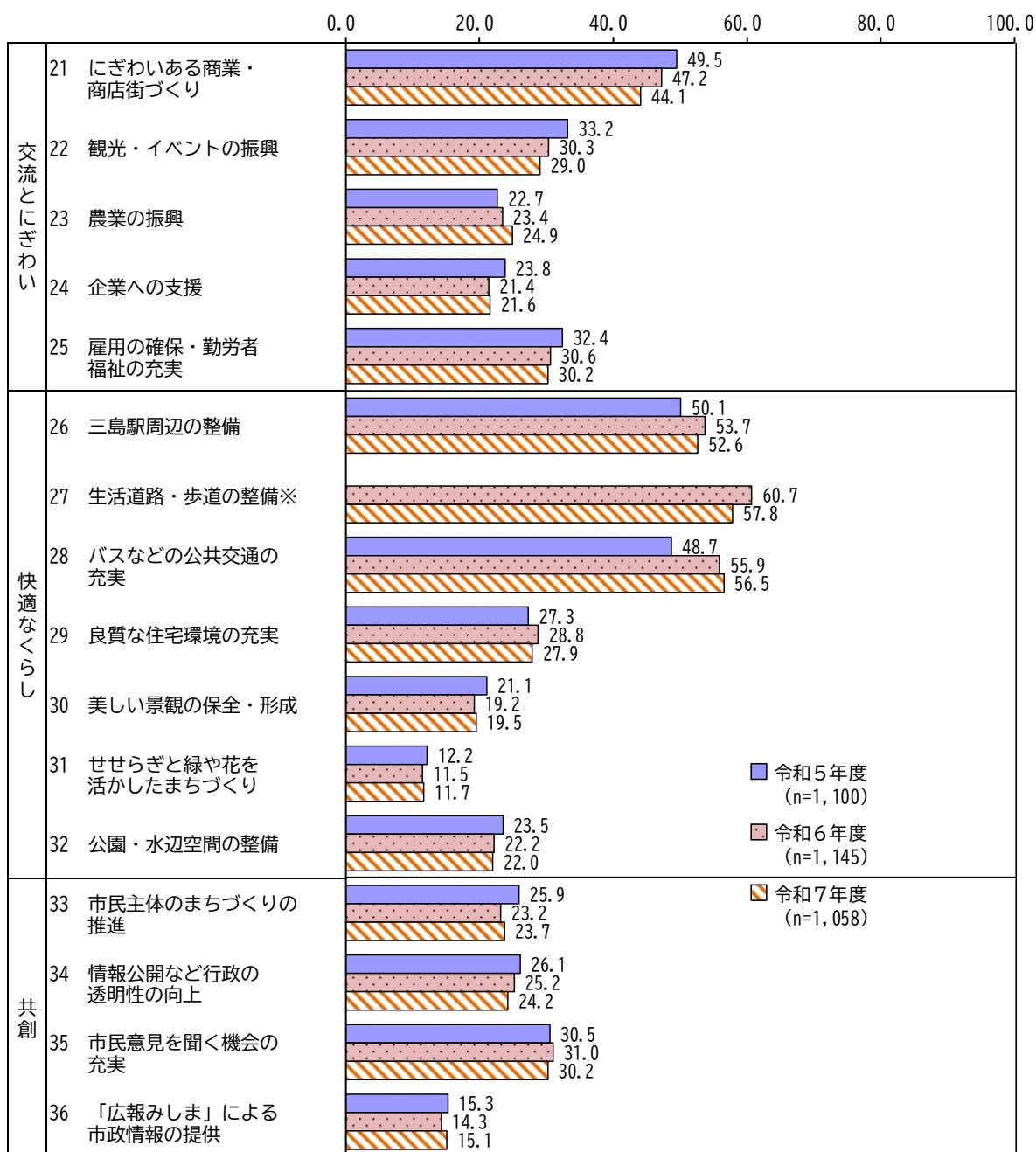
II 調査結果

不満率

過去調査と比較すると、安全・安心に関する項目ではすべての施策の不満率が、令和6年度より上がっています。健康・福祉に関する項目では『12 子育て支援サービスの充実』と『13 高齢者の福祉・介護保険サービスや生きがいづくり支援』以外の施策で不満率が令和6年度より下がっているのに対し、人材育成に関する項目では『19 文化・芸術活動の振興』と『20 多文化共生の推進』以外の施策の不満率が、令和6年度より上がっています。



交流とにぎわいに関する項目では『23 農業の振興』と『24 企業への支援』以外のすべての施策の不満率が、令和5年度より下がっています。快適なくらしに関する項目では『27 生活道路・歩道の整備』が令和6年度より2.9ポイント下がっています。共創に関する項目では令和6年度よりあまり変化ありません。



II 調査結果

【ウェイトづけによる満足度比較】

36 項目の質問項目について、「満足度」を4つの選択肢の中から回答してもらい、下記の手順で得点化し、分析を行いました。

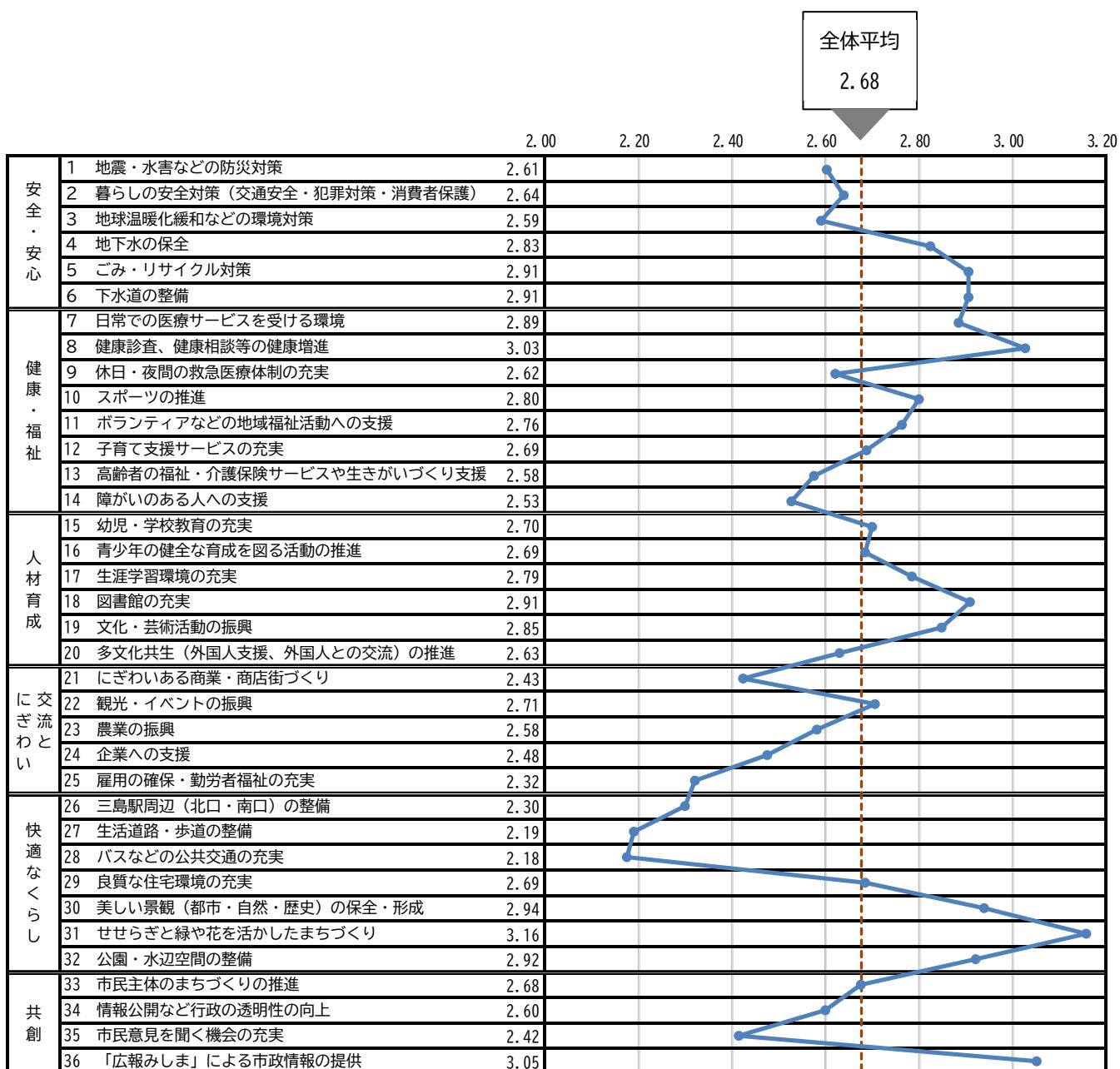
満足度	得点
満足(充実)	4点
やや満足(やや充実)	3点
やや不満(やや不足)	2点
不満(不足)	1点
わからない・無回答	計算対象外

満足度	得点
満足(充実)	4点
やや満足(やや充実)	3点
やや不満(やや不足)	2点
不満(不足)	1点
わからない・無回答	計算対象外

得点の算出式
4点×「満足」の回答数
+3点×「やや満足」の回答数
+2点×「やや不満」の回答数
+1点×「不満」の回答数
÷「わからない」「無回答」を除く回答数

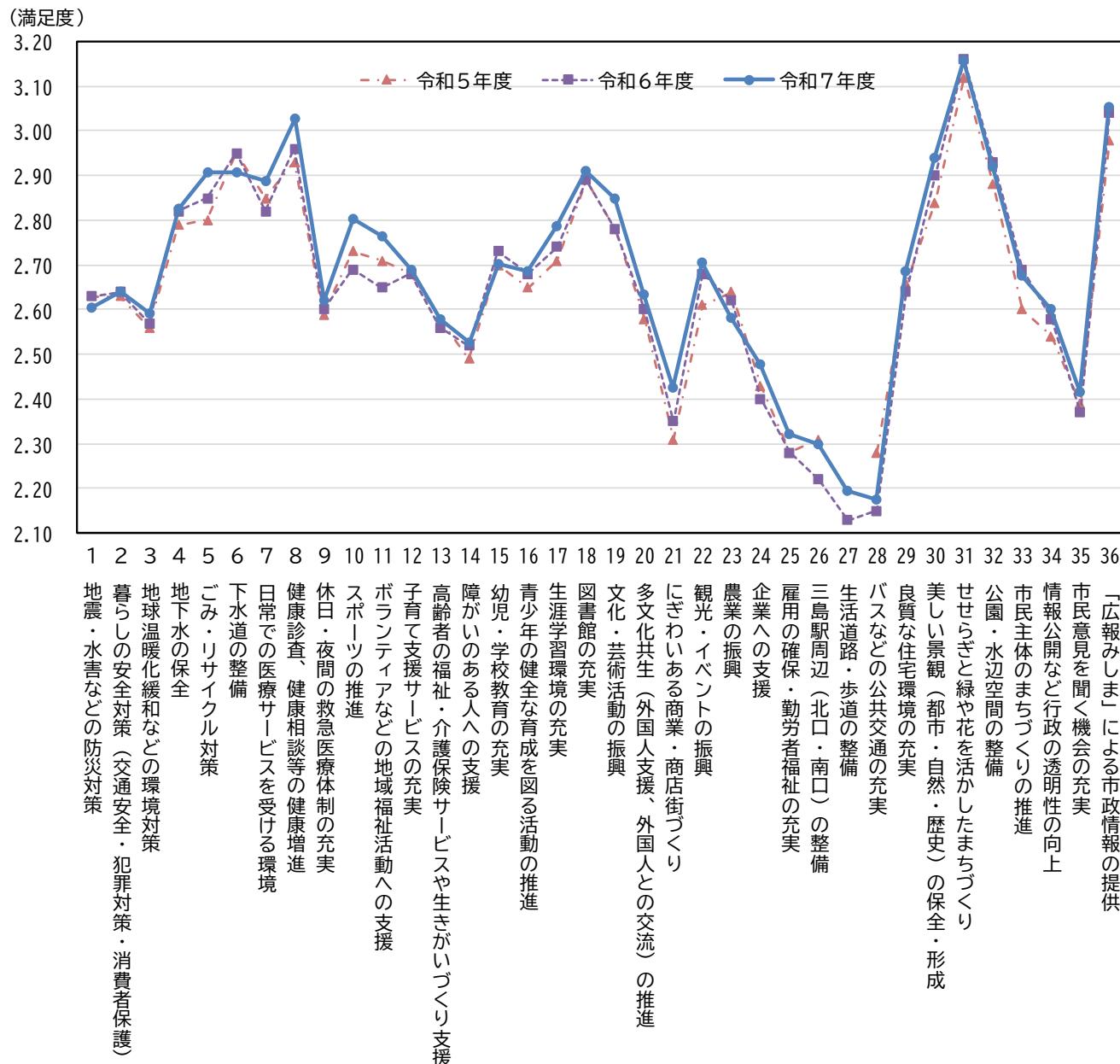
『31 せせらぎと緑や花を活かしたまちづくり』『36 「広報みしま」による市政情報の提供』『8 健康診査、健康相談等の健康増進』が高くなっています。

一方、『27 生活道路・歩道の整備』『28 バスなどの公共交通の充実』『26 三島駅周辺（北口・南口）の整備』が低くなっています。



【ウェイトづけによる満足度の経年比較】

過去調査と比較すると、満足度の全体的な傾向は令和6年度よりあまり変化ありませんが、『10 スポーツの推進』と『11 ボランティアなどの地域福祉活動への支援』が0.1ポイント上がっています。



※令和5年度では、「27 生活道路・歩道の整備」の選択肢が「歩道の整備」と「生活道路の整備」に分かれていたため、比較していません。

II 調査結果

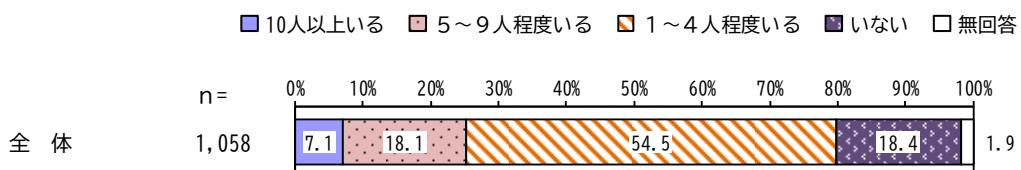
4 『各種計画の指標に関する項目』について

(1) 近所に助け合う人の有無

問6 近所に助け合うことができる人がいますか。(○は一つ)

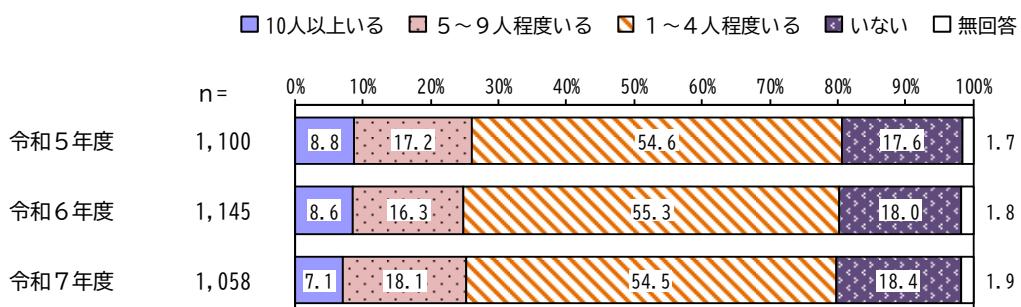
– 近所に助け合うことができる人が「1～4人程度いる」は 54.5% –

近所に助け合うことができる人がいるかについて、「1～4人程度いる」が 54.5% と 5 割半ばを占めて最も高く、次いで「いない」が 18.4%、「5～9人程度いる」が 18.1% と続いています。



【経年比較】

過去調査と比較すると、令和6年度とあまり変化がありません。

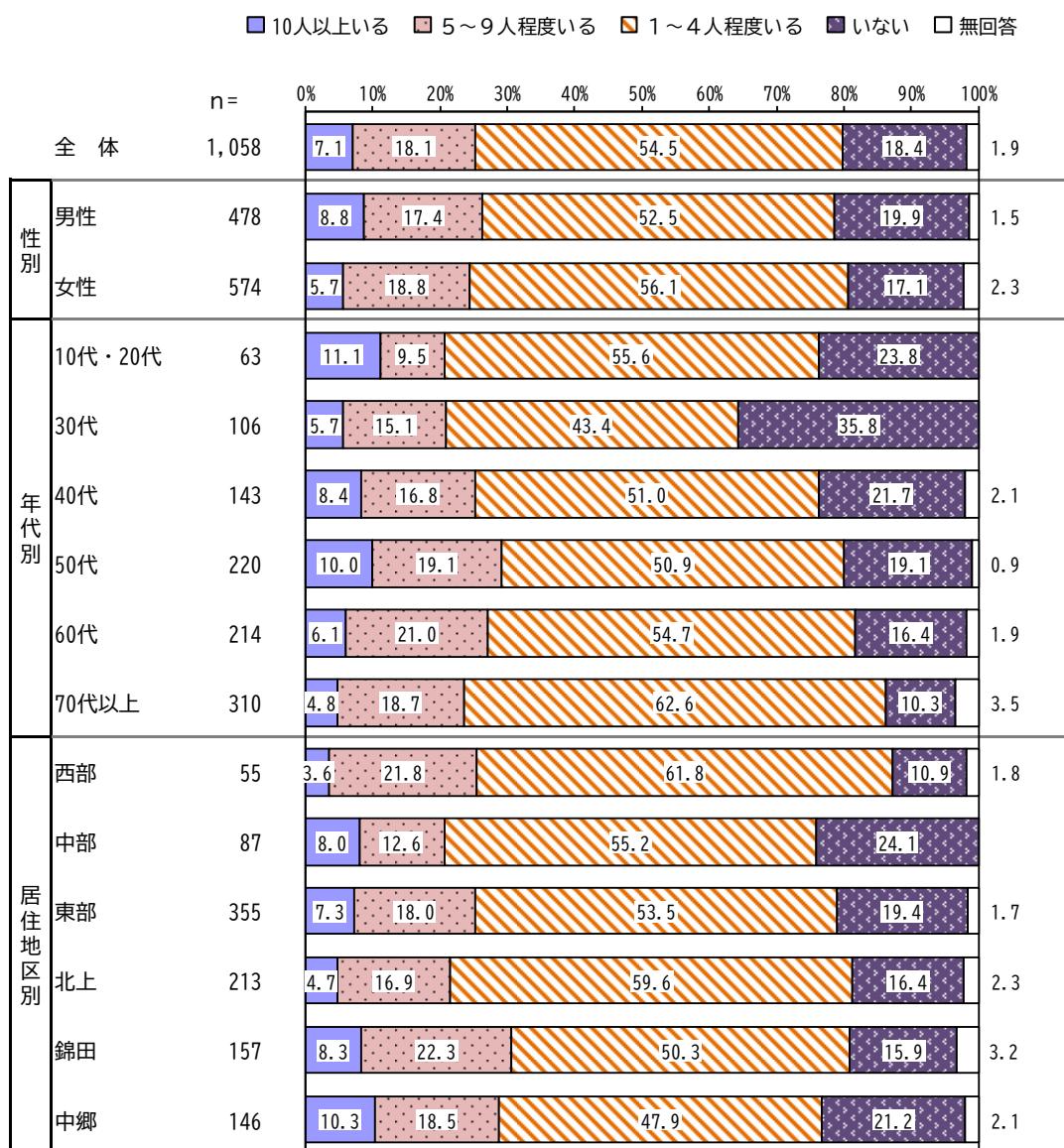


【属性比較別】

性別でみると、「1～4人程度いる」は、男性（52.5%）より女性（56.1%）の割合が高くなっています。

年代別でみると、「いない」は、30代（35.8%）が3割半ばを占めて最も高くなっています。

居住地区別でみると、「1～4人程度いる」は、西部（61.8%）が6割を超えて最も高くなっています。



II 調査結果

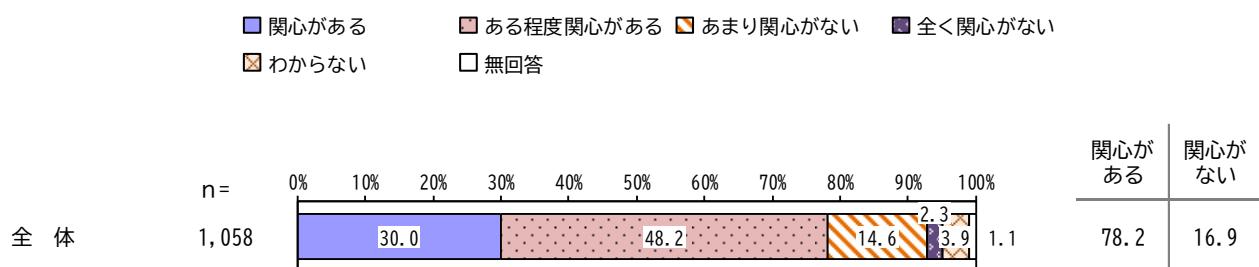
(2) 食育についての関心

問7 食育(食に関する知識や食を選択する力を身に付けること)に関心がありますか。(○は一つ)

- 食育に“関心がある”割合は 78.2% -

食育に関心があるかについて、「関心がある」(30.0%) と「ある程度関心がある」(48.2%) を合わせた “関心がある” は 78.2% となっています。

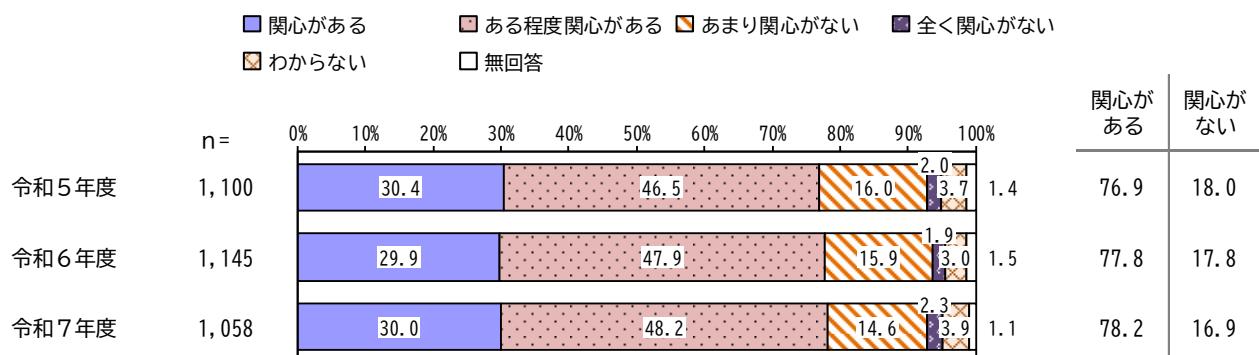
「あまり関心がない」(14.6%) と「全く関心がない」(2.3%) を合わせた “関心がない” は 16.9% となっています。



関心がある＝「関心がある」+「ある程度関心がある」
関心がない＝「あまり関心がない」+「全く関心がない」

【経年比較】

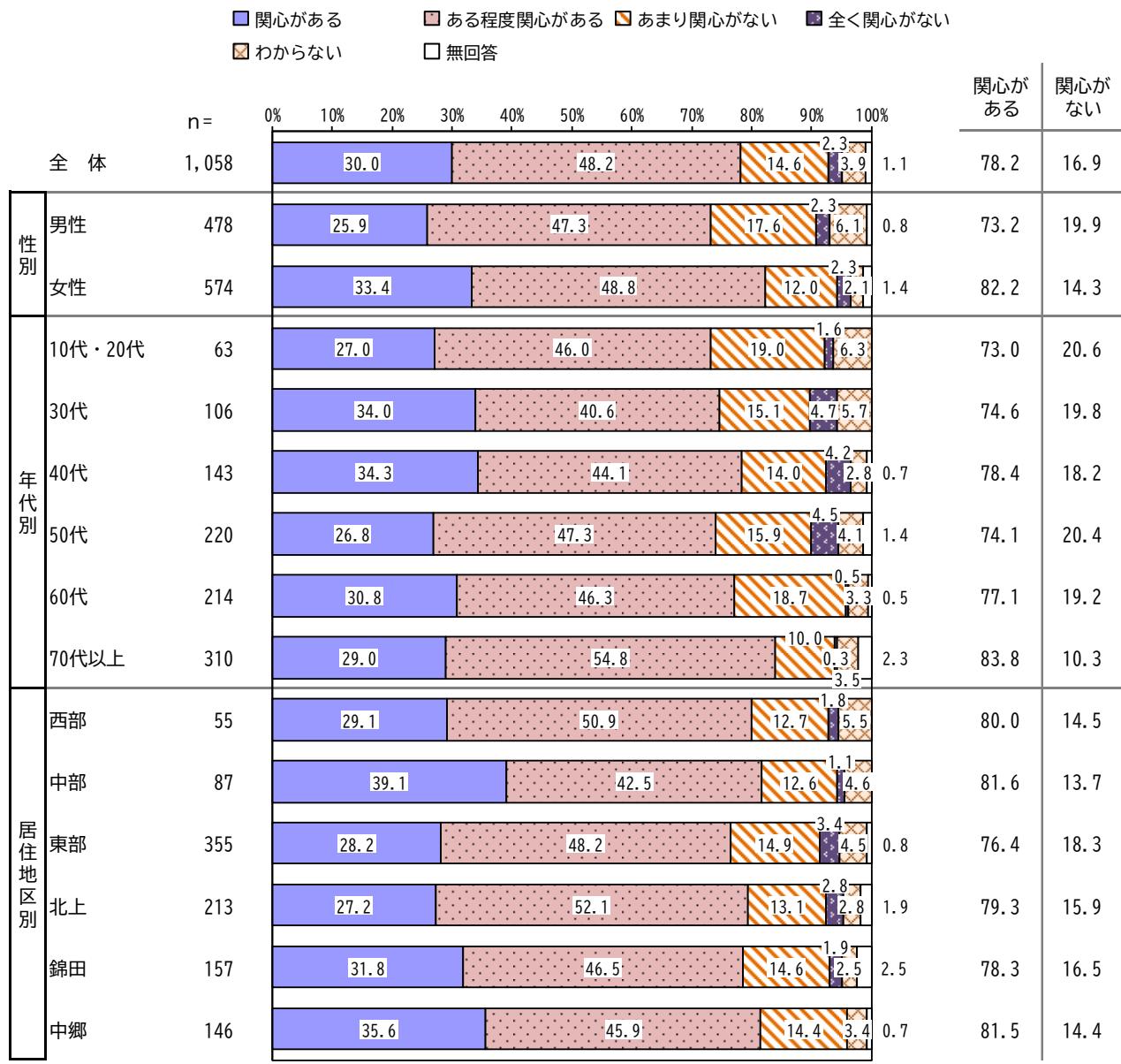
過去調査と比較すると、令和5年度以降 “関心がある” に増加傾向がみられます。



関心がある＝「関心がある」+「ある程度関心がある」
関心がない＝「あまり関心がない」+「全く関心がない」

【属性比較別】

性別でみると、“関心がある”は、男性（73.2%）より女性（82.2%）の割合が高くなっています。
 年代別でみると、“関心がある”は、70代以上（83.8%）が8割を超えて最も高くなっています。
 居住地区別でみると、“関心がある”は、東部（76.4%）が他の地区よりやや低くなっています。



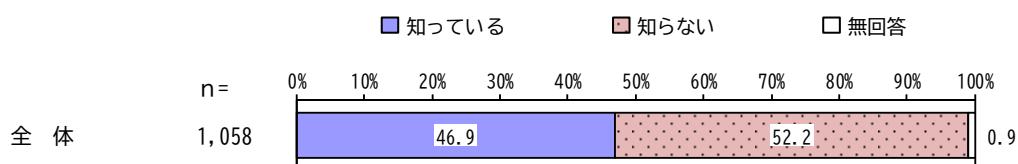
II 調査結果

(3) 消費生活センターの認知状況

問8 三島市役所に消費生活センター(通信販売や契約などのトラブルに関する消費生活相談窓口)があることを知っていますか。(○は一つ)

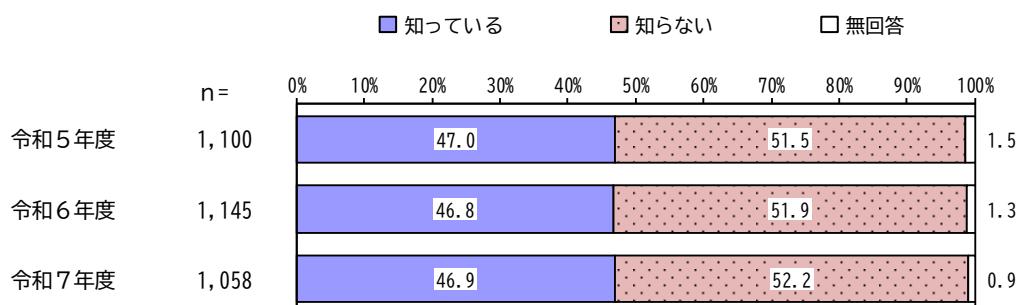
– 消費生活センターの認知状況は「知っている」が 46.9% –

三島市役所にある消費生活センターの認知状況について、「知っている」が 46.9%、「知らない」が 52.2% となっています。



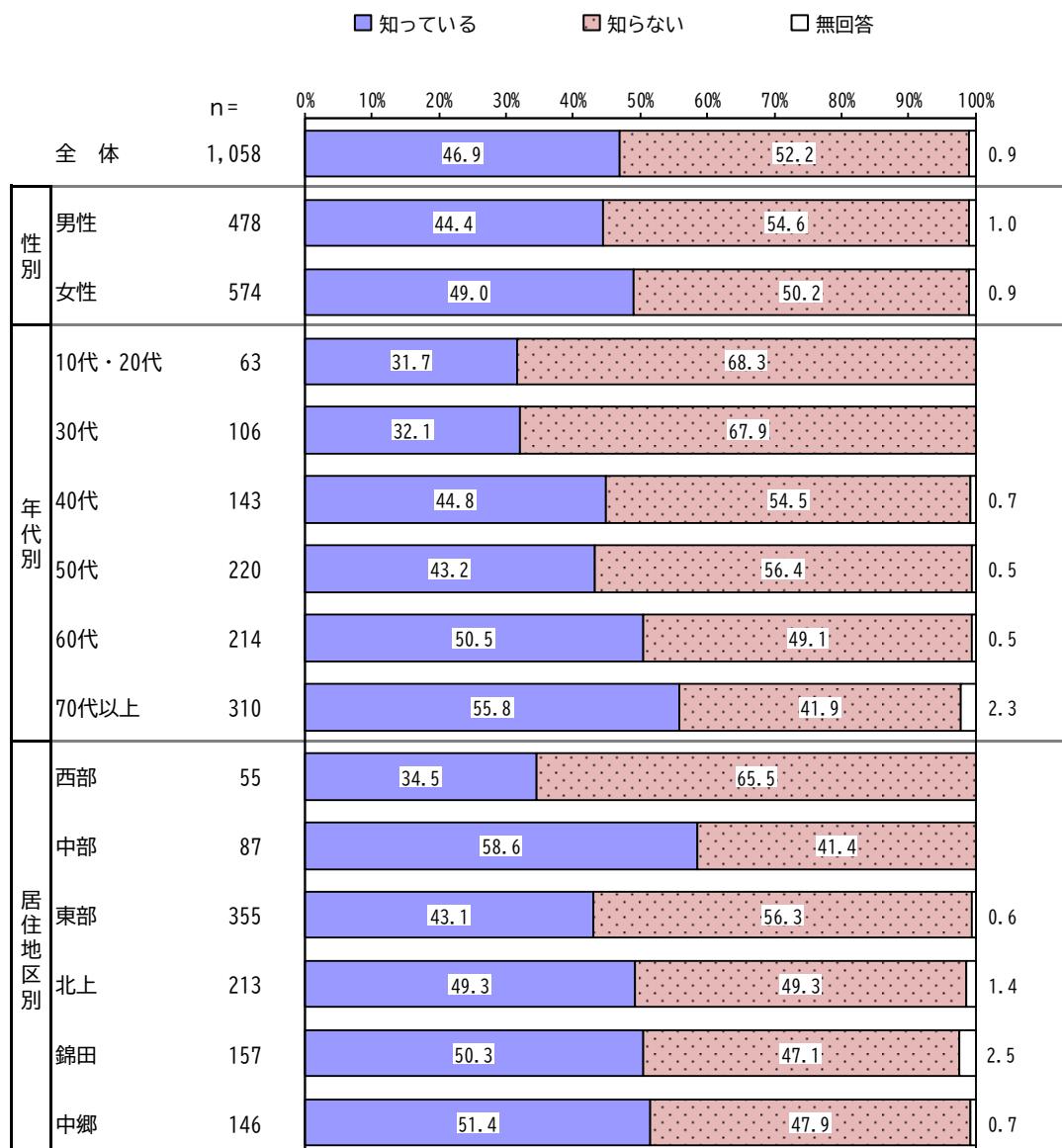
【経年比較】

過去調査と比較すると、令和6年度とあまり変化がありません。



【属性比較別】

性別でみると、「知っている」は、男性（44.4%）より女性（49.0%）の割合が高くなっています。
 年代別でみると、「知っている」は、60代（50.5%）と70代以上（55.8%）で5割台と高く、10代・20代（31.7%）と30代（32.1%）で3割台と低くなっています。
 居住地区別でみると、「知っている」は、中部（58.6%）が6割近くを占めて最も高くなっています。



II 調査結果

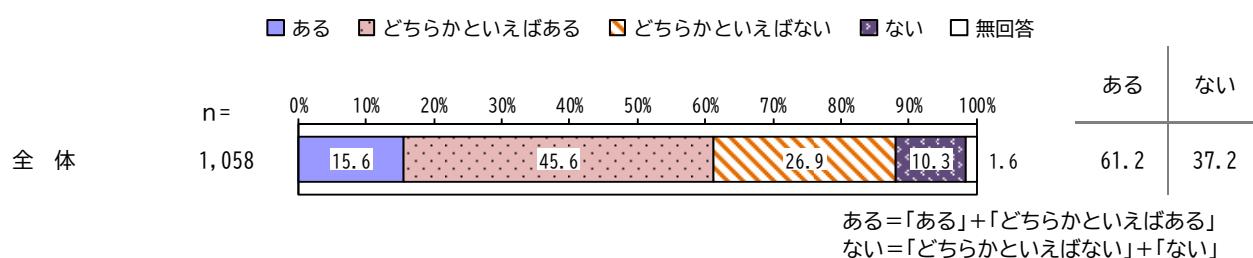
(4) エシカル消費への意識

問9 商品やサービスを選択する際に、環境への配慮、地産地消、障がい者支援など社会貢献につながる消費(エシカル消費)を意識することがありますか。(○は一つ)

– エシカル消費を意識することが“ある”は 61.2% –

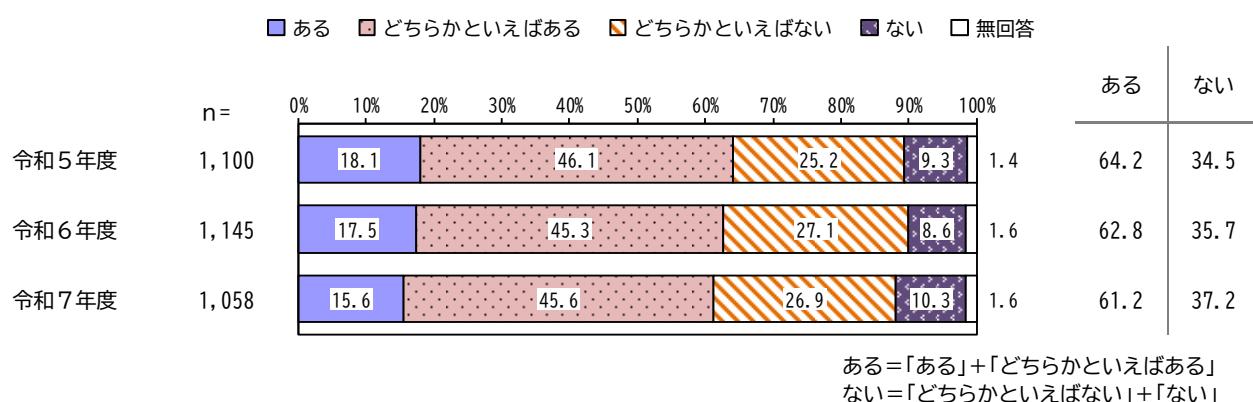
エシカル消費への意識について、「ある」(15.6%) と「どちらかといえばある」(45.6%) を合わせた“ある”は 61.2% となっています。

一方、「どちらかといえばない」(26.9%) と「ない」(10.3%) を合わせた“ない”は 37.2% となっています。



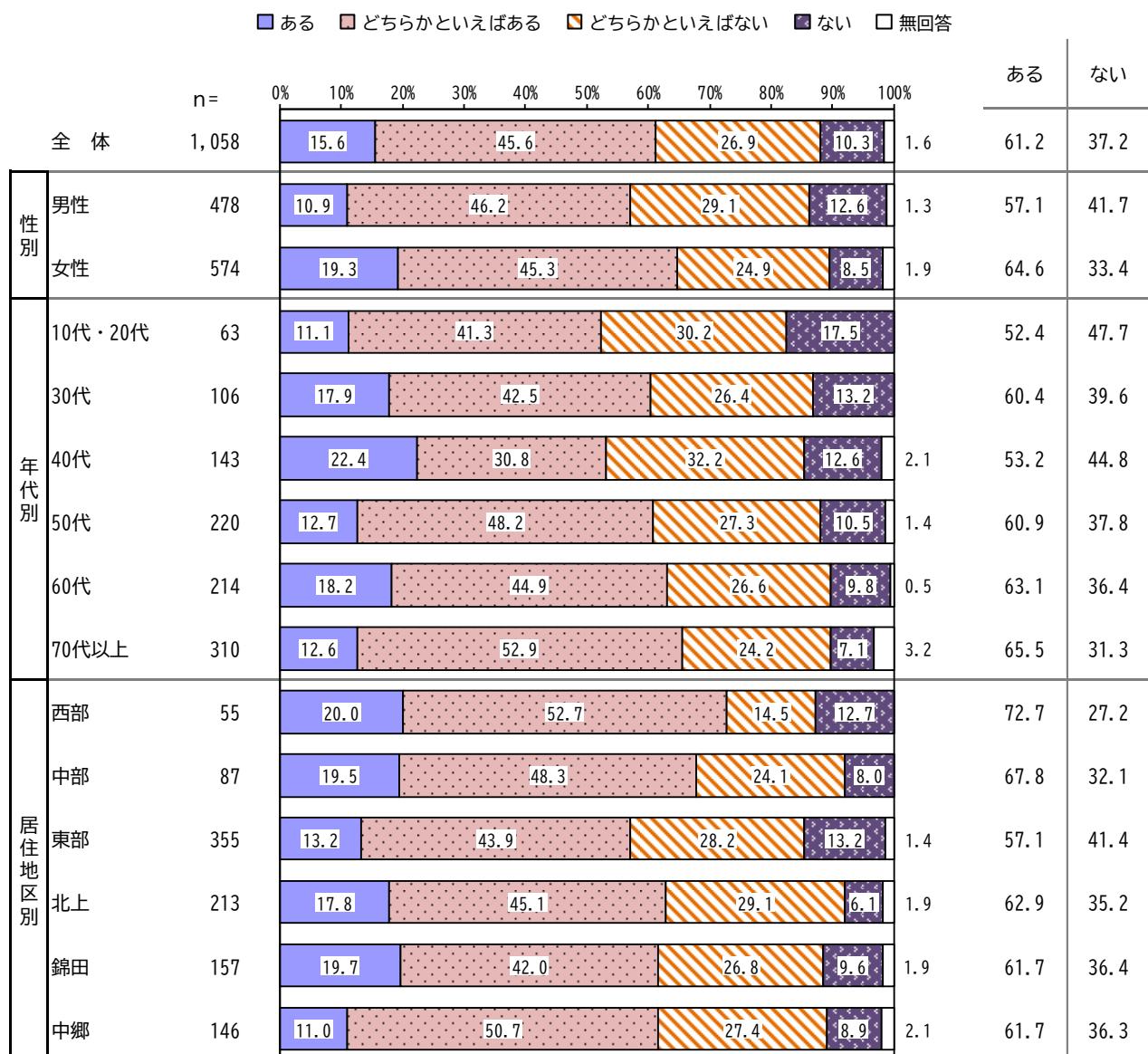
【経年比較】

過去調査と比較すると、令和6年度とあまり変化がありません。



【属性比較別】

性別でみると、“ある”は、男性（57.1%）より女性（64.6%）の割合が高くなっています。
 年代別でみると、“ある”は、10代・20代（52.4%）と40代（53.2%）で5割台と低くなっています。
 居住地区別でみると、“ある”は、西部（72.7%）が最も高くなっています。



ある=「ある」+「どちらかといえばある」
 ない=「どちらかといえばない」+「ない」

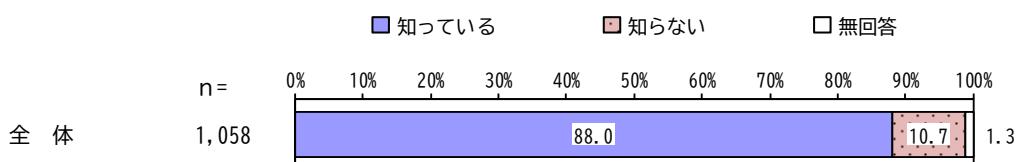
II 調査結果

(5) カスタマーハラスメント(カスハラ)の認知状況

問10 「カスタマーハラスメント(カスハラ)」という言葉を知っていますか。(○は一つ)

– カスタマーハラスメント(カスハラ)を「知っている」が 88.0% –

カスタマーハラスメント(カスハラ)について、「知っている」が 88.0%、「知らない」が 10.7%となっています。

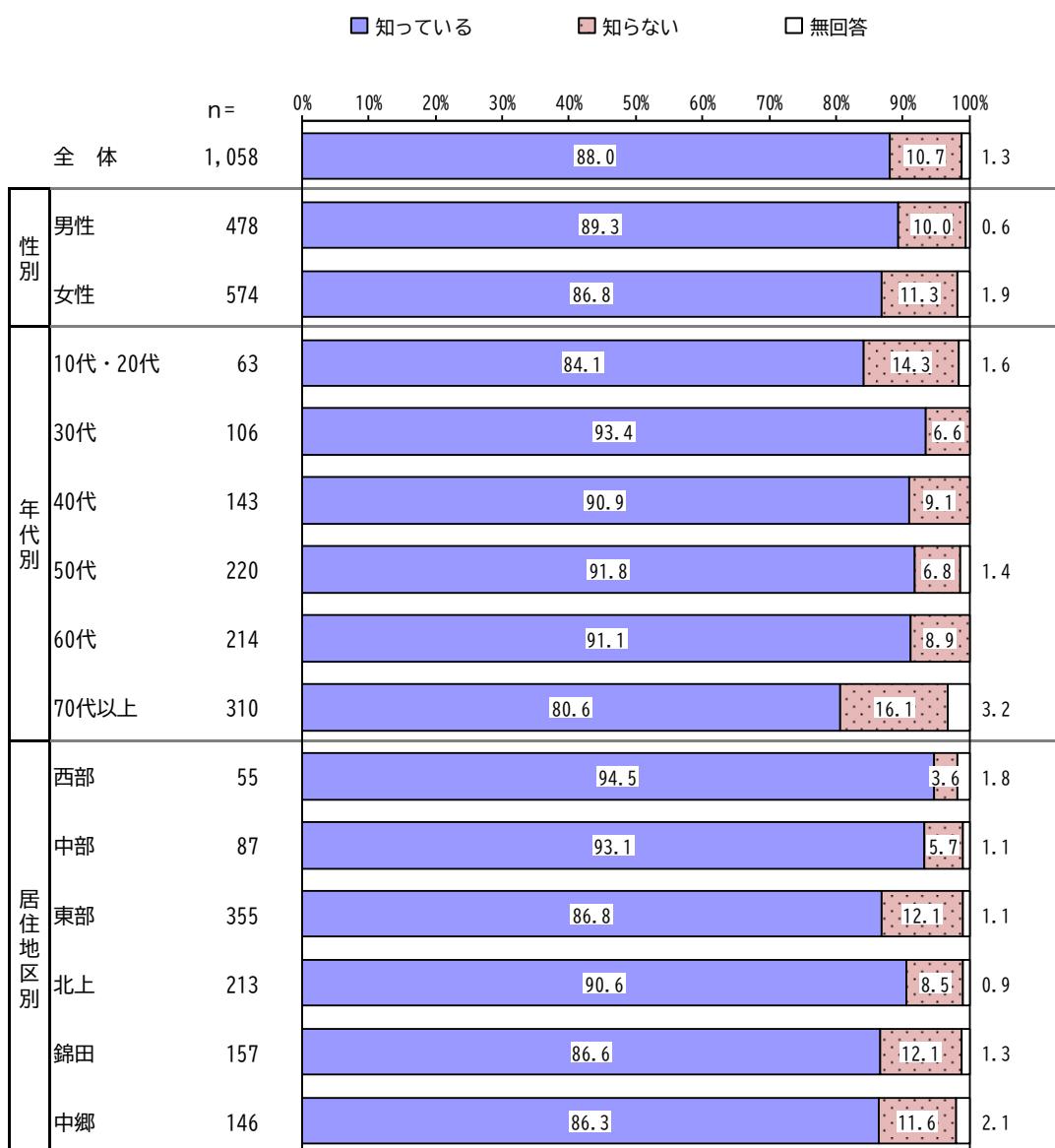


【属性比較別】

性別でみると、「知っている」は、男性 (89.3%) の割合が女性 (86.8%) より高くなっています。

年代別でみると、「知っている」は、30代～60代で9割台と高くなっています。

居住地区別でみると、「知っている」は、西部 (94.5%) と中部 (93.1%) が9割半ば程度で高くなっています。



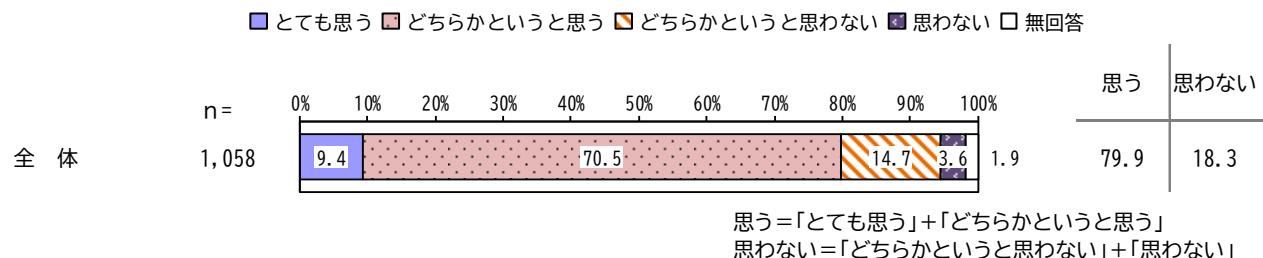
(6) 三島市の子育て環境状況

問11 三島市は、子育てしやすい環境であると思いますか。(○は一つ)

- 子育てしやすい環境と“思う”が 79.9% -

三島市が子育てしやすい環境であると思うかについて、「とても思う」(9.4%) と「どちらかというと思う」(70.5%) を合わせた“思う”が 79.9% となっています。

一方、「どちらかというと思わない」(14.7%) と「思わない」(3.6%) を合わせた“思わない”が 18.3% となっています。



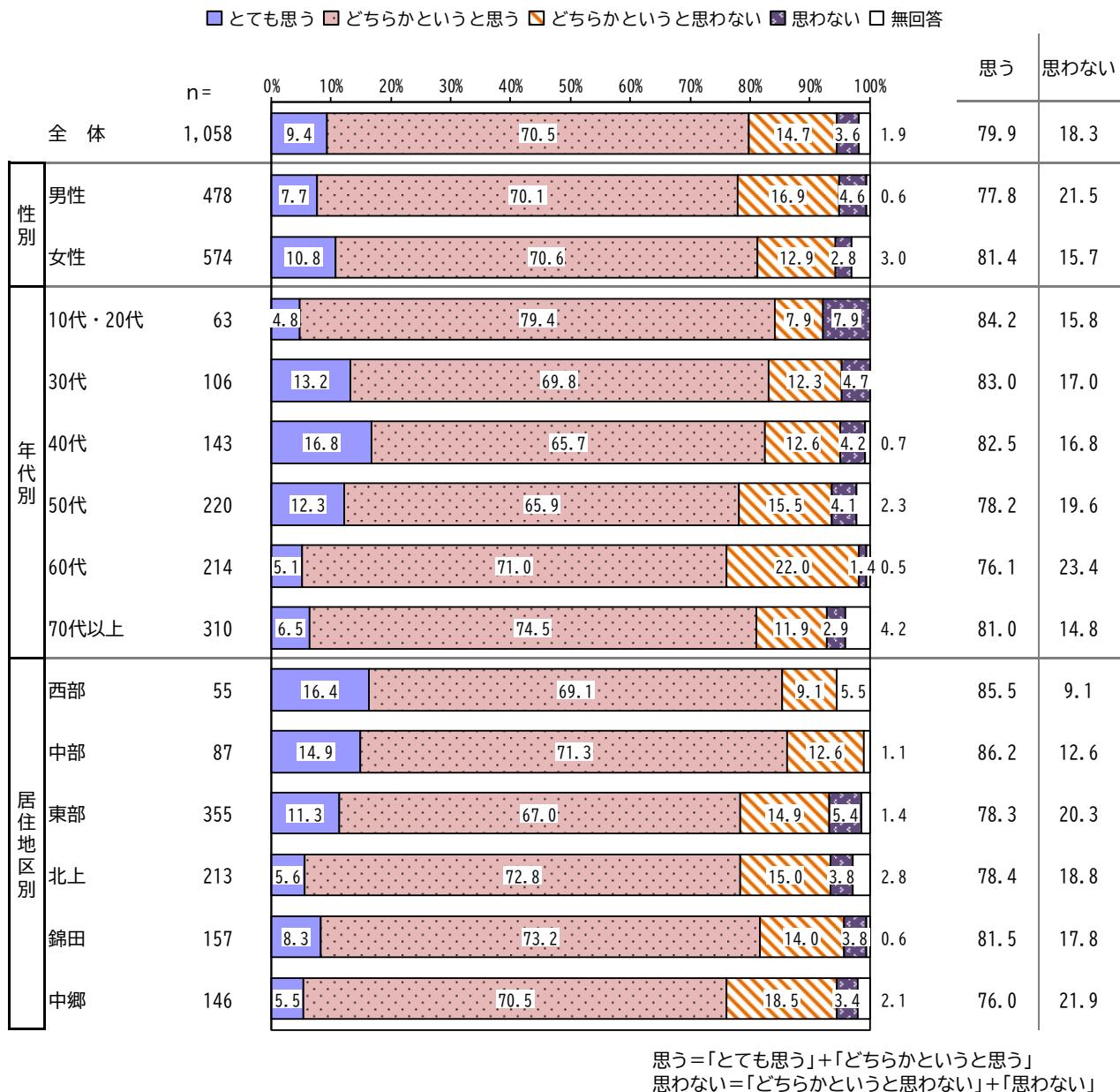
II 調査結果

【属性比較別】

性別でみると、“思う”は、男性（77.8%）より女性（81.4%）の割合が高くなっています。

年代別でみると、“思わない”は、60代（23.4%）が最も高くなっています。

居住地区別でみると、“思う”は、中郷（76.0%）が他の地区より低くなっています。

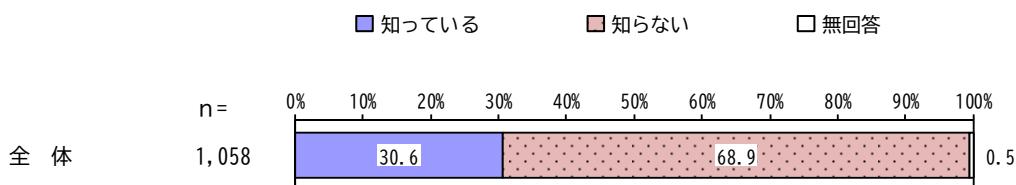


(7) 箱根八里の「日本遺産」認定の認知状況

問12 箱根八里が「日本遺産」に認定されていることを知っていますか。(○は一つ)

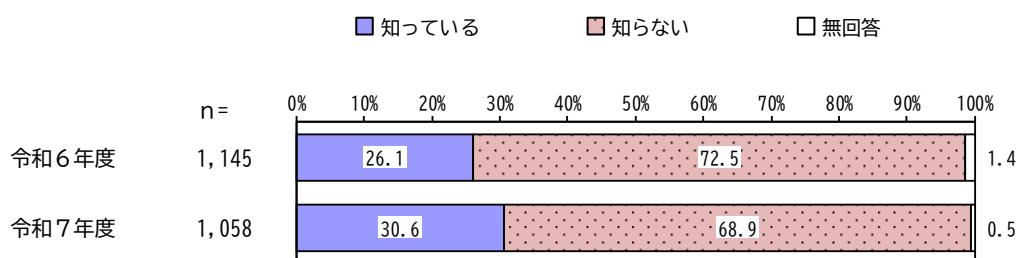
– 箱根八里が「日本遺産」に認定されていると「知っている」が 30.6% –

箱根八里が「日本遺産」認定されていることについて、「知っている」が 30.6%、「知らない」が 68.9% となっています。



【経年比較】

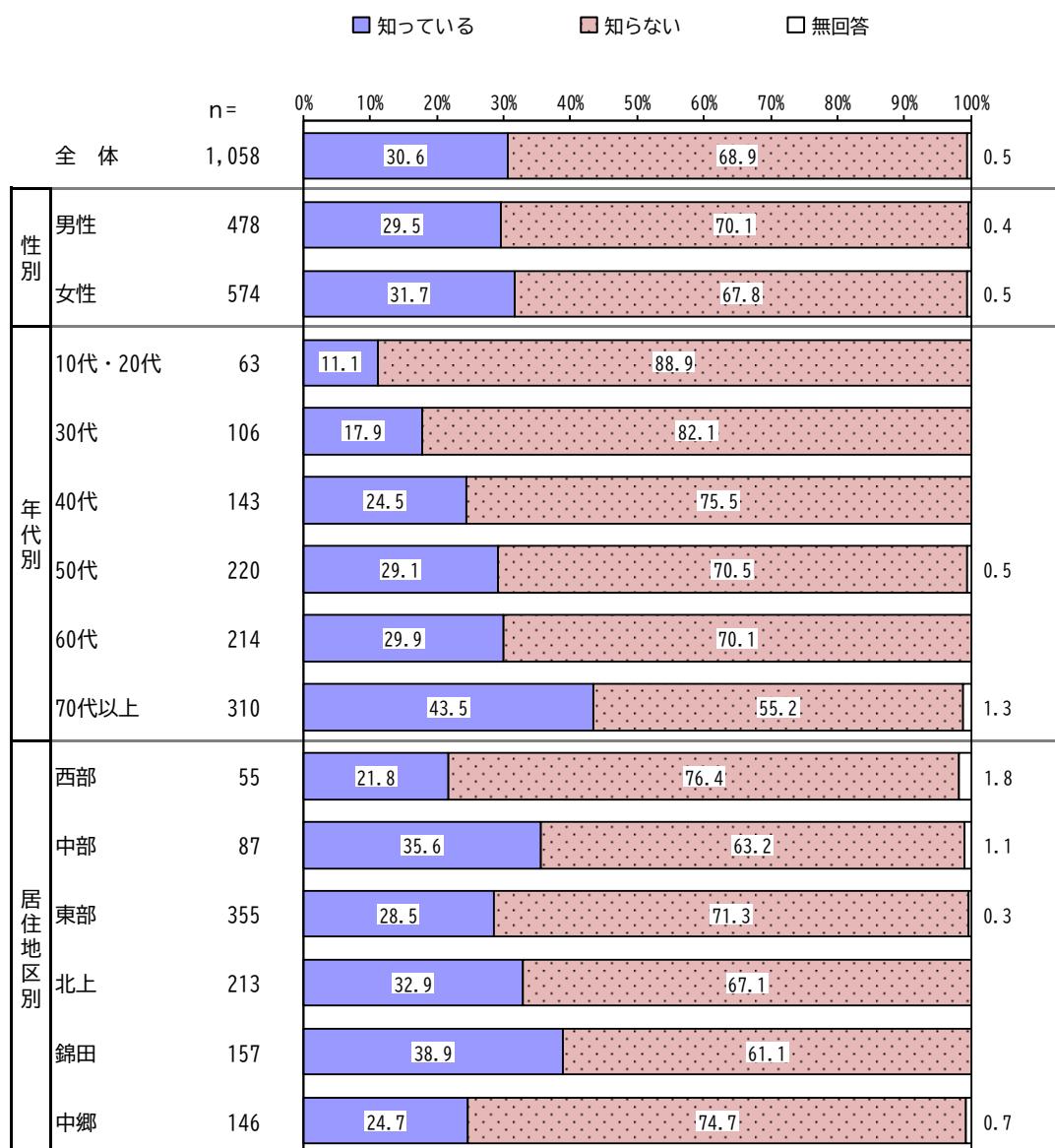
過去調査と比較すると、「知っている」の割合は令和6年度より 4.5 ポイント上がっています。



II 調査結果

【属性比較別】

性別でみると、「知っている」は、男性（29.5%）と女性（31.7%）で大きな差異はみられません。
 年代別でみると、「知っている」は、70代以上（43.5%）で4割を超えて最も高くなっています。
 居住地区別でみると、「知っている」は、錦田（38.9%）が4割近くを占めて最も高くなっています。

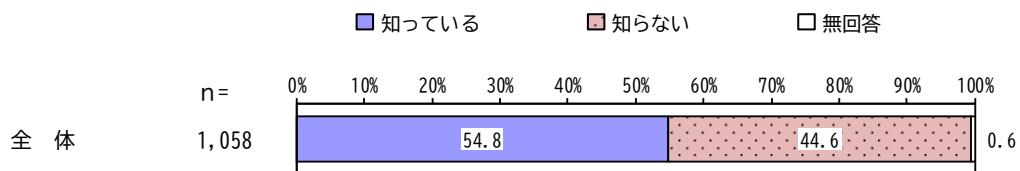


(8) 向山古墳公園の認知状況

問13 向山古墳公園を知っていますか。(○は一つ)

– 向山古墳公園を「知っている」が 54.8% –

向山古墳公園について、「知っている」が 54.8%、「知らない」が 44.6%となっています。

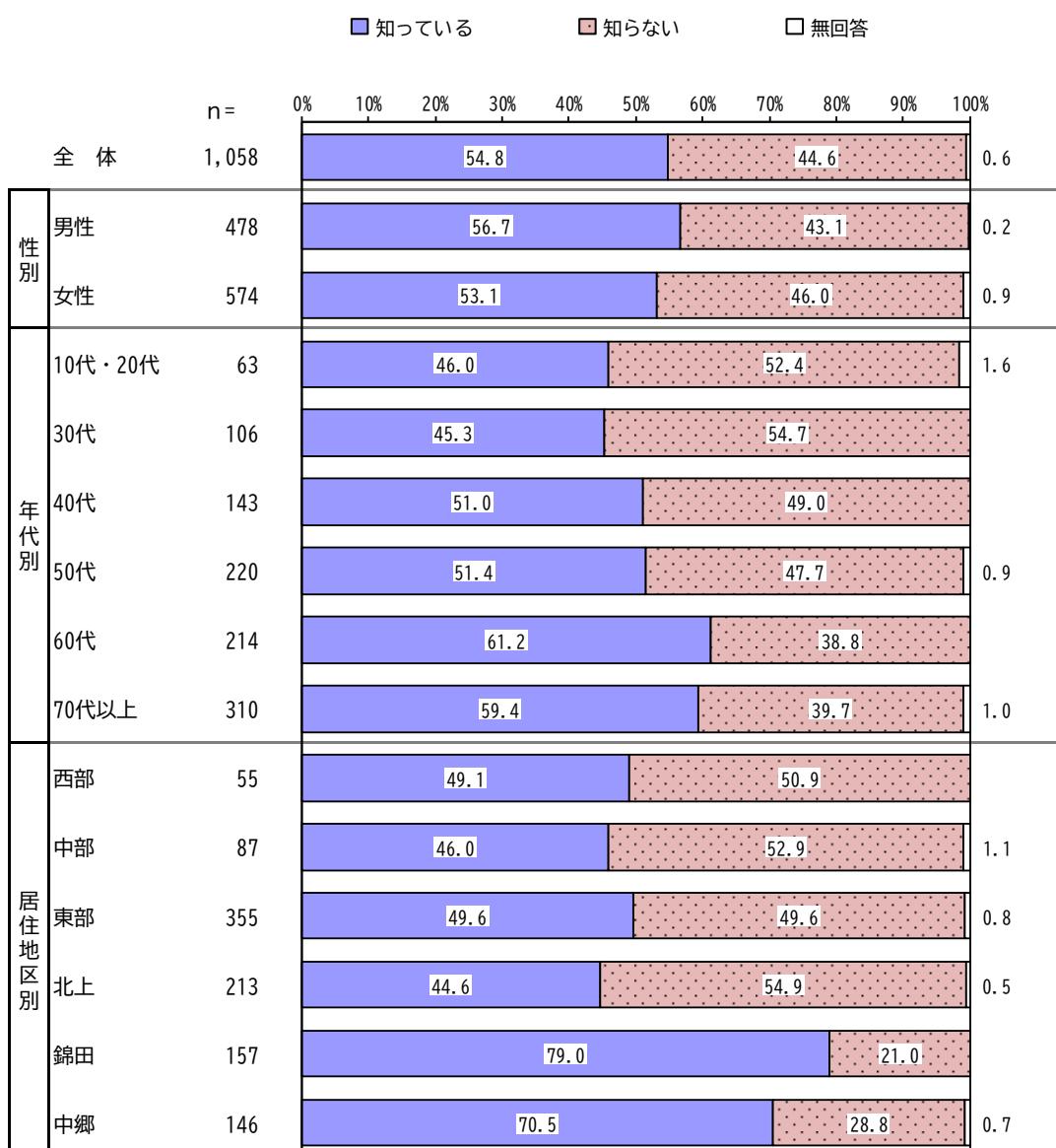


【属性比較別】

性別でみると、「知っている」は、男性（56.7%）の割合が女性（53.1%）より高くなっています。

年代別でみると、「知らない」は、10代・20代（52.4%）と30代（54.7%）で5割を超えて高くなっています。

居住地区別でみると、「知っている」は、錦田（79.0%）が最も高くなっています。



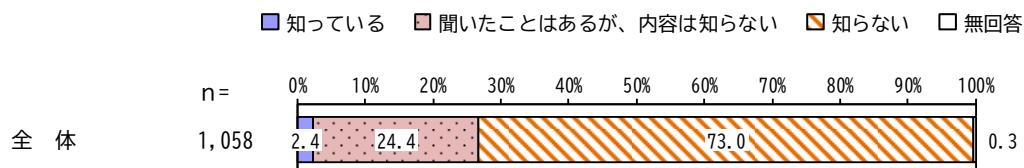
II 調査結果

(9) 三島市歴史的風致維持向上計画の認知状況

問14 「三島市歴史的風致維持向上計画」を知っていますか。(○は一つ)

- 三島市歴史的風致維持向上計画を「知っている」が 2.4% -

三島市歴史的風致維持向上計画について、「知っている」が 2.4%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」が 24.4%、「知らない」が 73.0%となっています。

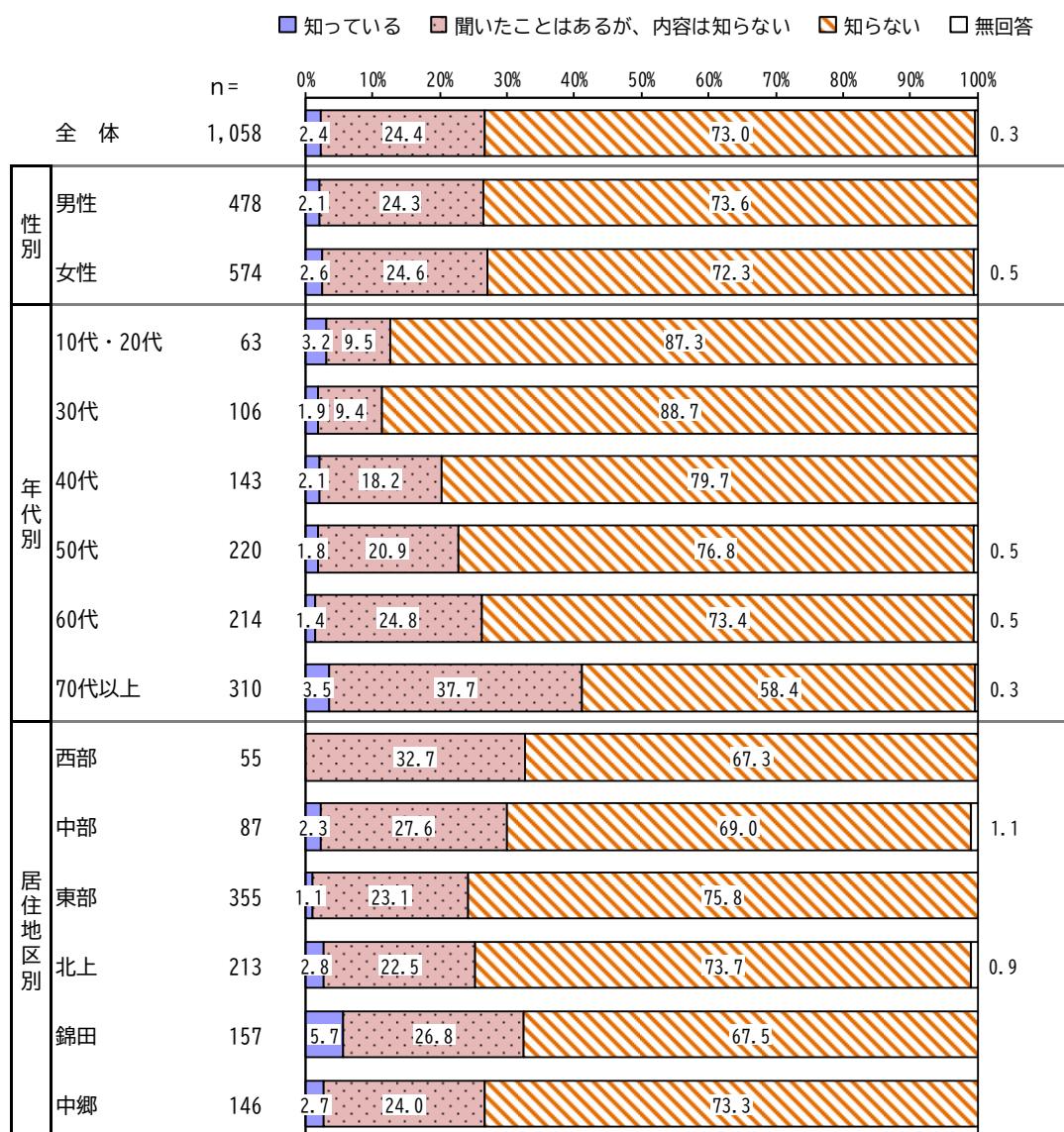


【属性比較別】

性別でみると、男性・女性ともに、「知らない」（男性 73.6%、女性 72.3%）が、最も高くなっています。

年代別でみると、70代以上では「聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合が4割近くを占め最も高くなっています。また、「知らない」は、10代・20代と30代で8割半ばを超えて高くなっています。

居住地区別でみると、「知らない」は、東部（75.8%）で7割半ばを占めて最も高くなっています。



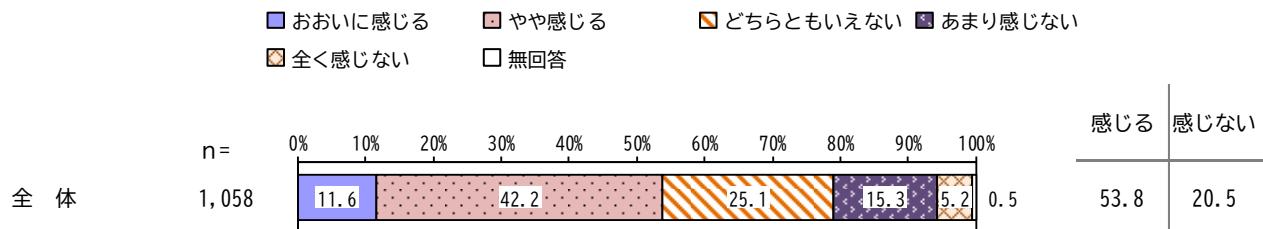
(10) 三島の中心市街地の活性化状況

問15 三島の中心市街地は「歩いて楽しいまち」と感じますか。(○は一つ)

– 「歩いて楽しいまち」と“感じる”が 53.8% –

三島の中心市街地が「歩いて楽しいまち」と感じるかについて、「おおいに感じる」(11.6%) と「やや感じる」(42.2%) を合わせた “感じる” が 53.8% となっています。

一方、「あまり感じない」(15.3%) と「全く感じない」(5.2%) を合わせた “感じない” が 20.5% となっています。



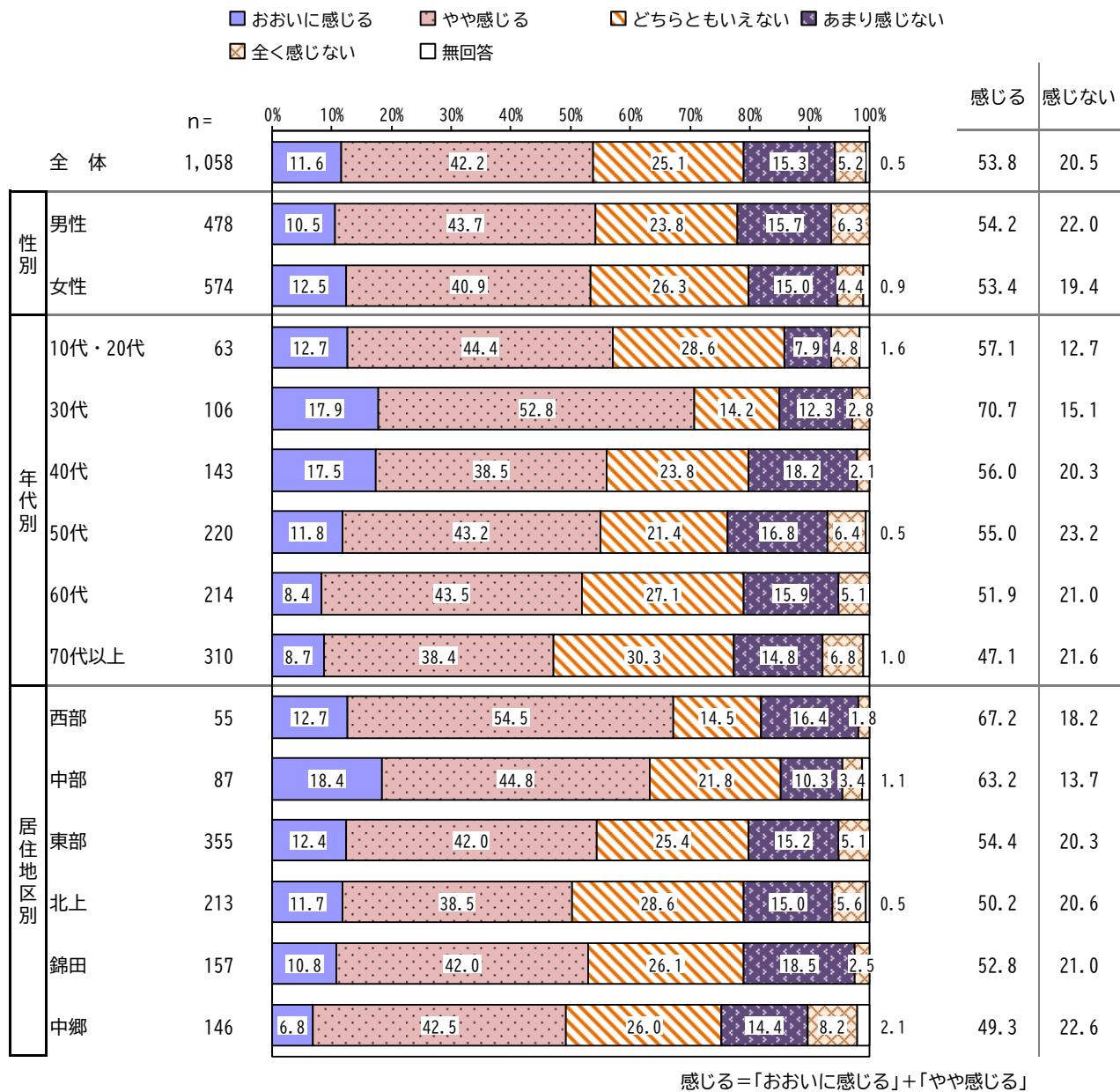
感じる = 「おおいに感じる」+「やや感じる」

感じない = 「あまり感じない」+「全く感じない」

II 調査結果

【属性比較別】

性別でみると、“感じる”（男性 54.2%、女性 53.4%）に大きな差異はみられません。
 年代別でみると、“感じる”は、30 代（70.7%）が最も高くなっています。
 居住地区別でみると、“感じる”は、西部（67.2%）と中部（63.2%）で6割を超えて高くなっています。



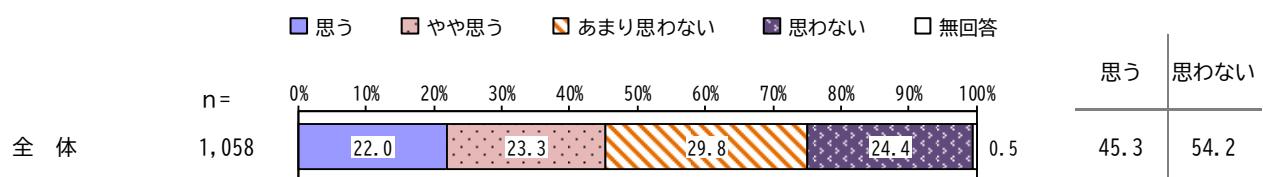
(11) 自転車の必要性

問16 生活の中で自転車を活用したいと思いますか。(○は一つ)

- 自転車を活用したいと“思う”が 45.3% -

生活の中で自転車を活用したいと思うかについて、「思う」(22.0%) と「やや思う」(23.3%) を合せた“思う”が 45.3% となっています。

一方、「あまり思わない」(29.8%) と「思わない」(24.4%) を合わせた“思わない”が 54.2% となっています。



思う = 「思う」+「やや思う」

思わない = 「あまり思わない」+「思わない」

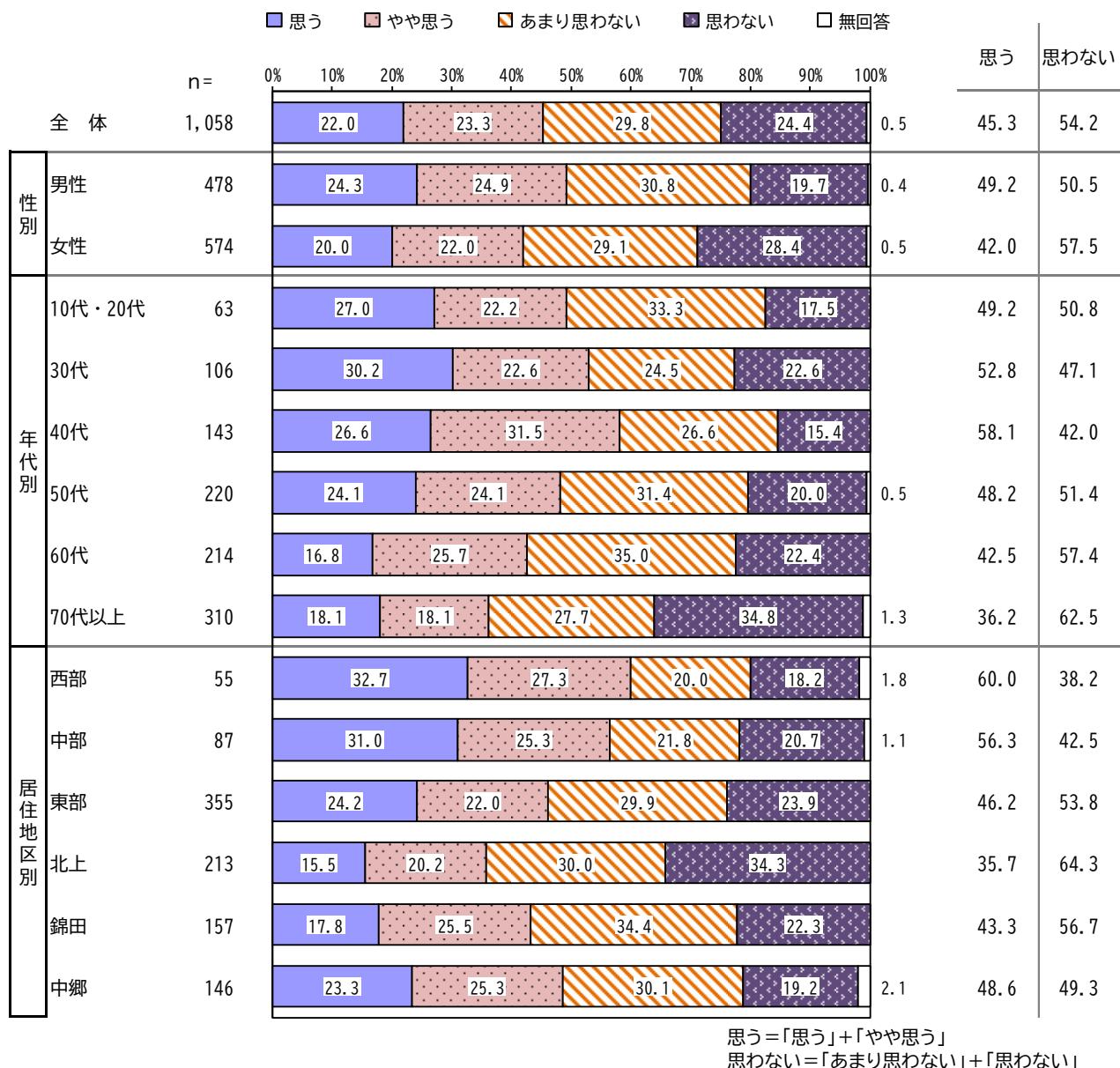
II 調査結果

【属性比較別】

性別でみると、“思う”は、男性（49.2%）の割合が女性（42.0%）より高くなっています。

年代別でみると、“思う”は、40代（58.1%）で6割近くを占めて最も高くなっていますが、70代以上（36.2%）では4割を切って他の年代より低くなっています。

居住地区別でみると、“思わない”は、北上（64.3%）が6割半ばを占めて最も高くなっています。



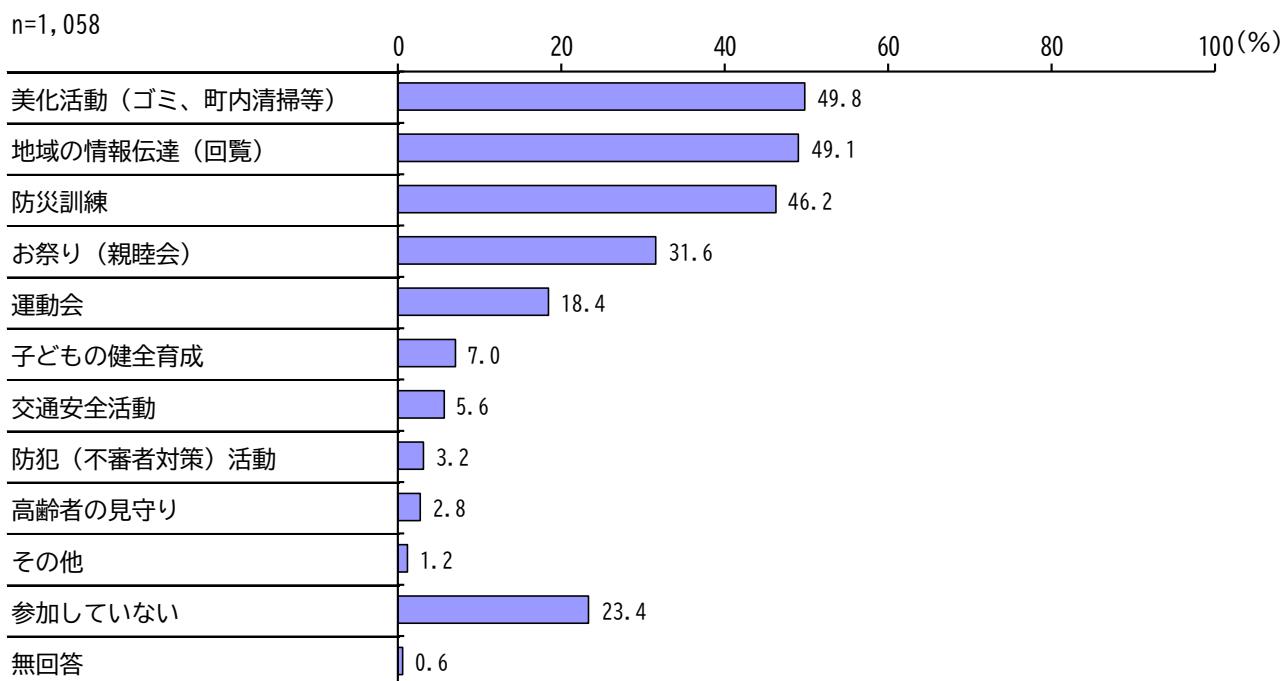
5 『自治会・町内会での活動』について

(1) 自治会・町内会での活動

問17 自治会・町内会のどのような活動に参加されていますか。(○はいくつでも)

– 自治会・町内会の活動に“参加している”割合は 76.0% –

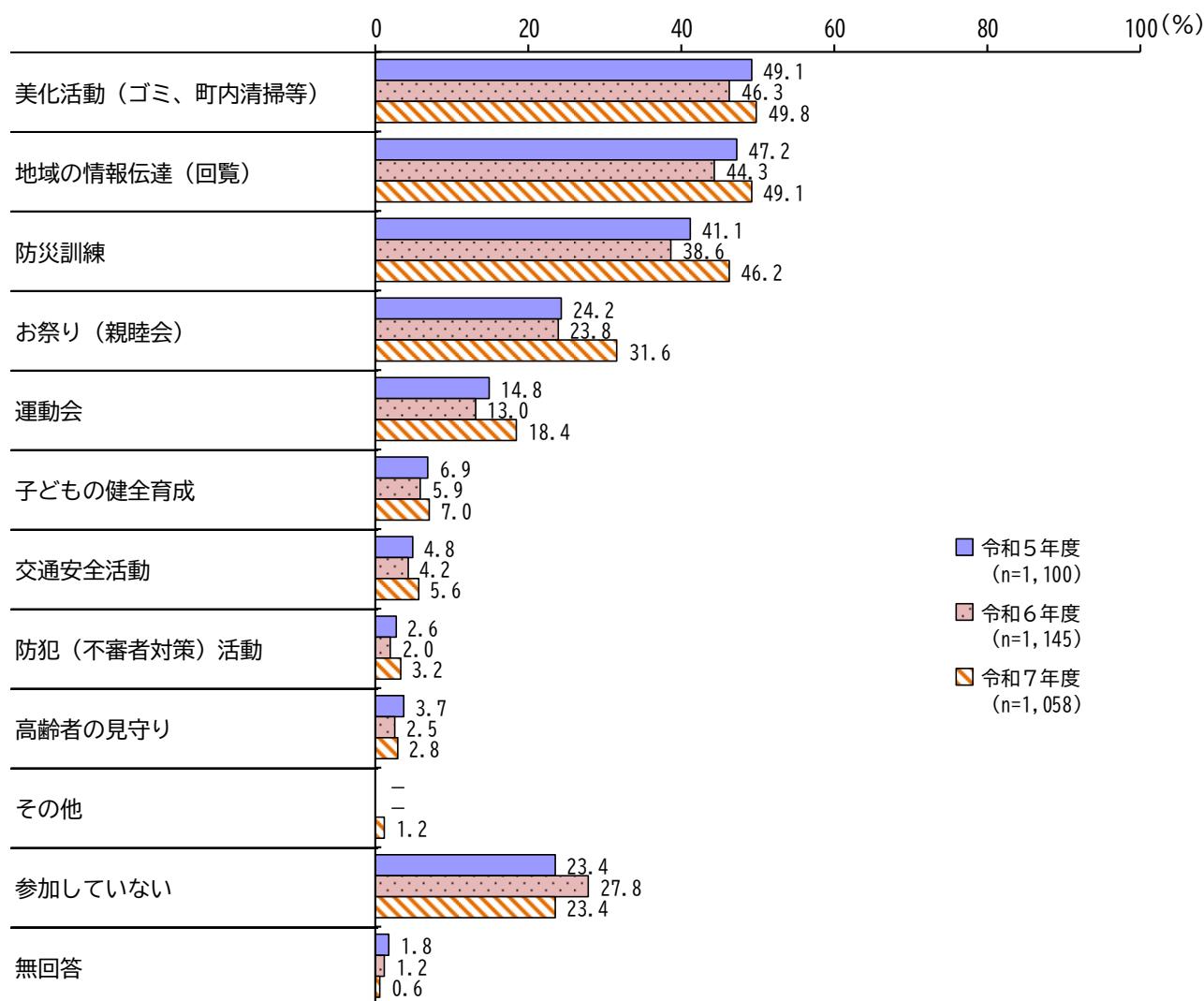
自治会・町内会での活動について、「美化活動(ゴミ、町内清掃等)」が 49.8% と最も高く、次いで「地域の情報伝達(回覧)」が 49.1%、「防災訓練」が 46.2% と続いており、「参加していない」と「無回答」を除いた自治会・町内会の活動に“参加している”割合は 76.0% となっています。



II 調査結果

【経年比較】

過去調査と比較すると、令和5年度以降「防災訓練」「お祭り(親睦会)」に増加傾向がみられます。また、「運動会」「美化活動(ゴミ、町内清掃等)」「地域の情報伝達(回覧)」の割合は令和6年度より上がっています。



※令和6年度、令和5年度では、「その他」がありませんでした。

【属性比較別】

性別でみると、男性は「美化活動(ゴミ、町内清掃等)」(50.4%) が最も高く、女性は「地域の情報伝達(回覧)」(49.8%) が最も高くなっています。

年代別でみると、「参加していない」は年代が下がるにつれて割合が高くなる傾向にあり、10代・20代(44.4%)と30代(41.5%)では4割を越えています。

居住地区別でみると、北上で「美化活動(ゴミ、町内清掃等)」と「地域の情報伝達(回覧)」が6割を超えて最も高くなっています。

単位：%

区分		回答者数 (件)	防災訓練	高齢者の見守り	動防犯(不審者対策)活	子どもの健全育成	お祭り(親睦会)	運動会	清掃活動(ゴミ、町内)	交通安全活動	覧(地域の情報伝達)	その他	参加していない	無回答
全 体		1,058	46.2	2.8	3.2	7.0	31.6	18.4	49.8	5.6	49.1	1.2	23.4	0.6
性別	男性	478	49.6	3.8	5.0	7.5	35.8	19.7	50.4	7.1	48.3	1.7	24.3	0.2
	女性	574	43.7	2.1	1.7	6.4	28.2	17.4	49.3	4.4	49.8	0.9	22.6	0.9
年代別	10代・20代	63	23.8	0.0	0.0	6.3	31.7	12.7	17.5	0.0	25.4	3.2	44.4	0.0
	30代	106	25.5	0.9	0.0	9.4	27.4	17.0	29.2	4.7	33.0	0.9	41.5	0.9
	40代	143	40.6	2.1	6.3	9.8	36.4	25.9	48.3	3.5	45.5	2.1	25.9	0.7
	50代	220	50.5	1.4	2.7	7.7	29.5	15.9	55.9	5.9	52.3	0.9	21.4	0.5
	60代	214	52.3	2.3	1.4	5.1	32.7	16.8	57.0	4.2	57.5	0.5	15.9	0.0
	70代以上	310	53.5	5.8	5.2	5.8	31.6	19.7	54.8	8.7	53.5	1.3	18.4	1.0
居住地区別	西部	55	40.0	0.0	1.8	14.5	25.5	21.8	36.4	0.0	38.2	3.6	32.7	0.0
	中部	87	39.1	2.3	1.1	12.6	21.8	14.9	43.7	12.6	50.6	3.4	23.0	2.3
	東部	355	41.1	3.1	3.4	7.3	33.0	15.8	41.1	6.2	40.8	1.1	30.7	0.6
	北上	213	52.1	3.8	4.2	6.6	33.8	21.1	63.4	4.7	61.0	0.9	15.5	0.5
	錦田	157	51.0	2.5	1.9	3.2	29.9	12.1	54.8	3.8	53.5	0.6	20.4	0.6
	中郷	146	51.4	2.7	5.5	6.2	38.4	31.5	56.8	6.2	53.4	0.7	16.4	0.0

1位

2位

3位

II 調査結果

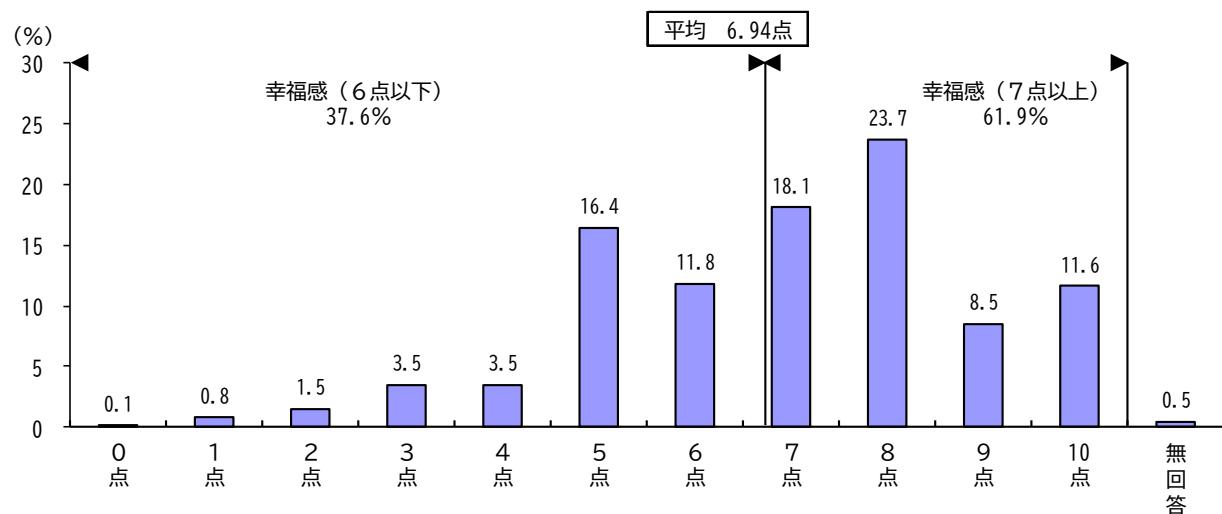
6 『幸福感』について

(1) 幸福感

問18 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。いずれかの点数を1つだけ○で囲んでください。

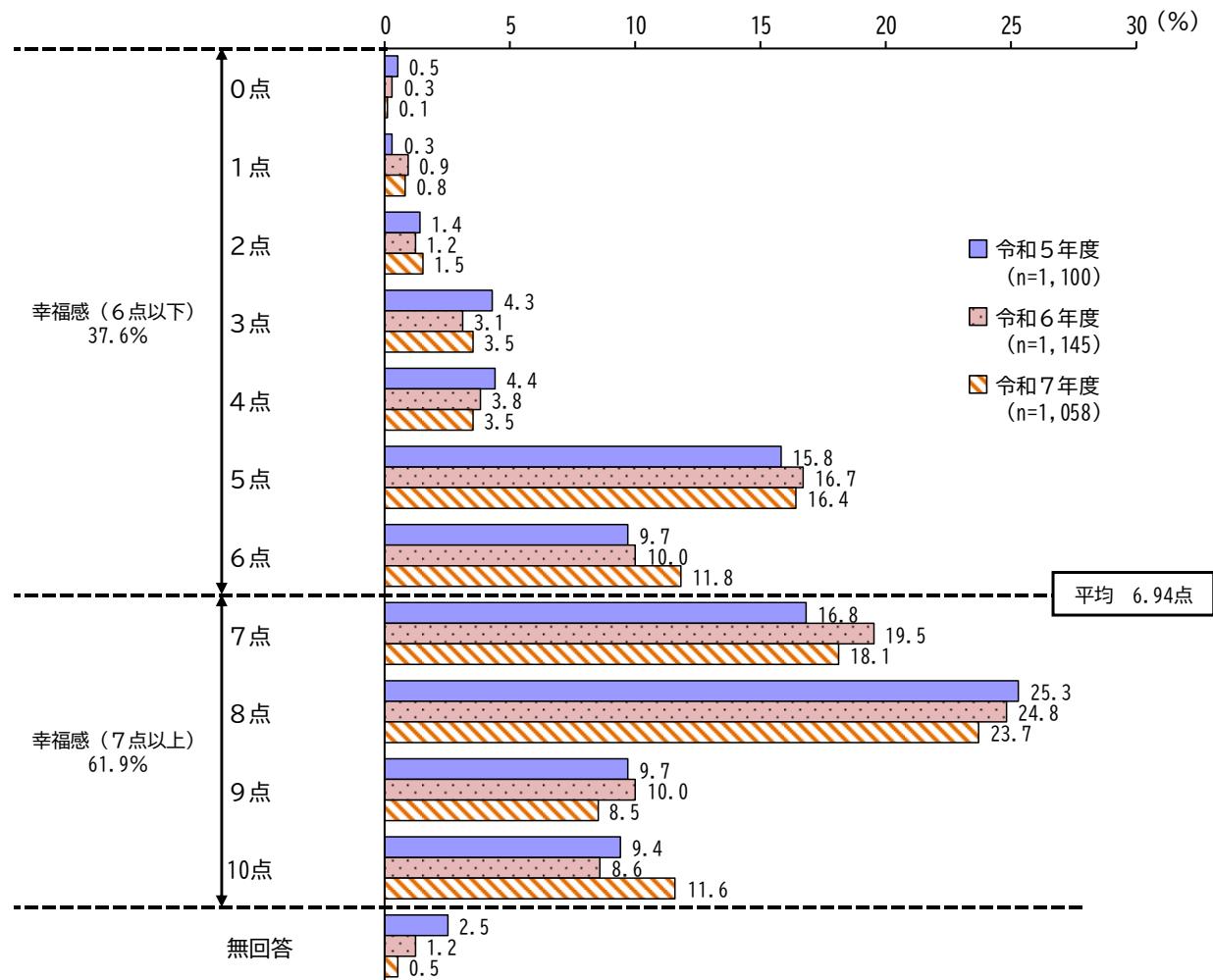
– 現在の幸福感の平均は 6.94 点 –

現在の幸福感について、「8点」の割合が 23.7% と最も高く、次いで「7点」の割合が 18.1%、「5点」の割合が 16.4% となっています。



【経年比較】

過去調査と比較すると、幸福感は令和5年度よりあまり変化はないものの、平均点が令和5年度からやや上がっています。



区分	調査数	幸福感(%)		無回答(%)	平均(点)
		6点以下	7点以上		
令和5年度調査	1,100	36.5	61.2	2.5	6.89
令和6年度調査	1,145	35.9	62.9	1.2	6.90
令和7年度調査	1,058	37.6	61.9	0.5	6.94

II 調査結果

【属性比較別】

性別でみると、男性・女性ともに、「8点」（男性 24.7%、女性 23.0%）が最も高くなっています。

年代別でみると、40代以外の年代で「8点」が2割を超えて高くなっています。また、10代・20代は「7点」も2割を超えています。

居住地区別でみると、中郷で「5点」（19.9%）が最も高く、それ以外の地区では「8点」が最も高くなっています。

単位：%

区分		回答者数 (件)	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答
全 体		1,058	0.1	0.8	1.5	3.5	3.5	16.4	11.8	18.1	23.7	8.5	11.6	0.5
性別	男性	478	0.2	0.8	2.1	4.6	4.0	15.9	13.2	20.1	24.7	7.1	6.9	0.4
	女性	574	0.0	0.7	1.0	2.6	3.1	16.7	10.8	16.2	23.0	9.8	15.5	0.5
年 代 別	10代・20代	63	1.6	1.6	0.0	1.6	3.2	14.3	12.7	23.8	22.2	4.8	14.3	0.0
	30代	106	0.0	0.0	1.9	3.8	3.8	14.2	15.1	17.0	25.5	8.5	10.4	0.0
	40代	143	0.0	2.1	3.5	4.9	2.1	14.0	12.6	22.4	17.5	8.4	12.6	0.0
	50代	220	0.0	0.5	1.4	3.6	3.6	18.6	12.3	15.9	23.6	8.6	11.4	0.5
	60代	214	0.0	0.5	1.4	3.3	5.6	19.2	10.7	19.2	20.1	5.6	14.0	0.5
	70代以上	310	0.0	0.6	1.0	3.2	2.6	15.5	10.6	15.8	28.7	11.3	9.7	1.0
居 住 地 区 別	西部	55	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	16.4	9.1	18.2	25.5	12.7	16.4	0.0
	中部	87	0.0	0.0	2.3	2.3	4.6	17.2	9.2	16.1	21.8	11.5	13.8	1.1
	東部	355	0.3	0.8	2.0	3.7	3.9	17.7	11.5	20.0	21.4	7.9	10.1	0.6
	北上	213	0.0	0.0	1.9	8.0	3.3	9.9	12.2	14.6	28.6	10.3	11.3	0.0
	錦田	157	0.0	0.6	0.6	1.9	2.5	15.9	12.1	21.0	25.5	9.6	8.9	1.3
	中郷	146	0.0	0.7	0.7	0.7	4.8	19.9	15.1	19.2	19.2	2.7	17.1	0.0

1位

2位

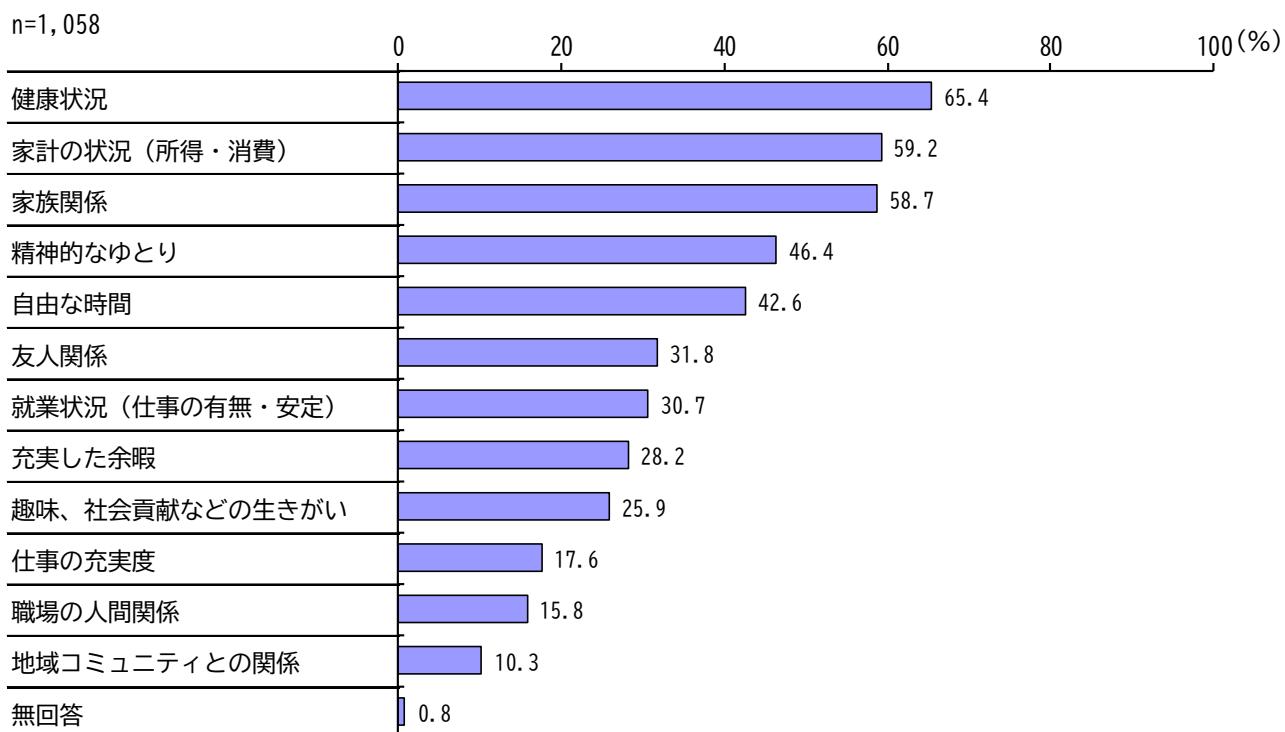
3位

(2) 幸福感の判断事項

問19 問18で、幸福感を判断する際に重視した事項は何ですか。(○はいくつでも)

－ 幸福感を判断する際に重視するのは「健康状況」で 65.4% －

幸福感を判断する際に重視した事項について、「健康状況」が 65.4% と最も高く、次いで「家計の状況（所得・消費）」が 59.2%、「家族関係」が 58.7% と 5割半ばを超えて続いています。

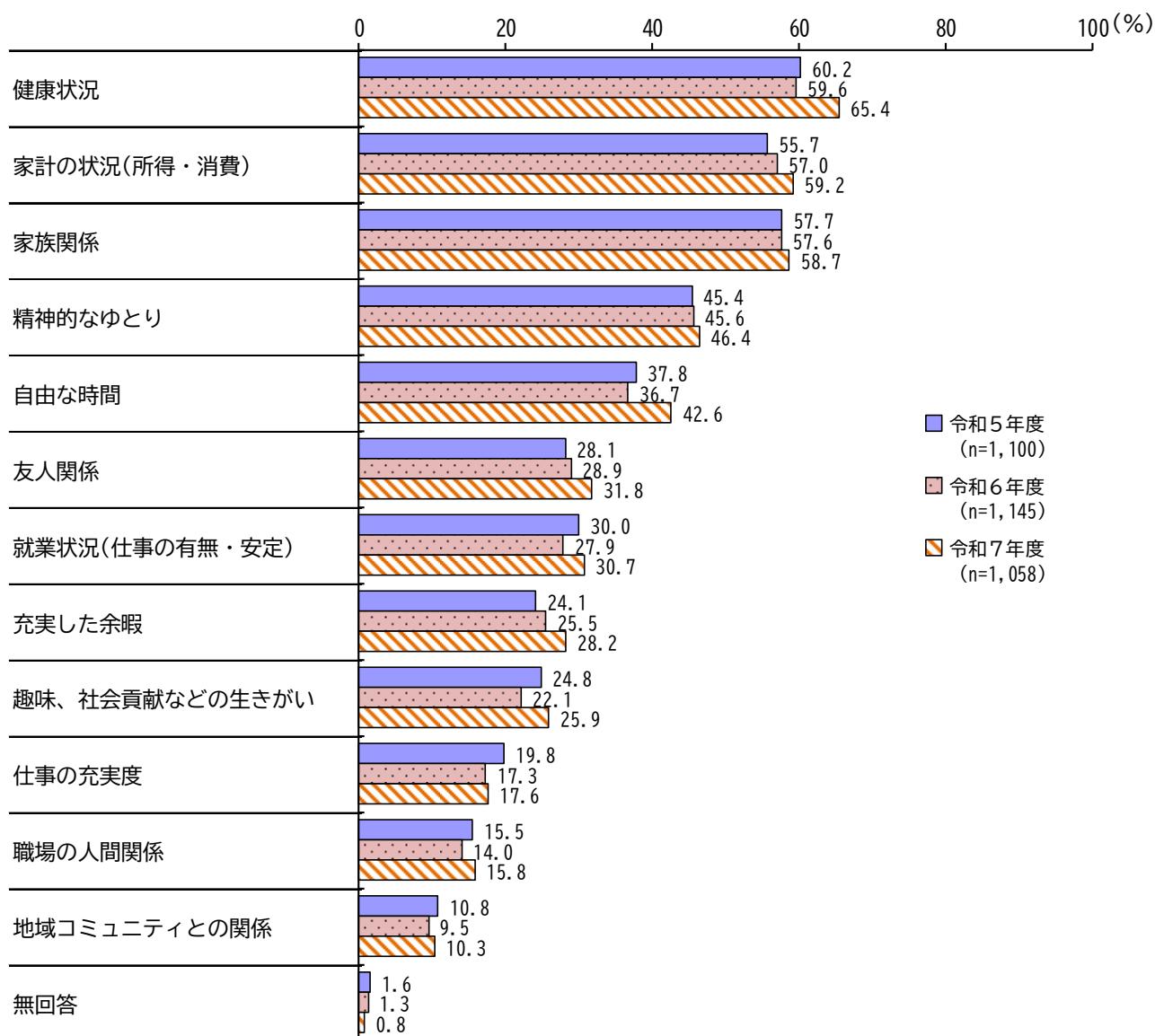


II 調査結果

【経年比較】

過去調査と比較すると、令和5年度以降「健康状況」「自由な時間」「充実した余暇」に増加傾向がみられます。

また、「趣味、社会貢献などの生きがい」の割合は令和6年度より上がっています。



【属性比較別】

性別でみると、男性・女性ともに、「健康状況」(男性 66.3%、女性 64.8%)が最も高くなっています。年代別でみると、「家族関係」はいずれの年代でも上位3位に入っていますが、30代では「家計の状況(所得・消費)」、50代以上では「健康状況」が高くなっています。

居住地区別でみると、中部では「家計の状況(所得・消費)」(72.4%)、錦田では「健康状況」(75.8%)が7割台と最も高くなっています。

単位：%

区分		回答者数 (件)	費家計の状況 (所得・消)	無就業状況 (仕事の有)	健康状況	自由な時間	充実した余暇	仕事の充実度	精神的なゆとり	の趣味、生きがい 社会貢献など	家族関係	友人関係	職場の人間関係	地域コミュニティと	無回答
全 体		1,058	59.2	30.7	65.4	42.6	28.2	17.6	46.4	25.9	58.7	31.8	15.8	10.3	0.8
性別	男性	478	62.8	34.1	66.3	40.4	30.8	20.7	45.6	27.2	56.7	26.6	15.7	11.9	0.6
	女性	574	55.9	27.9	64.8	44.9	26.0	15.0	47.2	24.7	60.3	36.2	15.9	9.1	0.9
年代別	10代・20代	63	47.6	38.1	44.4	41.3	38.1	14.3	46.0	33.3	55.6	46.0	19.0	6.3	1.6
	30代	106	60.4	39.6	59.4	45.3	45.3	29.2	58.5	23.6	59.4	26.4	25.5	8.5	0.0
	40代	143	65.0	46.9	61.5	44.1	26.6	32.2	55.2	28.0	68.5	35.0	28.0	10.5	0.7
	50代	220	63.2	40.5	70.0	31.8	27.7	19.5	48.2	26.8	59.5	27.7	23.2	8.6	1.4
	60代	214	67.3	33.6	67.8	40.7	22.4	15.4	46.7	24.8	56.1	29.4	12.6	11.7	0.5
	70代以上	310	50.0	10.0	68.4	50.3	25.5	7.7	36.8	24.5	55.8	33.9	3.2	11.9	0.6
居住地区別	西部	55	60.0	21.8	69.1	49.1	29.1	16.4	49.1	25.5	56.4	41.8	10.9	7.3	0.0
	中部	87	72.4	42.5	71.3	47.1	36.8	29.9	52.9	40.2	66.7	41.4	18.4	13.8	1.1
	東部	355	52.4	30.4	60.3	40.3	29.3	16.9	45.9	23.1	56.1	29.6	17.5	8.7	0.8
	北上	213	65.3	31.5	63.8	43.7	22.5	14.6	43.2	26.8	58.2	32.4	16.0	11.7	0.0
	錦田	157	62.4	29.3	75.8	38.9	28.0	15.9	43.9	28.7	61.1	28.7	12.7	12.1	0.6
	中郷	146	55.5	29.5	64.4	47.3	28.1	19.9	45.9	21.2	61.6	31.5	16.4	9.6	1.4

1位

2位

3位

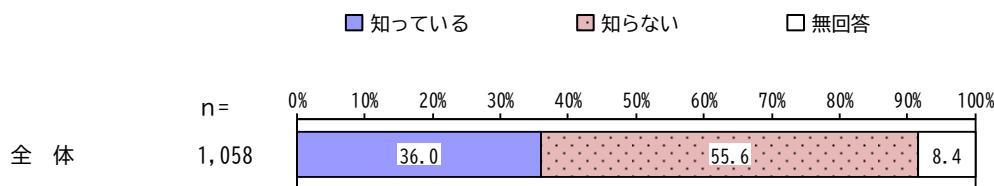
II 調査結果

(3) ウェルビーイングの認知状況

問20 「ウェルビーイング」という言葉を知っていますか。(○は一つ)

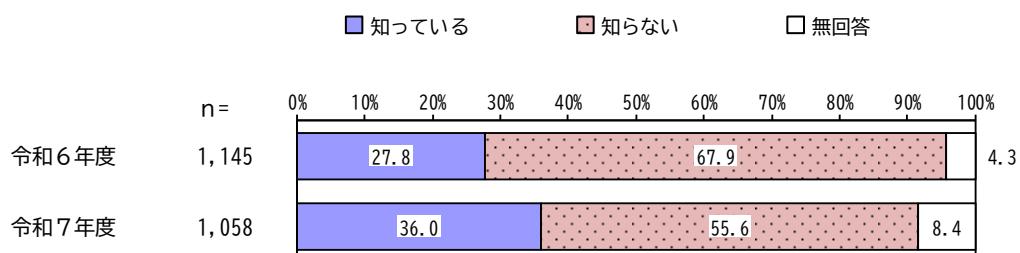
- 「ウェルビーイング」という言葉を「知っている」が 36.0% -

「ウェルビーイング」という言葉を知っているかについて、「知っている」が 36.0%、「知らない」が 55.6% となっています。



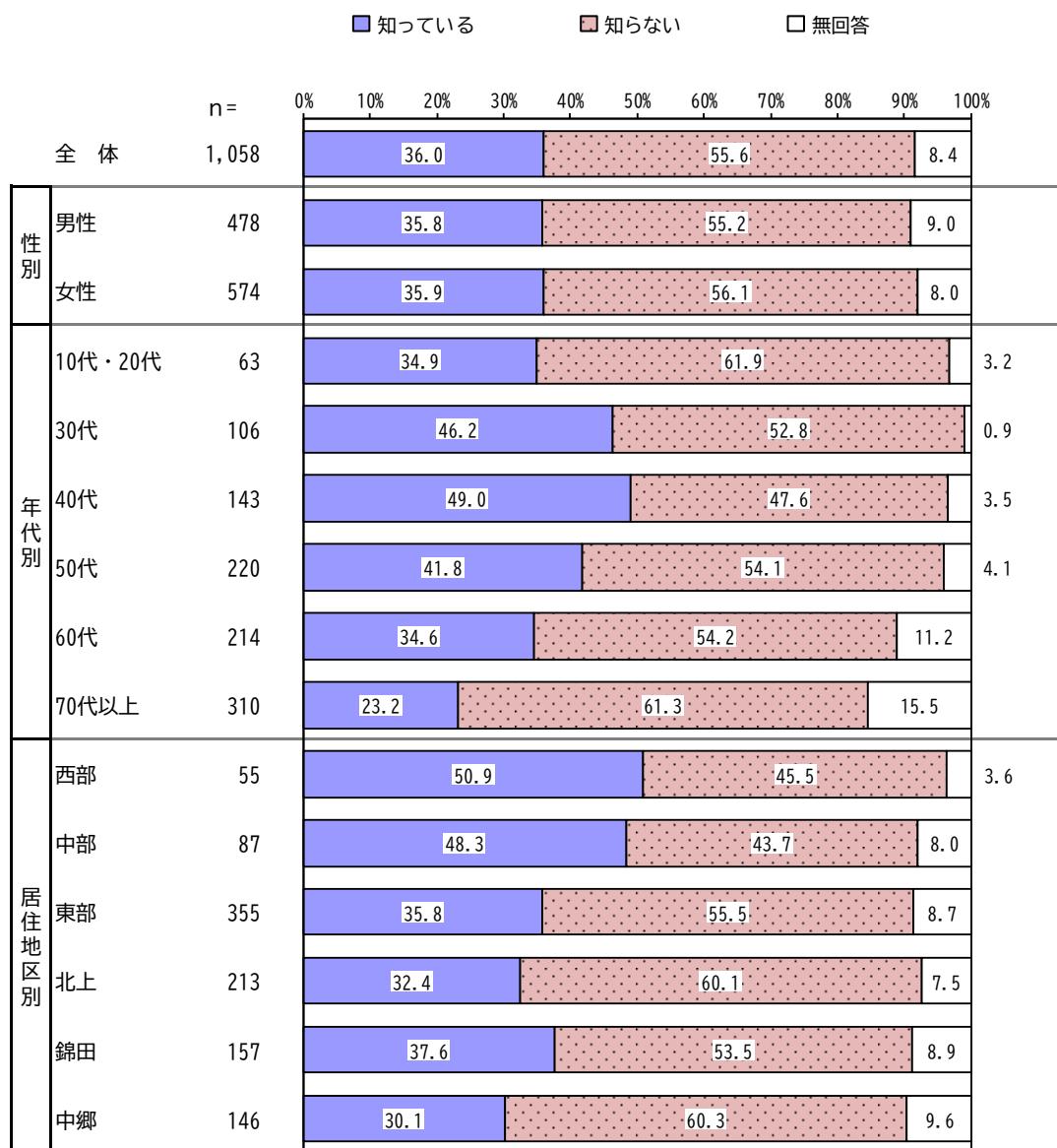
【経年比較】

過去調査と比較すると、「知っている」の割合は令和6年度より 8.2 ポイント上がっています。



【属性比較別】

性別でみると、「知っている」（男性 35.8%、女性 35.9%）に大きな差異はみられません。
 年代別でみると、「知っている」は、40 代（49.0%）で5割近くを占めて最も高くなっています。
 居住地区別でみると、「知っている」は、西部（50.9%）が5割を占めて最も高くなっています。



II 調査結果

7 『健康』について

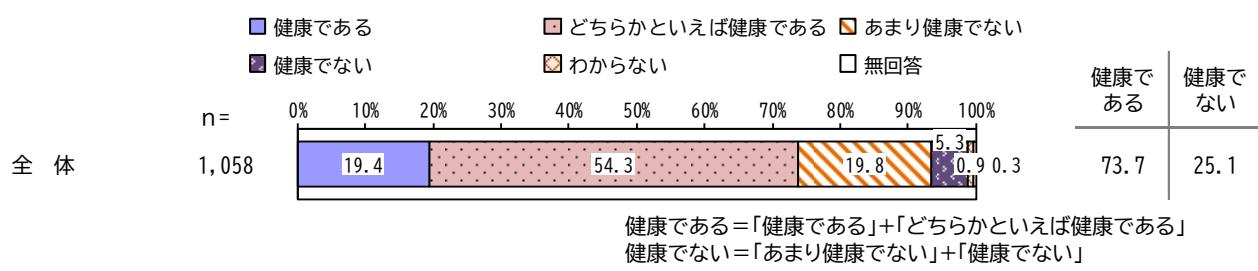
(1) 現在の健康状態

問 21 現在の自分の健康状態をどのように感じていますか。(○は一つ)

– 現在“健康である”と感じている人は 73.7% –

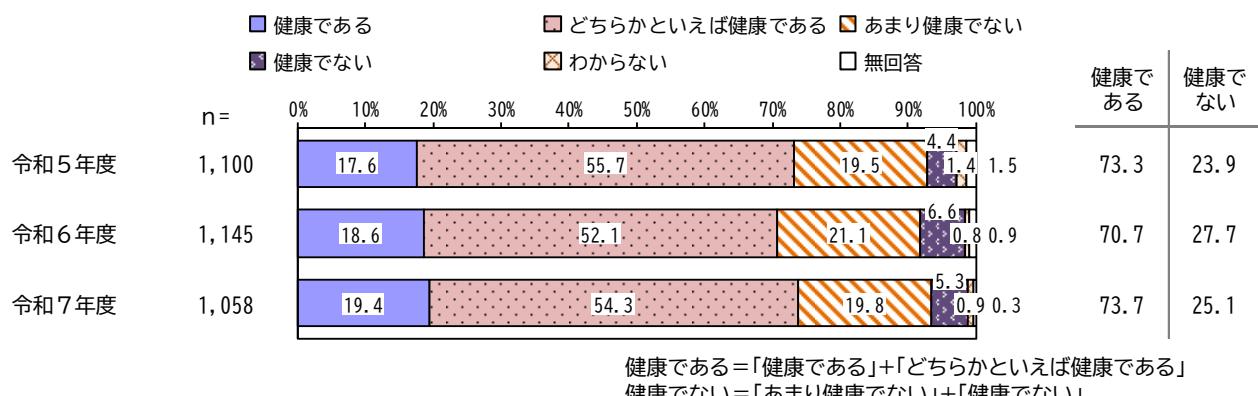
現在の健康状態について、「健康である」(19.4%) と「どちらかといえば健康である」(54.3%) を合わせた “健康である” は 73.7% となっています。

一方、「あまり健康でない」(19.8%) と「健康でない」(5.3%) を合わせた “健康でない” は 25.1% となっています。



【経年比較】

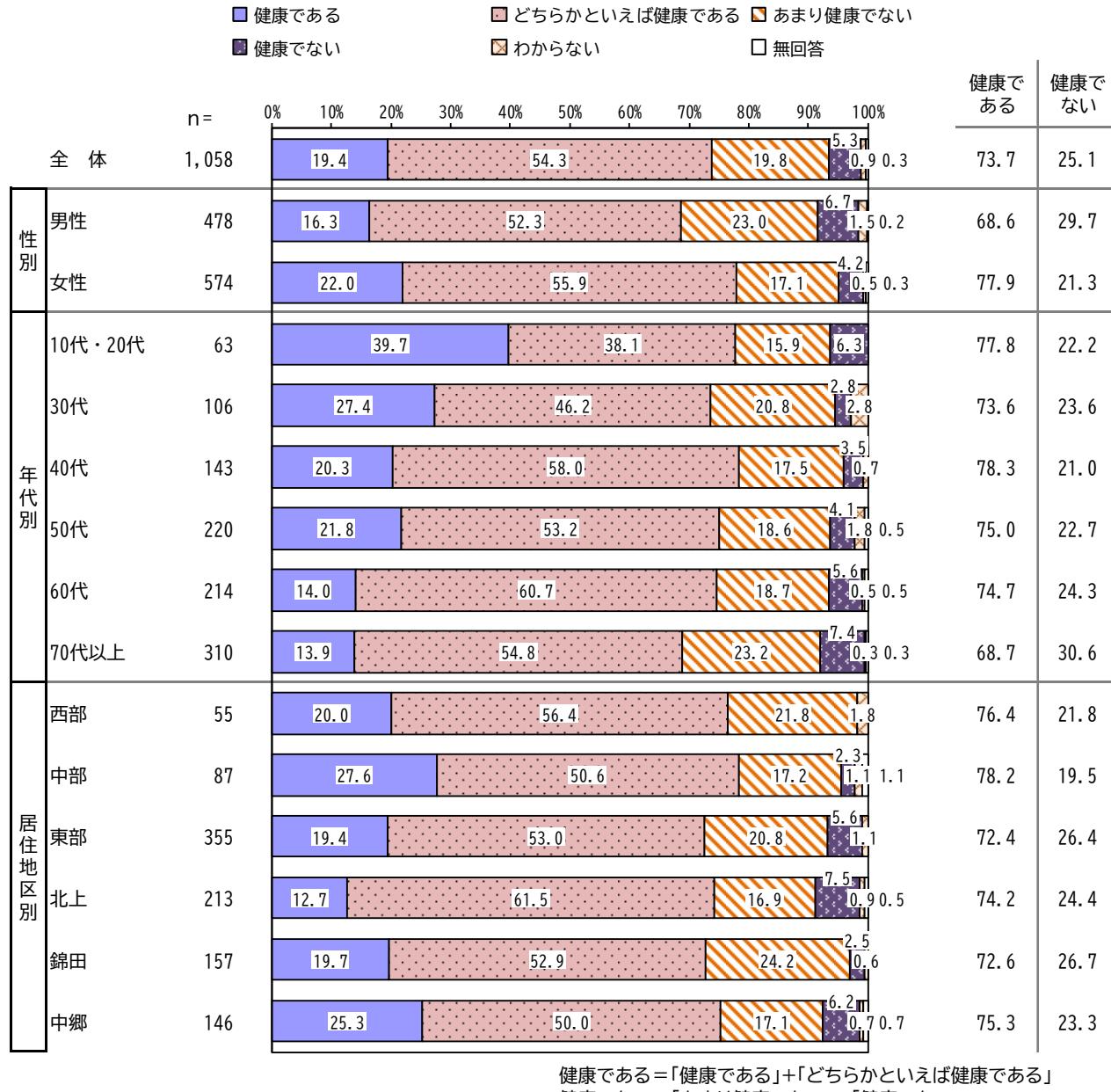
過去調査と比較すると、令和6年度とあまり変化がありません。



【属性比較別】

性別でみると、“健康である”は、男性（68.6%）より女性（77.9%）の割合が高くなっています。年代別でみると、年代が上がるにつれて“健康である”割合は低くなる傾向にあり、70代以上（68.7%）で6割台と最も低くなっています。

居住地区別でみると、“健康である”は、中部（78.2%）が最も高くなっています。



II 調査結果

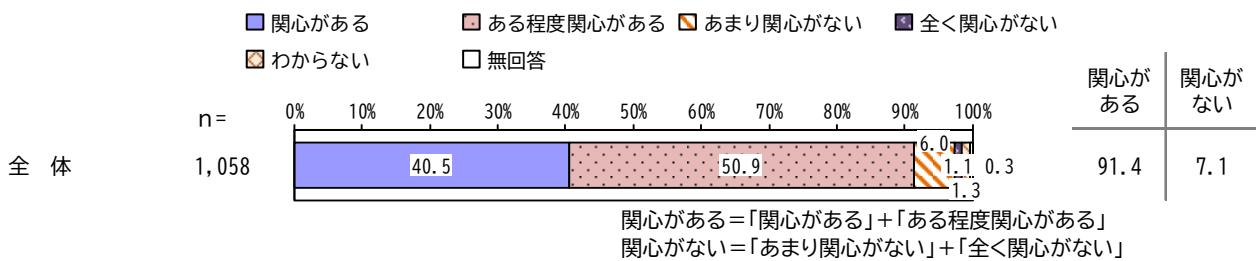
(2) 健康づくりへの関心

問22 健康づくりに関心がありますか。(○は一つ)

– 健康づくりに“関心がある”割合は 91.4% –

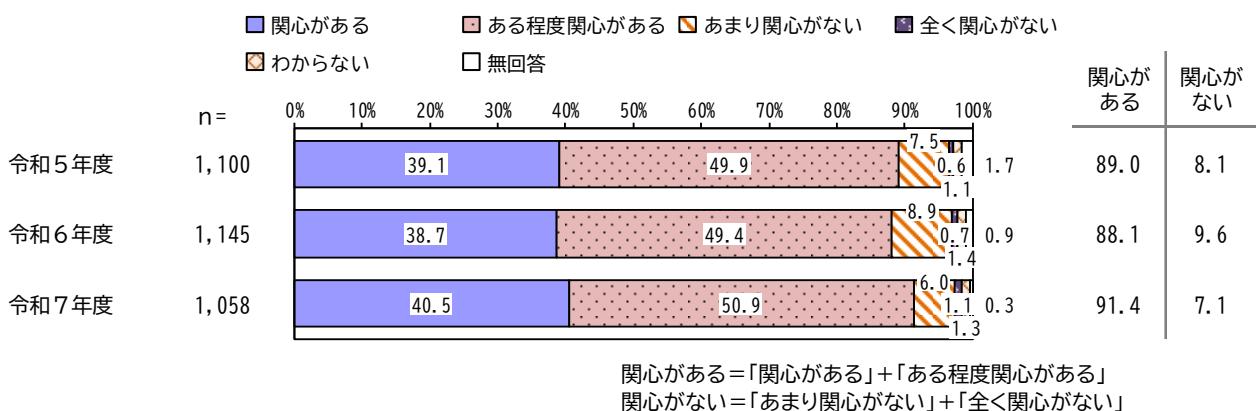
健康づくりに関心があるかについて、「関心がある」(40.5%) と「ある程度関心がある」(50.9%) を合わせた“関心がある”は 91.4% となっています。

一方、「あまり関心がない」(6.0%) と「全く関心がない」(1.1%) を合わせた“関心がない”は 7.1% となっています。



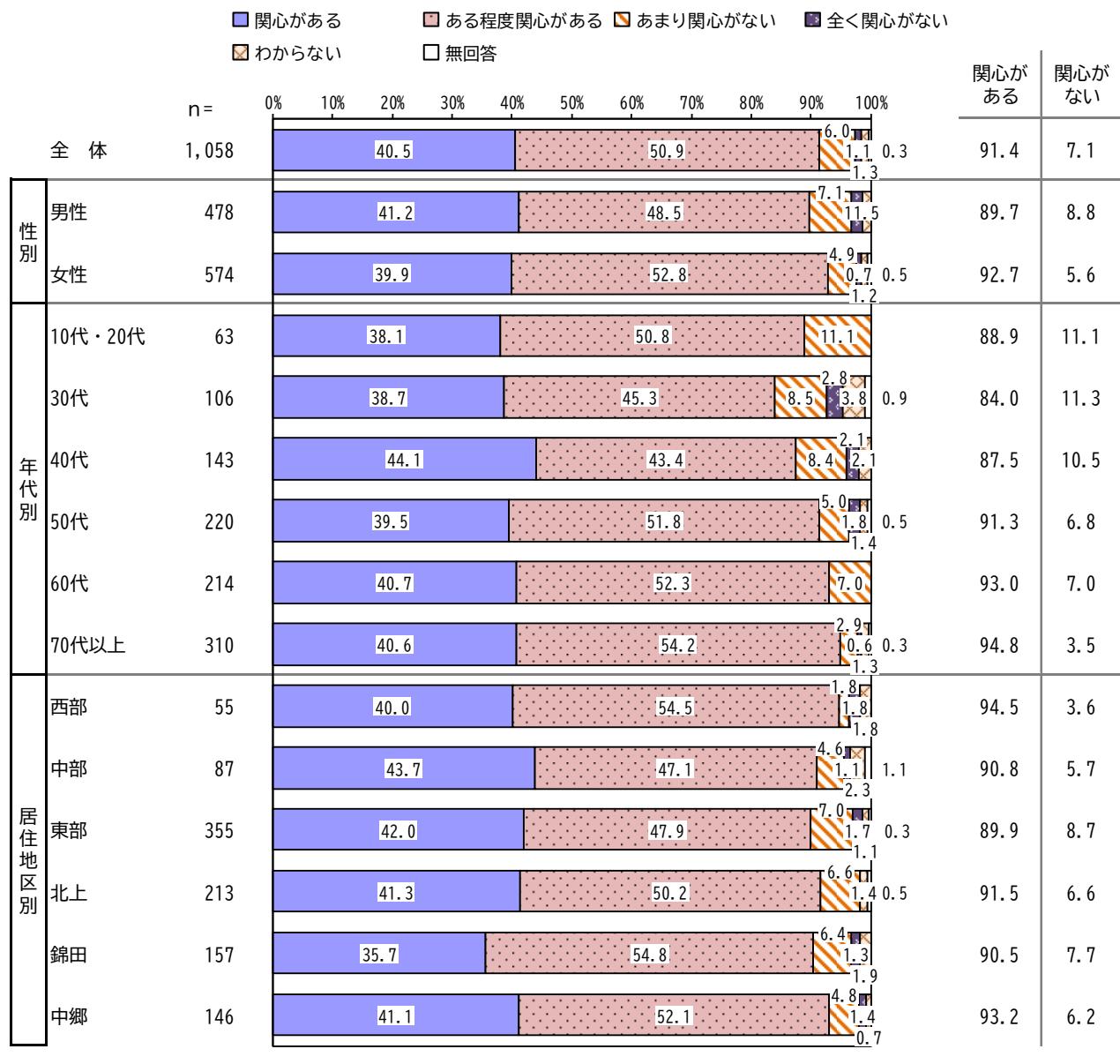
【経年比較】

過去調査と比較すると、“関心がある”的割合は令和6年度より3.3ポイント上がっています。



【属性比較別】

性別でみると、“関心がある”は、男性（89.7%）より女性（92.7%）の割合が高くなっています。
 年代別でみると、“関心がある”は、50代～70代以上で9割を超えて高くなっています。
 居住地区別でみると、“関心がある”は、西部（94.5%）で9割半ばを占めて最も高くなっています。



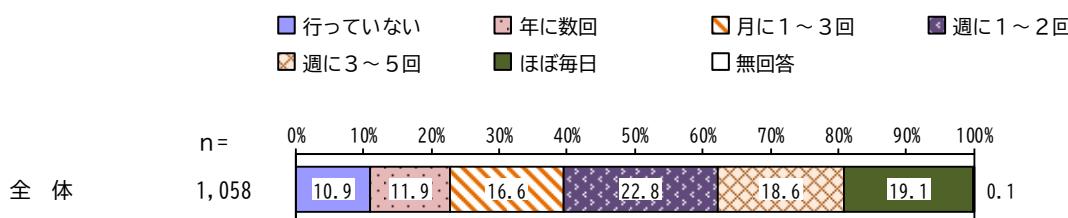
II 調査結果

(3) 運動の状況

問23 この1年のあいだに運動を行いましたか。(運動には、ウォーキング[通勤・散歩・ぶらぶら歩き・一駅歩き等]を含みます。)(○は一つ)

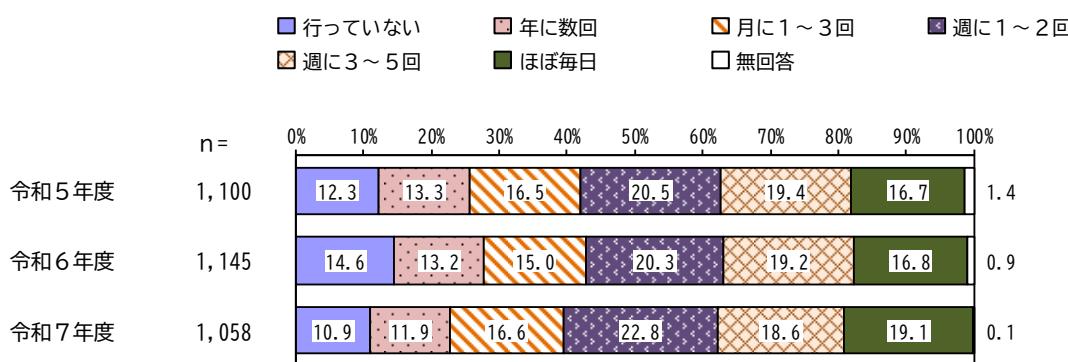
- 直近1年間で運動を行った頻度は「週に1～2回」が22.8% -

直近1年間で運動を行った頻度について、「週に1～2回」が22.8%と最も高く、次いで「ほぼ毎日」が19.1%、「週に3～5回」が18.6%と続いています。



【経年比較】

過去調査と比較すると、「行っていない」の割合は令和6年度より下がっています。

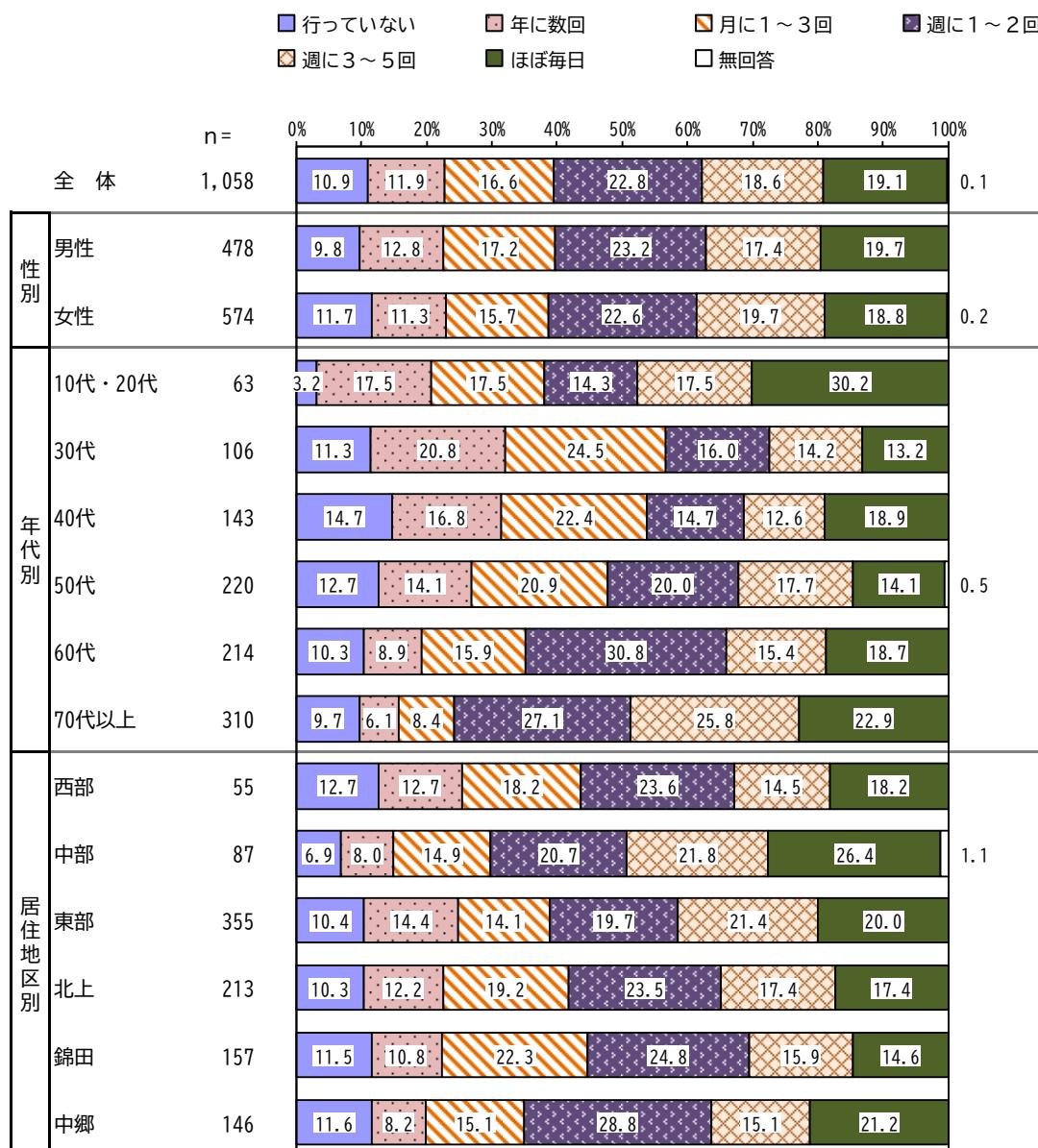


【属性比較別】

性別でみると、男性・女性ともに、「週に1～2回」（男性23.2%、女性22.6%）が最も高くなっています。

年代別でみると、10代・20代では「ほぼ毎日」（30.2%）、60代では「週に1～2回」（30.8%）が3割を占めて最も高くなっています。

居住地区別でみると、「ほぼ毎日」は、中部（26.4%）が2割半ばを占めて最も高くなっています。



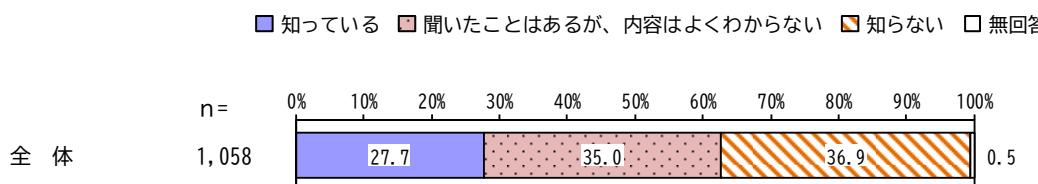
II 調査結果

(4) 健幸都市の取り組みの認知状況

問 24 三島市が健幸都市(スマートウエルネスみしま)の取り組みを行っていることを知っていますか。(○は一つ)

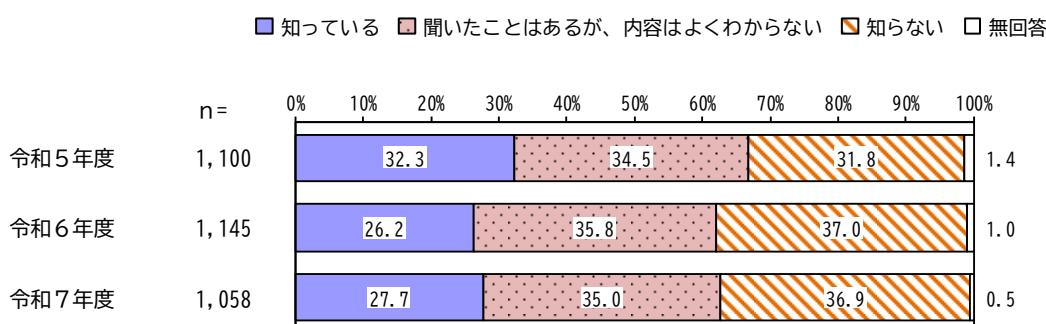
- 健幸都市の取り組みの認知状況は「知っている」が 27.7% -

三島市が健幸都市（スマートウエルネスみしま）の取り組みを行っていることを知っているかについて、「知らない」が 36.9% と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」が 35.0% となっています。一方、「知っている」(27.7%) は 3 割を切っています。



【経年比較】

過去調査と比較すると、令和 5 年度以降「知らない」に増加傾向がみられます。一方、「知っている」に減少傾向がみられます。

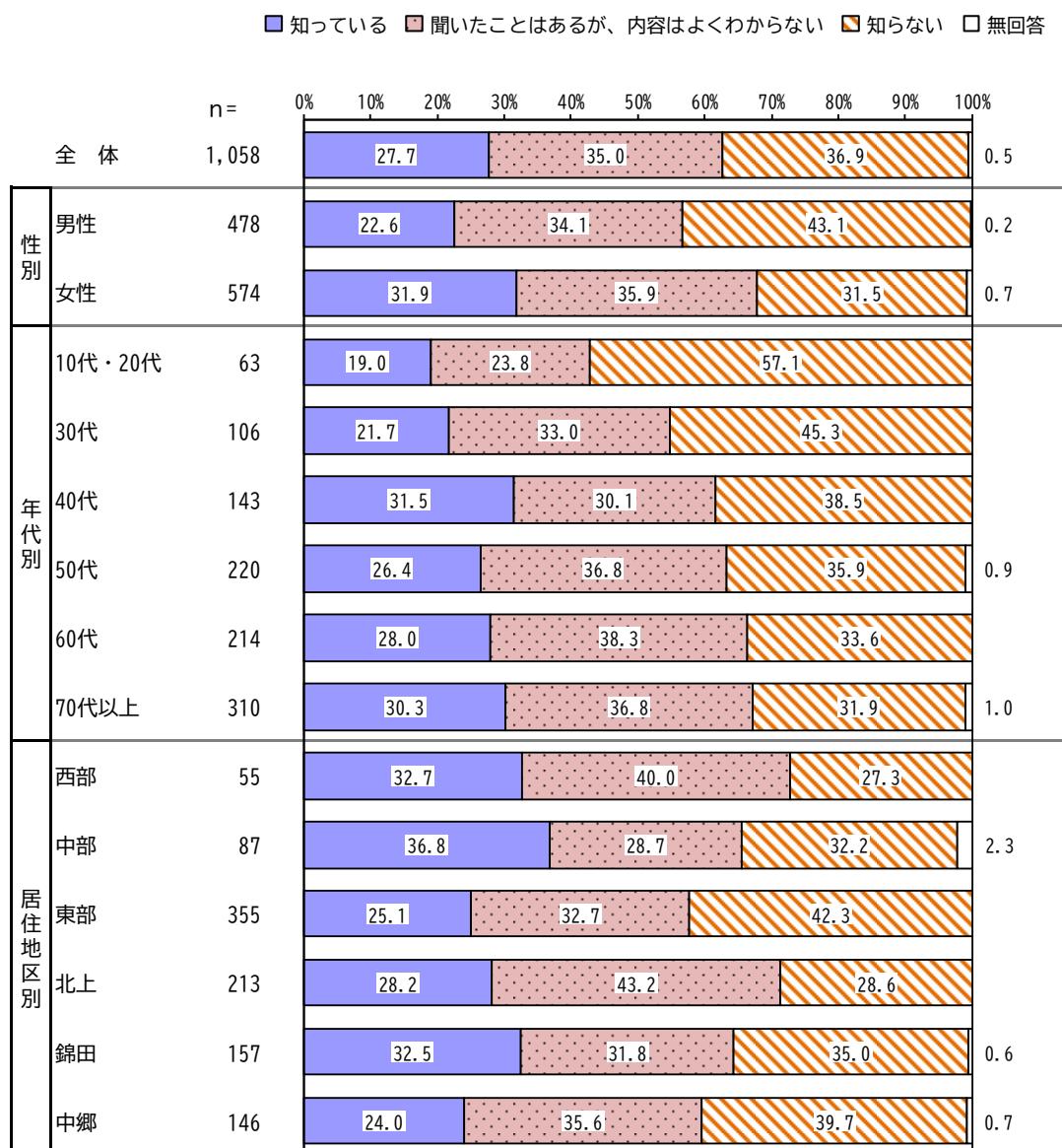


【属性比較別】

性別でみると、「知らない」は、男性（43.1%）の割合が女性（31.5%）より11.6ポイント高くなっています。

年代別でみると、「知らない」は年代が下がるにつれて高くなる傾向にあり、10代・20代で6割近くを占めて最も高くなっています。

居住地区別でみると、「知らない」は、東部（42.3%）が4割を超えて最も高くなっています。



II 調査結果

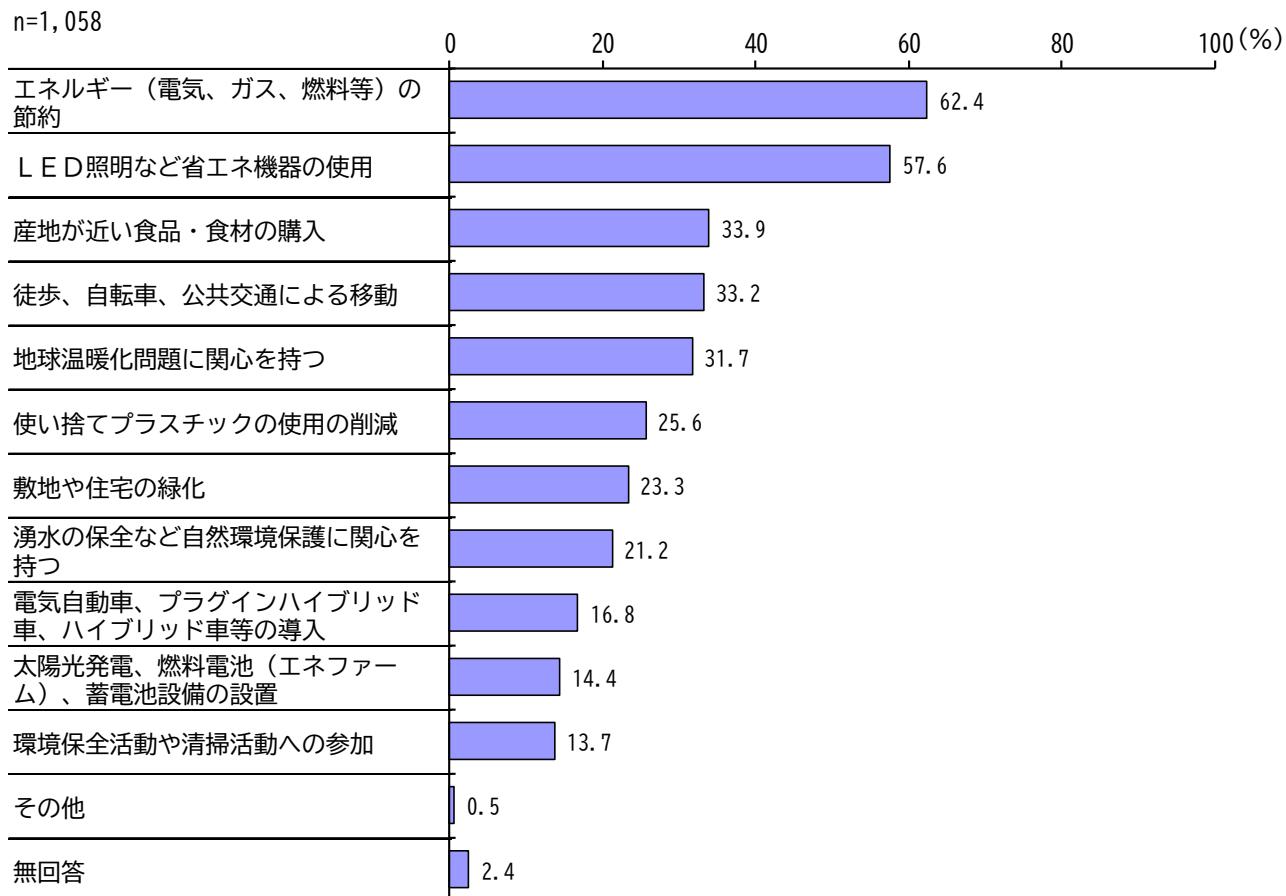
8 『環境への取り組み』について

(1) 環境に配慮するための取り組み

問 25 環境に配慮するためどのような取り組みをしていますか。(○はいくつでも)

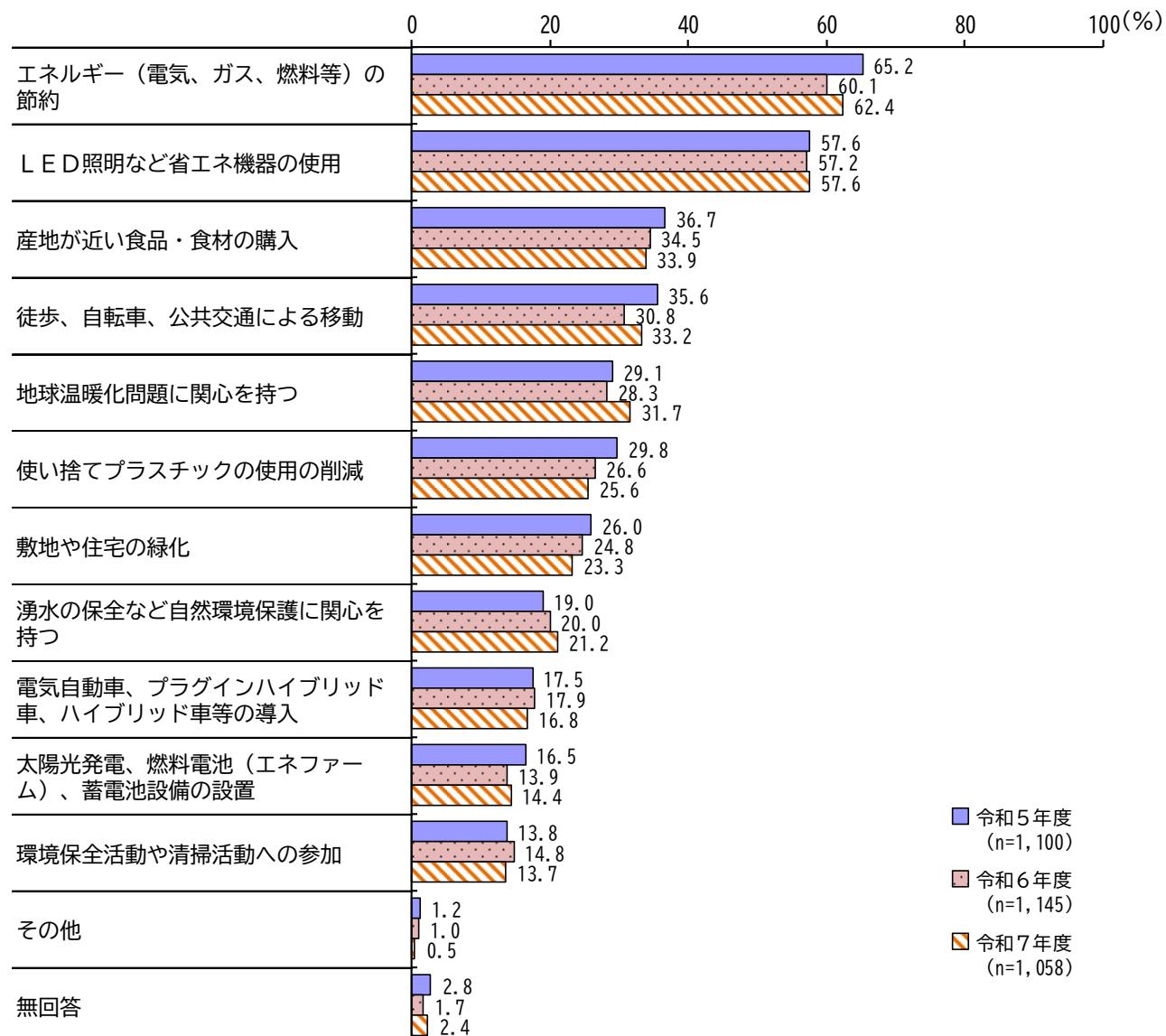
－ 行っている環境への取り組みは「エネルギー(電気、ガス、燃料等)の節約」が 62.4% －

環境に配慮するためにしている取り組みについて、「エネルギー(電気、ガス、燃料等)の節約」が 62.4% と最も高く、次いで「LED照明など省エネ機器の使用」が 57.6%、「産地が近い食品・食材の購入」が 33.9% と続いています。



【経年比較】

過去調査と比較すると、令和5年度以降「使い捨てプラスチックの使用の削減」が下がっています。また、「地球温暖化問題に関心を持つ」の割合は令和6年度より上がっています。



II 調査結果

【属性比較別】

性別でみると、男性・女性ともに、「使い捨てプラスチックの使用の削減」、「産地が近い食品・食材の購入」の割合は、男性より女性が10ポイント以上高くなっています。

年代別でみると、40代と60代で「LED照明など省エネ機器の使用」が最も高く、それ以外の年代では「エネルギー(電気、ガス、燃料等)の節約」が最も高くなっています。

居住地区別でみると、中部で「LED照明など省エネ機器の使用」(58.6%)が最も高く、それ以外の地区では「エネルギー(電気、ガス、燃料等)の節約」が最も高くなっています。

単位：%

区分		回答者数 (件)	節約 エネルギー(電気、ガス、燃料等) の 使 用	LED 照 明 な ど 省 エ ネ 機 器 の 使 用	太 陽 光 発 電 、 蓄 電 池 設 備 の 設 置	電 気 自 動 車 、 ハイ ブ リ ッ ド 車 等 の 導 入	徒 歩 、 自 転 車 、 公 共 交 通 に よ る 移 動	敷 地 や 住 宅 の 緑 化	減 使 い 捨 て 塑 料 の 使 用 の 削 減	産 地 が 近 い 食 品 ・ 食 材 の 購 入	環 境 保 全 活 動 や 清 掃 活 動 へ の 参 加	地 球 温 暖 化 問 題 に 関 心 を 持 つ	湧 水 の 保 全 な ど 自 然 環 境 保 護 に 関 心 を 持 つ	そ の 他	無 回 答
全 体		1,058	62.4	57.6	14.4	16.8	33.2	23.3	25.6	33.9	13.7	31.7	21.2	0.5	2.4
性 別	男性	478	60.3	58.6	14.9	22.2	38.1	22.8	20.1	26.6	14.0	30.5	23.2	0.4	2.5
	女性	574	64.3	56.6	14.1	12.4	29.4	23.7	30.3	40.2	13.6	32.4	19.3	0.3	2.3
年 代 別	10代・20代	63	54.0	33.3	7.9	9.5	46.0	1.6	19.0	17.5	3.2	19.0	7.9	1.6	1.6
	30代	106	54.7	47.2	20.8	13.2	22.6	9.4	17.9	28.3	8.5	24.5	15.1	0.0	2.8
	40代	143	50.3	55.2	22.4	16.1	30.8	12.6	22.4	32.9	11.9	25.9	17.5	0.7	3.5
	50代	220	68.6	60.0	14.5	17.3	29.1	17.7	26.8	34.5	9.5	30.9	20.5	0.9	1.8
	60代	214	63.6	67.3	12.1	22.9	35.5	25.2	23.4	36.9	19.2	33.2	19.2	0.5	1.4
	70代以上	310	67.1	58.7	11.3	15.5	36.8	40.0	31.3	37.4	17.7	39.0	29.4	0.0	2.9
	西部	55	69.1	58.2	10.9	10.9	32.7	21.8	29.1	38.2	7.3	36.4	27.3	0.0	1.8
居 住 地 区 別	中部	87	57.5	58.6	8.0	14.9	44.8	16.1	18.4	40.2	9.2	31.0	21.8	1.1	4.6
	東部	355	55.8	51.5	13.0	18.3	38.0	16.3	26.2	29.0	12.1	29.0	22.0	0.8	2.5
	北上	213	66.2	59.6	19.7	20.7	23.5	29.6	22.1	38.5	19.2	32.4	17.8	0.0	2.3
	錦田	157	66.2	62.4	12.7	15.9	24.8	26.1	23.6	33.1	12.7	31.8	19.7	0.0	1.9
	中郷	146	69.2	62.3	17.1	14.4	37.0	32.2	30.8	36.3	14.4	34.9	19.9	0.7	2.1

1位

2位

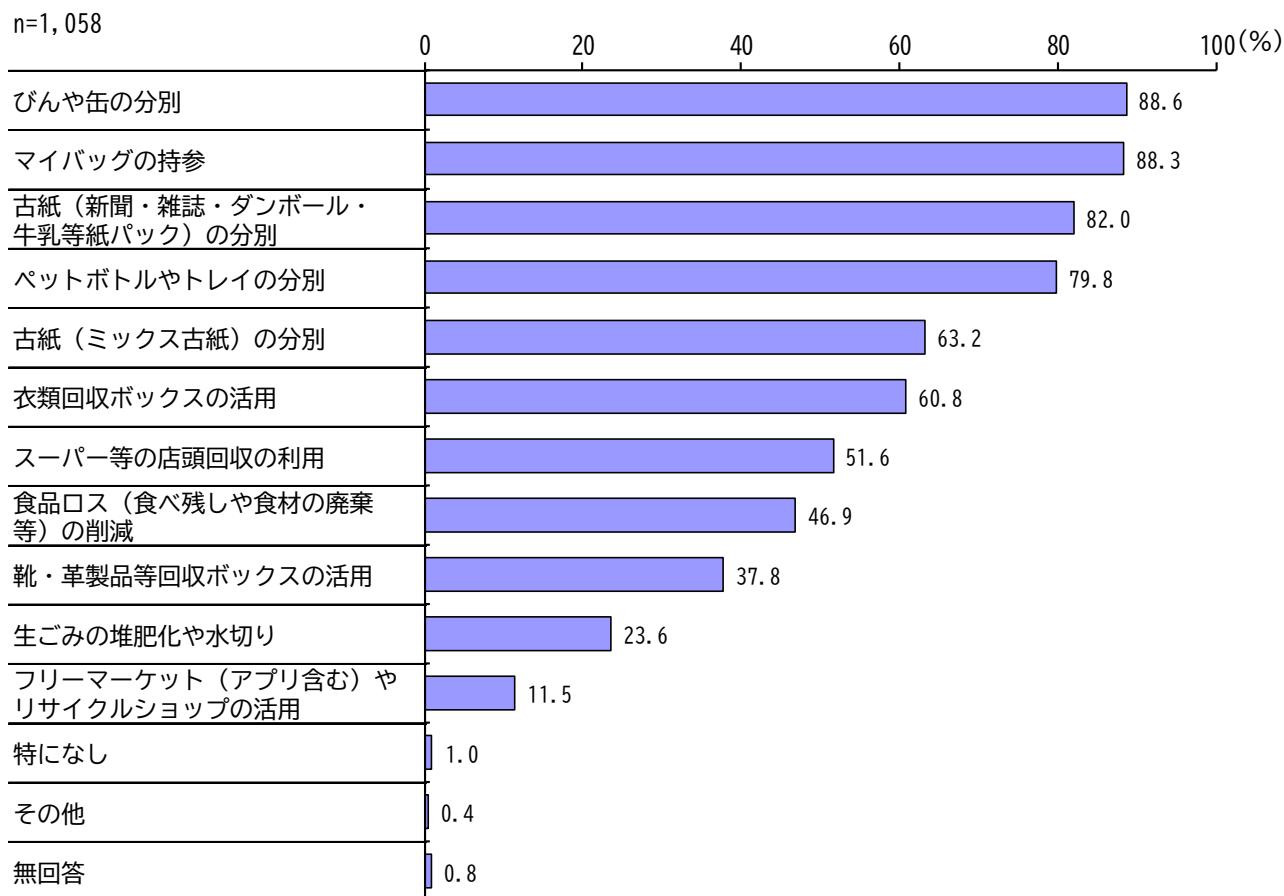
3位

(2) ゴミの減量やリサイクルへの取り組み

問 26 ゴミの減量やリサイクルについて、どのような取り組みをしていますか。(○はいくつでも)

－ 行っているゴミの減量やリサイクルへの取り組みは「びんや缶の分別」が 88.6% －

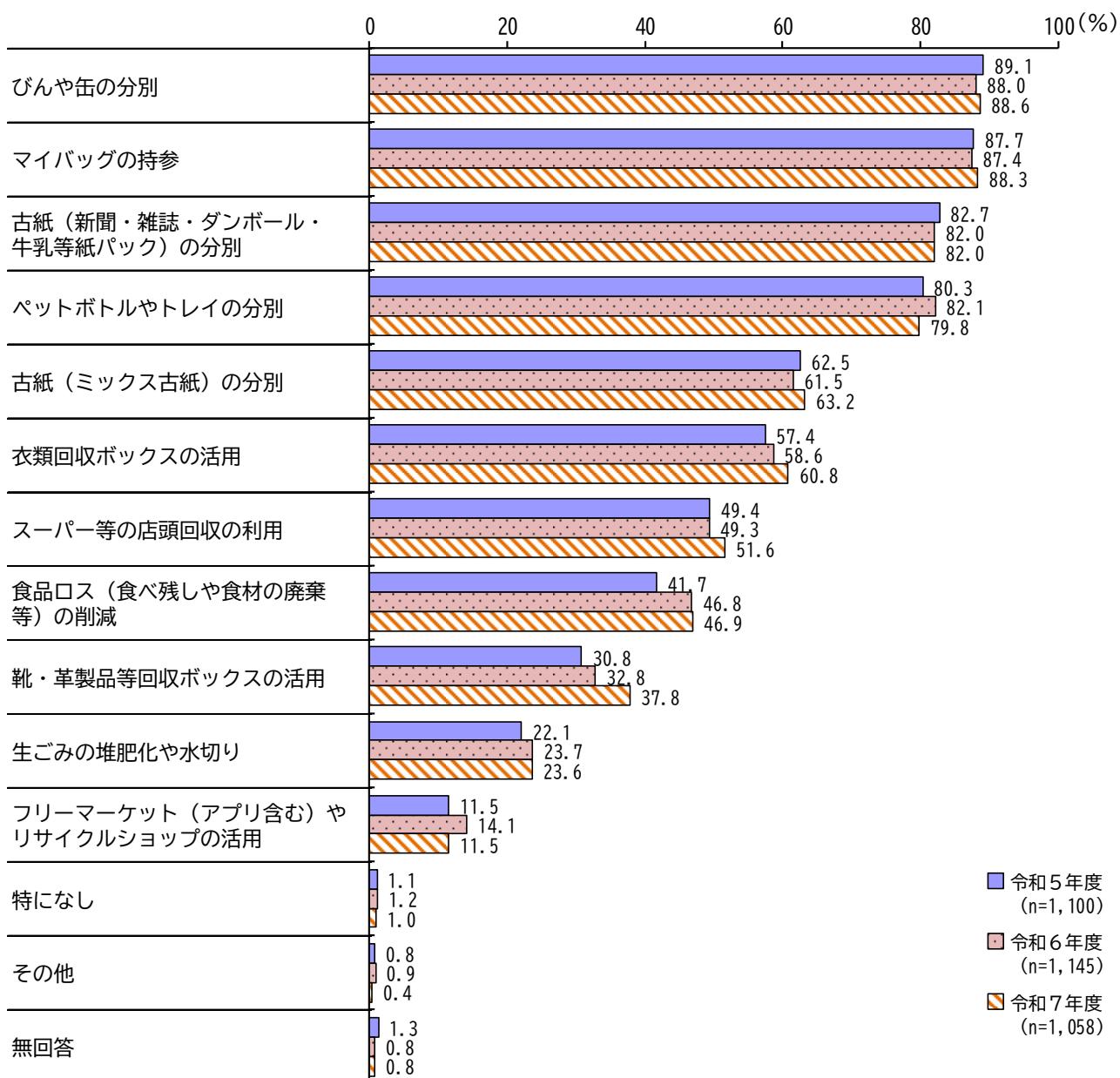
ゴミの減量やリサイクルへの取り組みについて、「びんや缶の分別」が 88.6% と最も高く、次いで「マイバッグの持参」が 88.3%、「古紙(新聞・雑誌・ダンボール・牛乳等紙パック)の分別」が 82.0% と 8割を超えて続いています。



II 調査結果

【経年比較】

過去調査と比較すると、令和5年度以降「食品ロス(食べ残しや食材の廃棄等)の削減」「靴・革製品等回収ボックスの活用」の割合が上がっています。



【属性比較別】

性別でみると、男性では「びんや缶の分別」(86.8%)が最も高く、女性では「マイバッグの持参」(94.6%)が最も高くなっています。

年代別でみると、「びんや缶の分別」と「マイバッグの持参」はいずれの年代でも上位3位に入っていますが、40代以下では「ペットボトルやトレイの分別」、50代以上では「古紙(新聞・雑誌・ダンボール・牛乳等紙パック)の分別」が高くなっています。

居住地区別でみると、「古紙(新聞・雑誌・ダンボール・牛乳等紙パック)の分別」は、北上(87.8%)が9割近くに達し最も高くなっています。

区分		回答者数(件)	生ごみの堆肥化や水切り	牛乳等紙パックの分別	古紙(新聞・雑誌・ダンボール・牛乳等紙パック)の分別	古紙(ミックス古紙)の分別	びんや缶の分別	ペットボトルやトレイの分別	スーパー等の店頭回収の利用	フリーサイクルシヨップの活用	食品ロス(食べ残しや食材の廃棄等)の削減	マイバッグの持参	衣類回収ボックスの活用	靴・革製品等回収ボックスの活用	特になし	その他	無回答
全 体		1,058	23.6	82.0	63.2	88.6	79.8	51.6	11.5	46.9	88.3	60.8	37.8	1.0	0.4	0.8	
性別	男性	478	20.7	80.3	59.6	86.8	76.8	47.1	8.6	45.0	80.8	51.3	31.4	1.9	0.4	0.6	
	女性	574	26.1	83.4	66.2	90.1	82.4	55.2	13.6	48.6	94.6	68.5	43.0	0.3	0.3	0.9	
年代別	10代・20代	63	15.9	52.4	33.3	60.3	58.7	33.3	20.6	34.9	87.3	34.9	20.6	3.2	0.0	0.0	
	30代	106	12.3	65.1	41.5	81.1	69.8	47.2	15.1	39.6	87.7	54.7	33.0	2.8	0.0	0.9	
	40代	143	21.0	75.5	59.4	88.1	80.4	49.7	14.7	44.8	83.9	64.3	35.0	0.7	0.7	0.0	
	50代	220	21.4	87.3	67.7	88.2	85.0	60.5	12.7	47.3	89.1	62.3	42.3	1.4	0.0	0.5	
	60代	214	22.9	85.0	68.2	90.7	82.7	53.3	8.4	46.3	90.2	63.6	39.3	0.5	1.4	0.9	
	70代以上	310	32.6	91.3	72.3	95.8	81.6	50.0	8.4	53.2	88.7	63.9	40.0	0.3	0.0	1.3	
居住地区別	西部	55	14.5	81.8	63.6	89.1	80.0	50.9	12.7	58.2	87.3	56.4	30.9	1.8	0.0	1.8	
	中部	87	27.6	80.5	66.7	92.0	81.6	52.9	13.8	49.4	92.0	57.5	39.1	1.1	0.0	2.3	
	東部	355	20.6	77.2	57.7	84.2	75.8	46.2	9.3	43.4	86.8	53.0	33.2	1.7	0.0	0.8	
	北上	213	27.7	87.8	66.2	88.3	82.6	57.3	12.2	45.5	88.3	70.0	45.1	0.0	0.5	0.9	
	錦田	157	24.8	84.1	67.5	91.7	84.1	59.9	12.7	41.4	90.4	67.5	38.9	0.6	0.6	0.0	
	中郷	146	24.0	84.9	65.8	92.5	80.1	47.3	12.3	55.5	86.3	66.4	41.8	1.4	1.4	0.0	

1位

2位

3位

II 調査結果

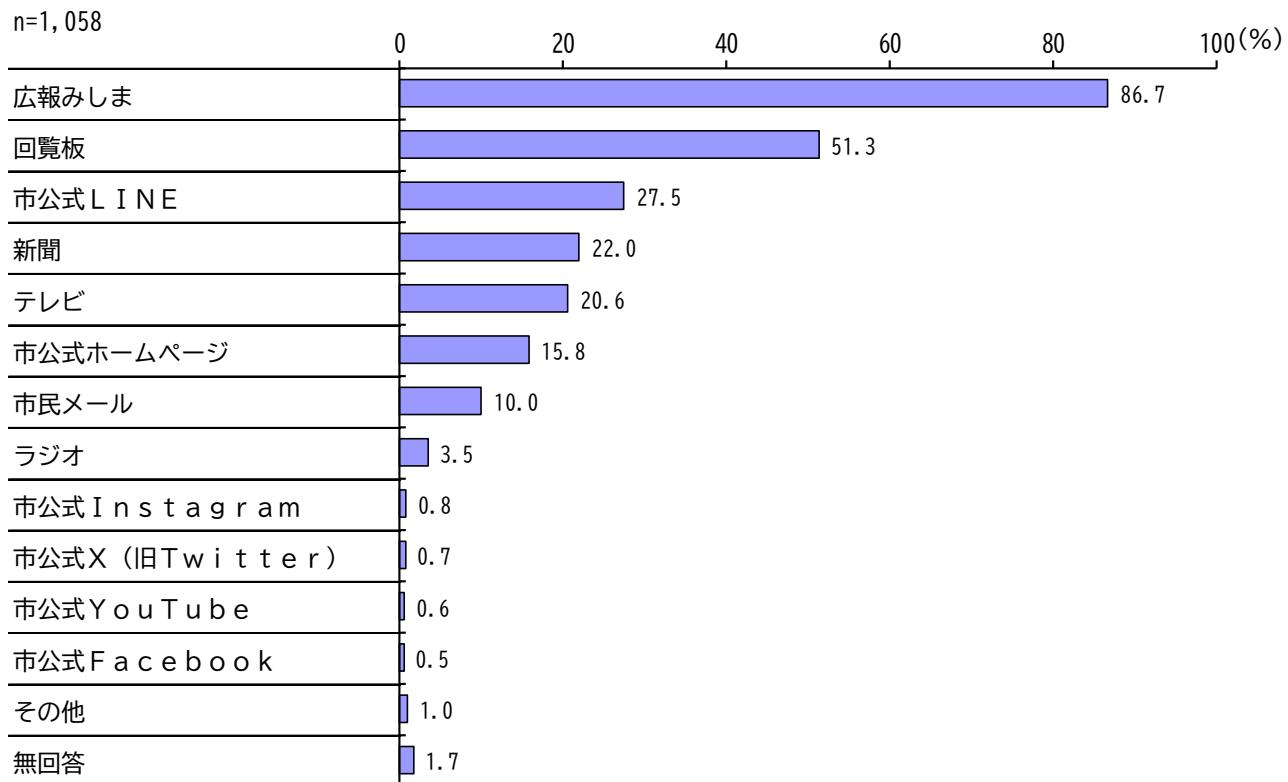
9 『広報活動』について

(1) 市政に関する情報入手先

問27 市政に関する情報はどの媒体から入手していますか。(○はいくつでも)

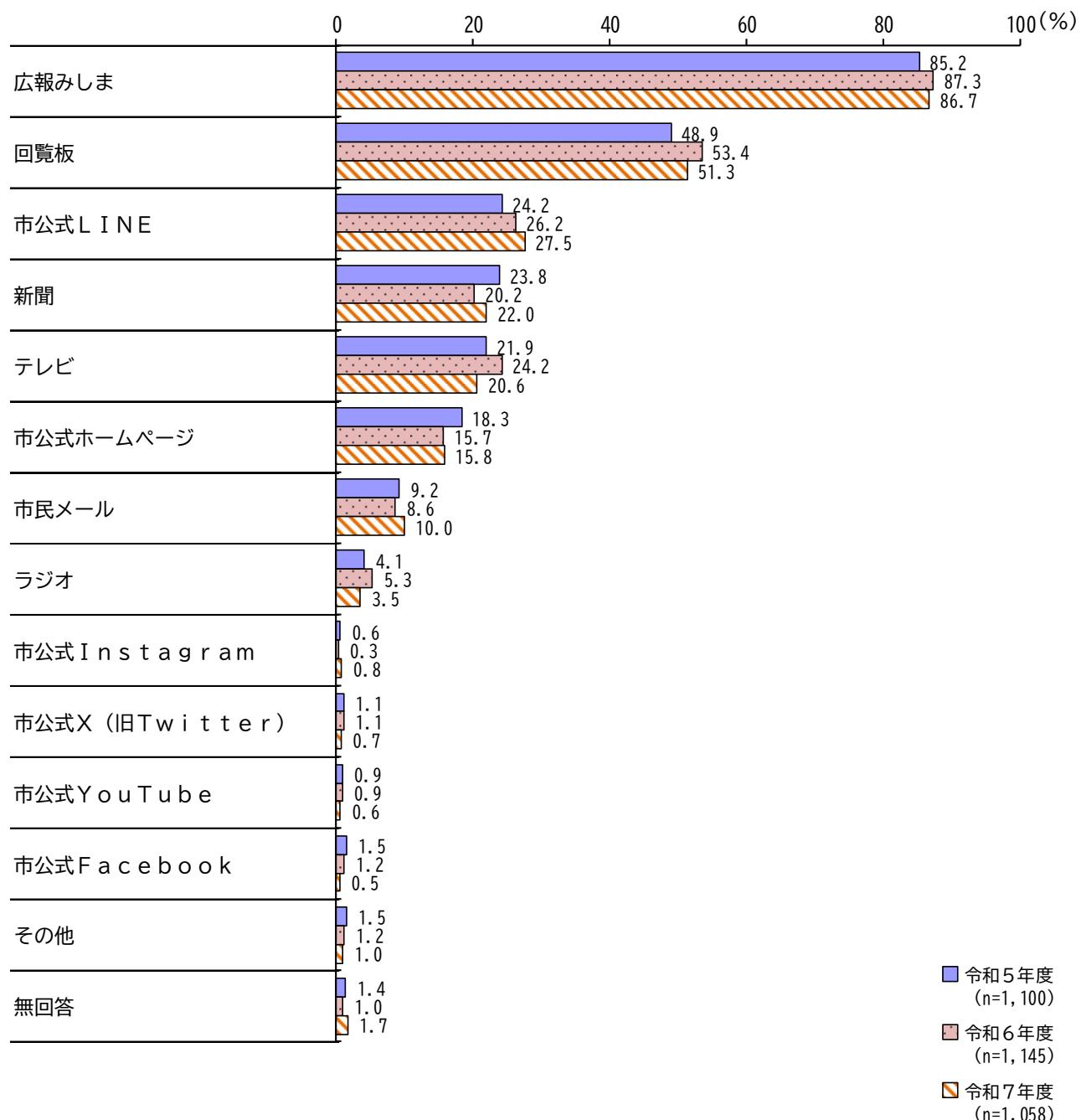
– 市政に関する情報入手先は「広報みしま」が 86.7% –

市政に関する情報入手先について、「広報みしま」が 86.7% と 8割半ばを超えて最も高く、次いで「回覧板」が 51.3%、「市公式LINE」が 27.5% と続いています。



【経年比較】

過去調査と比較すると、「テレビ」の割合は令和6年度より下がっています。



II 調査結果

【属性比較別】

性別でみると、「市公式LINE」の割合は、男性（23.0%）より女性（31.0%）の割合が高くなっています。

年代別でみると、「広報みしま」は年代が上がるにつれて高くなる傾向にあり、70代以上で9割を超えています。また、「市公式LINE」は、40代（44.8%）で4割半ばに達し、他の年代よりも高くなっています。

居住地区別でみると、「広報みしま」は、北上（90.1%）と中郷（91.1%）が9割台に達し高くなっています。

区分		回答者数 (件)	新聞	テレビ	ラジオ	広報みしま	回覧板	市公式ホームページ	市民メール	市公式LINE	ok市公式Facebook	ttter(旧Twit)	市公式X(Twi)	e市公式YouTube	r市公式Instagram	その他	無回答	単位：%
全 体		1,058	22.0	20.6	3.5	86.7	51.3	15.8	10.0	27.5	0.5	0.7	0.6	0.8	1.0	1.7		
性別	男性	478	24.7	20.5	3.8	86.0	48.3	19.7	8.2	23.0	0.4	1.3	0.8	0.4	1.5	2.1		
	女性	574	20.0	20.9	3.3	87.3	53.8	12.5	11.7	31.0	0.5	0.2	0.3	1.0	0.7	1.4		
年代別	10代・20代	63	4.8	25.4	1.6	65.1	31.7	12.7	3.2	25.4	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	3.2		
	30代	106	4.7	14.2	0.0	74.5	27.4	16.0	5.7	34.9	0.9	1.9	0.0	0.9	1.9	3.8		
	40代	143	14.0	12.6	5.6	86.0	42.0	14.0	7.7	44.8	0.7	2.1	0.7	2.1	0.0	2.1		
	50代	220	13.2	16.8	5.0	87.3	45.5	19.5	10.5	34.5	0.0	0.9	0.5	0.5	1.4	0.5		
	60代	214	24.3	19.2	4.7	89.7	57.0	21.0	12.1	26.6	0.5	0.0	1.4	0.9	1.4	0.9		
	70代以上	310	39.7	29.4	2.3	92.9	68.1	11.0	12.3	13.2	0.6	0.0	0.3	0.3	0.3	1.9		
居住地区別	西部	55	12.7	12.7	3.6	87.3	54.5	10.9	12.7	25.5	0.0	1.8	1.8	0.0	1.8	3.6		
	中部	87	21.8	17.2	3.4	87.4	41.4	17.2	10.3	32.2	0.0	5.7	1.1	2.3	3.4	2.3		
	東部	355	19.2	19.7	3.1	82.0	45.9	14.1	7.3	23.1	0.3	0.0	0.3	1.1	0.8	2.3		
	北上	213	26.3	23.5	2.3	90.1	59.6	15.0	11.7	31.0	1.4	0.5	1.4	0.0	0.9	0.9		
	錦田	157	23.6	22.3	3.2	88.5	56.1	22.3	14.6	35.7	0.0	0.0	0.0	0.6	1.3	1.3		
	中郷	146	26.0	19.9	5.5	91.1	54.1	16.4	6.8	25.3	0.7	0.0	0.0	0.7	0.0	0.7		

1位

2位

3位

10 『災害対策』について

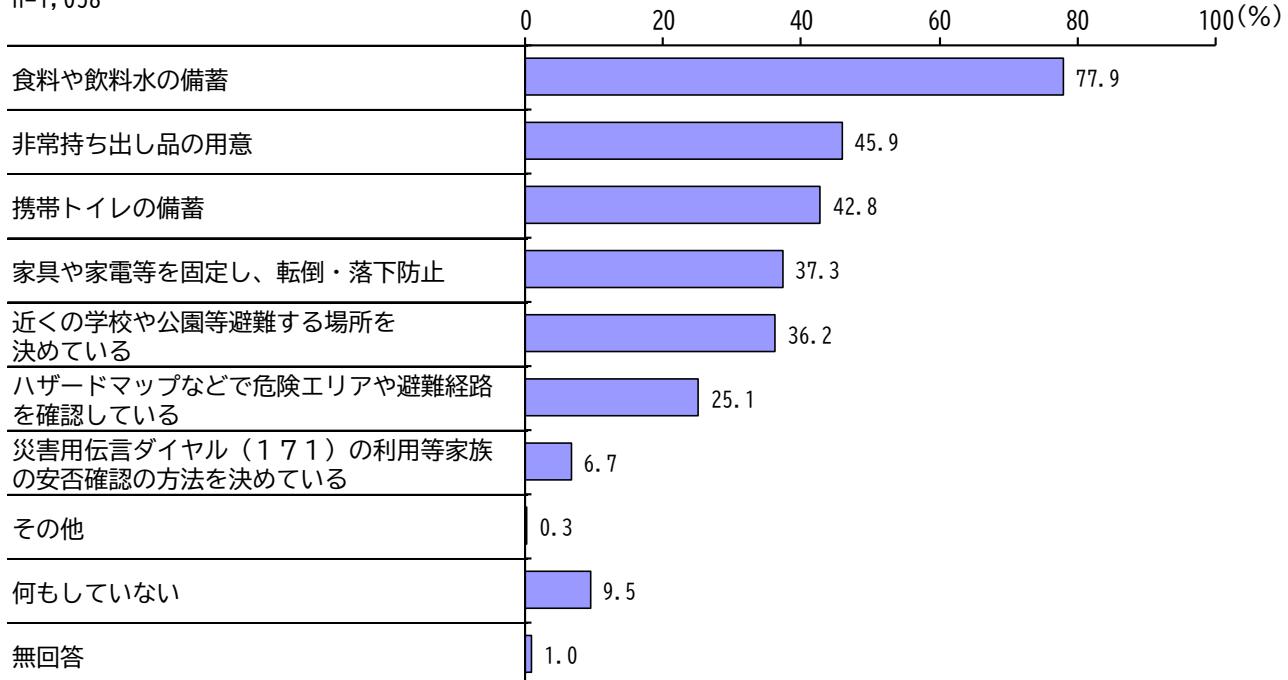
(1) 地震に備えた防災対策

問 28 地震に備えてどのような防災対策をしていますか。(○はいくつでも)

– 地震に備えた防災対策は「食料や飲料水の備蓄」が 77.9% –

地震に備えた防災対策について、「食料や飲料水の備蓄」が 77.9% と 7 割半ばを超えて最も高く、次いで「非常持ち出し品の用意」が 45.9%、「携帯トイレの備蓄」が 42.8% と続いています。

n=1,058

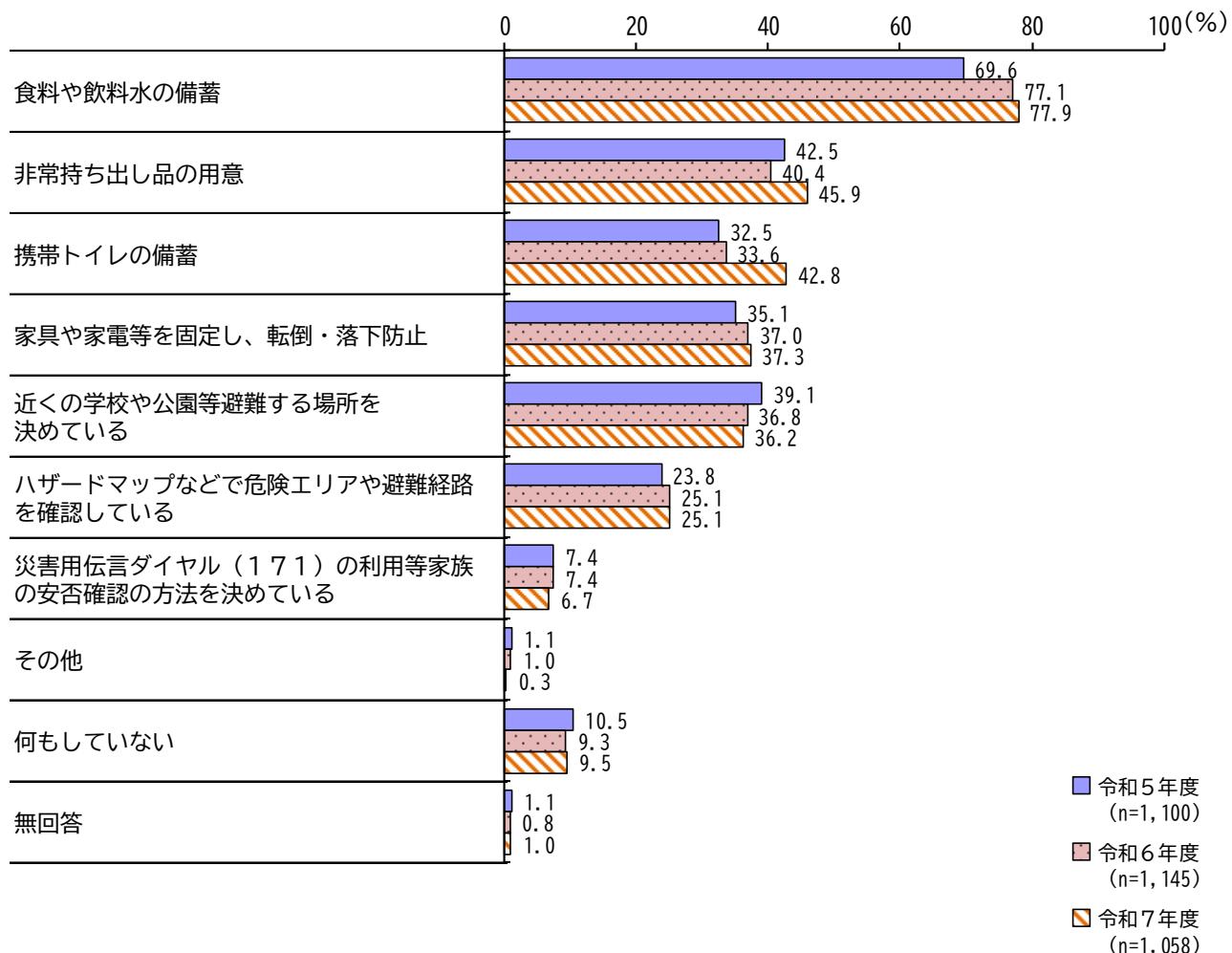


II 調査結果

【経年比較】

過去調査と比較すると、令和5年度以降「食料や飲料水の備蓄」「携帯トイレの備蓄」が上がっています。

また、「非常持ち出し品の用意」の割合は令和6年度より上がっています。



【属性比較別】

性別でみると、「携帯トイレの備蓄」は、男性（34.9%）より女性（49.5%）の割合が14.6ポイント高くなっています。

年代別でみると、「食料や飲料水の備蓄」は50代（83.6%）と70代以上（80.0%）で8割台に達して高くなっています。また、「近くの学校や公園等避難する場所を決めている」は、70代以上（47.4%）で5割近くに達し、他の年代よりも高くなっています。

居住地区別でみると、「携帯トイレの備蓄」は、西部（52.7%）が5割を超えて最も高くなっています。

単位：%

区分		回答者数 (件)	食料や飲料水の備蓄	携帯トイレの備蓄	非常持ち出し品の用意	倒・落下防止等を固定し、転	家具や家電等を固定し、転	災害用伝言ダイヤル（110）の利用等家族の安否確認の方法を決めている	近くの学校や公園等避難する場所を決めている	認険工エリアや避難経路を確	ハザードマップなどで危	その他	何もしていない	無回答
全 体	1,058	77.9	42.8	45.9	37.3	6.7	36.2	25.1	0.3	9.5	1.0			
性別	男性	478	75.7	34.9	43.5	38.1	6.3	34.7	29.9	0.4	13.0	0.8		
	女性	574	79.4	49.5	47.9	36.6	7.1	37.5	20.9	0.2	6.8	1.2		
年代別	10代・20代	63	68.3	36.5	42.9	23.8	4.8	23.8	12.7	0.0	19.0	0.0		
	30代	106	67.9	39.6	45.3	21.7	4.7	21.7	23.6	0.9	18.9	0.9		
	40代	143	77.6	42.7	46.2	31.5	4.9	40.6	23.8	0.0	11.2	0.0		
	50代	220	83.6	46.4	45.5	34.5	8.2	30.0	31.4	0.0	5.9	0.5		
	60代	214	76.6	49.5	45.8	42.1	6.5	34.6	25.7	0.5	9.8	0.9		
	70代以上	310	80.0	38.1	47.1	46.8	7.7	47.4	24.2	0.3	6.1	2.3		
居住地区別	西部	55	80.0	52.7	41.8	41.8	5.5	34.5	18.2	0.0	10.9	1.8		
	中部	87	83.9	49.4	51.7	36.8	6.9	29.9	24.1	0.0	11.5	2.3		
	東部	355	73.0	38.6	43.1	34.1	5.4	34.6	24.5	0.0	13.0	1.1		
	北上	213	81.7	44.1	49.3	42.3	7.5	34.3	22.5	0.0	5.2	1.4		
	錦田	157	77.7	47.8	44.6	33.8	9.6	40.8	29.3	1.3	8.9	0.0		
	中郷	146	80.8	38.4	48.6	42.5	4.8	40.4	30.1	0.7	6.2	0.7		

1位

2位

3位

II 調査結果

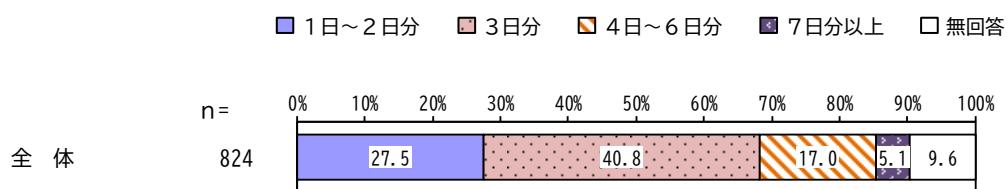
(2) 災害時用の備蓄状況

問 28 で「食料や飲料水の備蓄」を選択された方にお聞きします。

問 29 災害時に何日分の食料(レトルト食品、ラーメン、缶詰などを含む)や飲料水の備蓄(ひとり1日あたり3リットルで計算)をしていますか。(○は一つ)

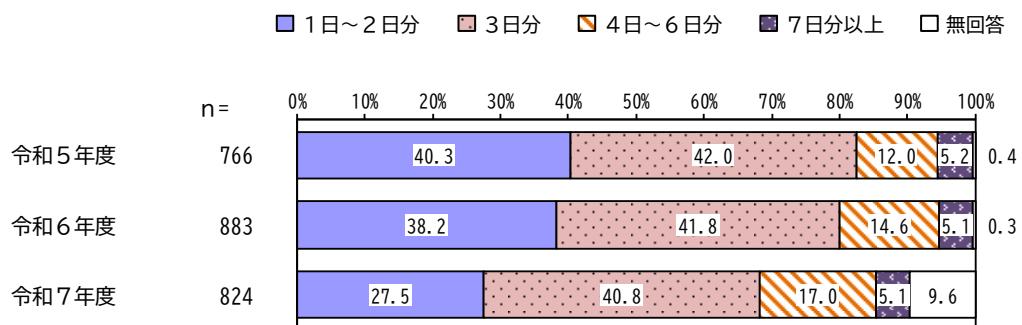
– 災害時用の食料・飲料水の備蓄状況は“1～3日分”が 68.3% –

災害時用の食料・飲料水の備蓄状況について、「3日分」が 40.8% と最も高く、次いで「1日～2日分」が 27.5% となっており、二つ合わせた “1～3日分” で 68.3% と 7割近くを占めています。



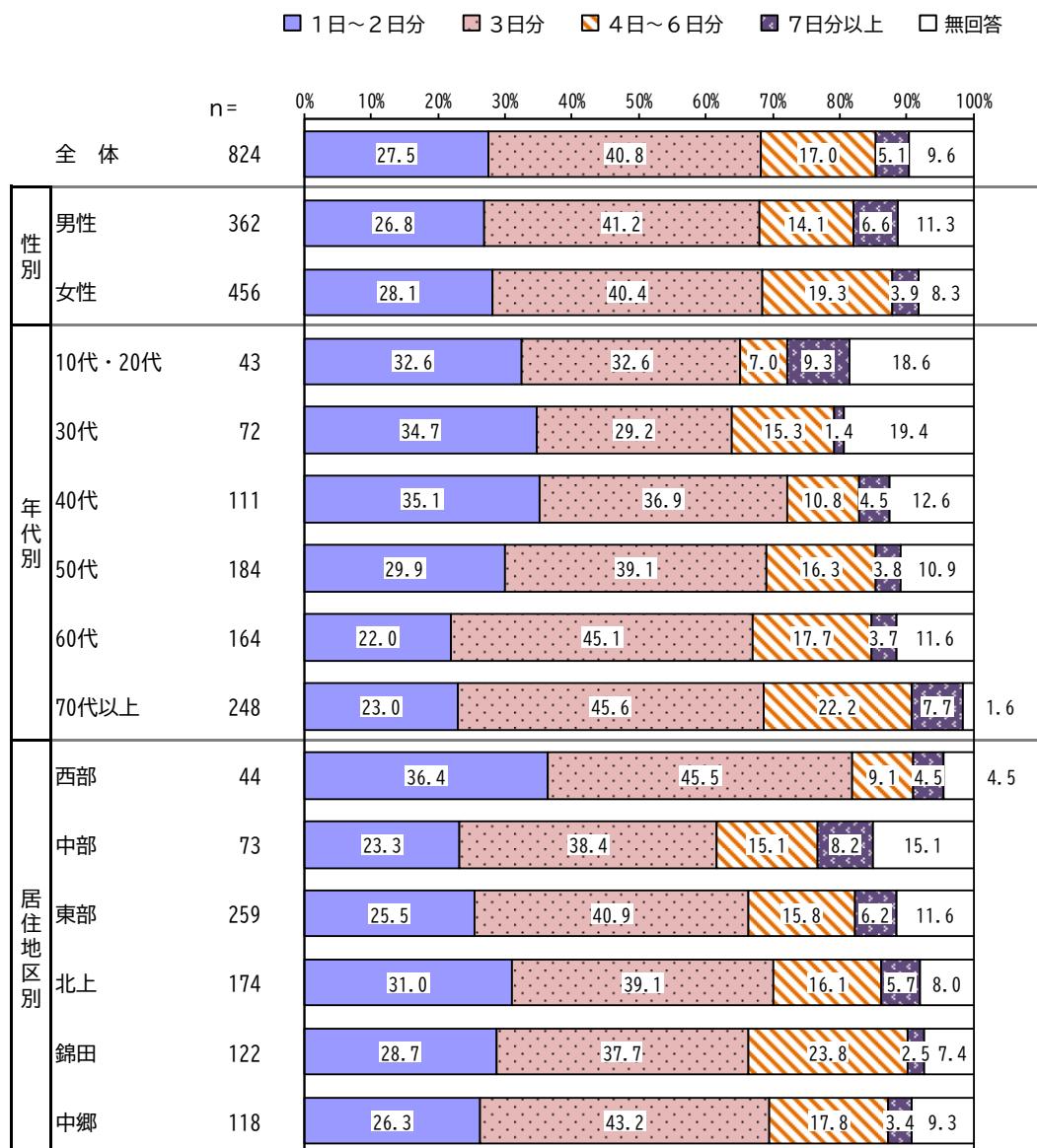
【経年比較】

過去調査と比較すると、令和5年度以降「4日～6日分」が上がっています。一方、「1日～2日分」が下がっています。



【属性比較別】

性別でみると、男性・女性ともに、「3日分」（男性 41.2%、女性 40.4%）が最も高くなっています。年代別でみると、60代以上では「3日分」が4割半ばを占めて高くなっています。居住地区別でみると、「1日～2日分」は、西部（36.4%）が3割半ばを占めて最も高くなっています。



II 調査結果

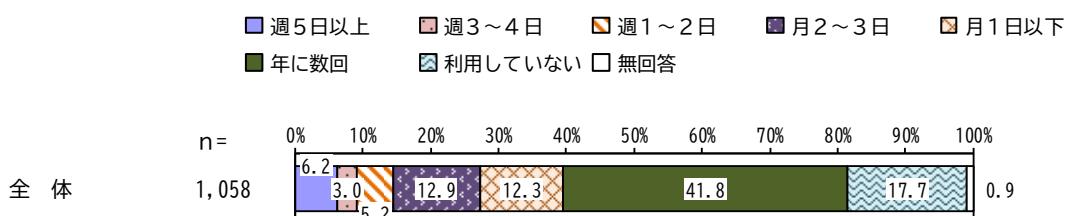
11 『公共交通』について

(1) 公共交通の利用状況

問 30 過去1年間に公共交通(電車、バス、タクシー)をどの程度利用しましたか。(○は一つ)

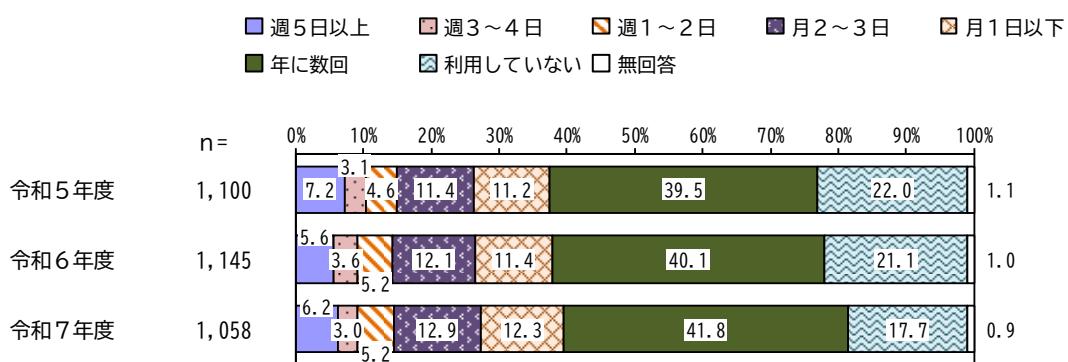
– 過去1年間の公共交通の利用状況は「年に数回」が41.8% –

過去1年間の公共交通の利用状況について、「年に数回」が41.8%と最も高く、次いで「利用していない」が17.7%、「月2～3日」が12.9%と続いています。



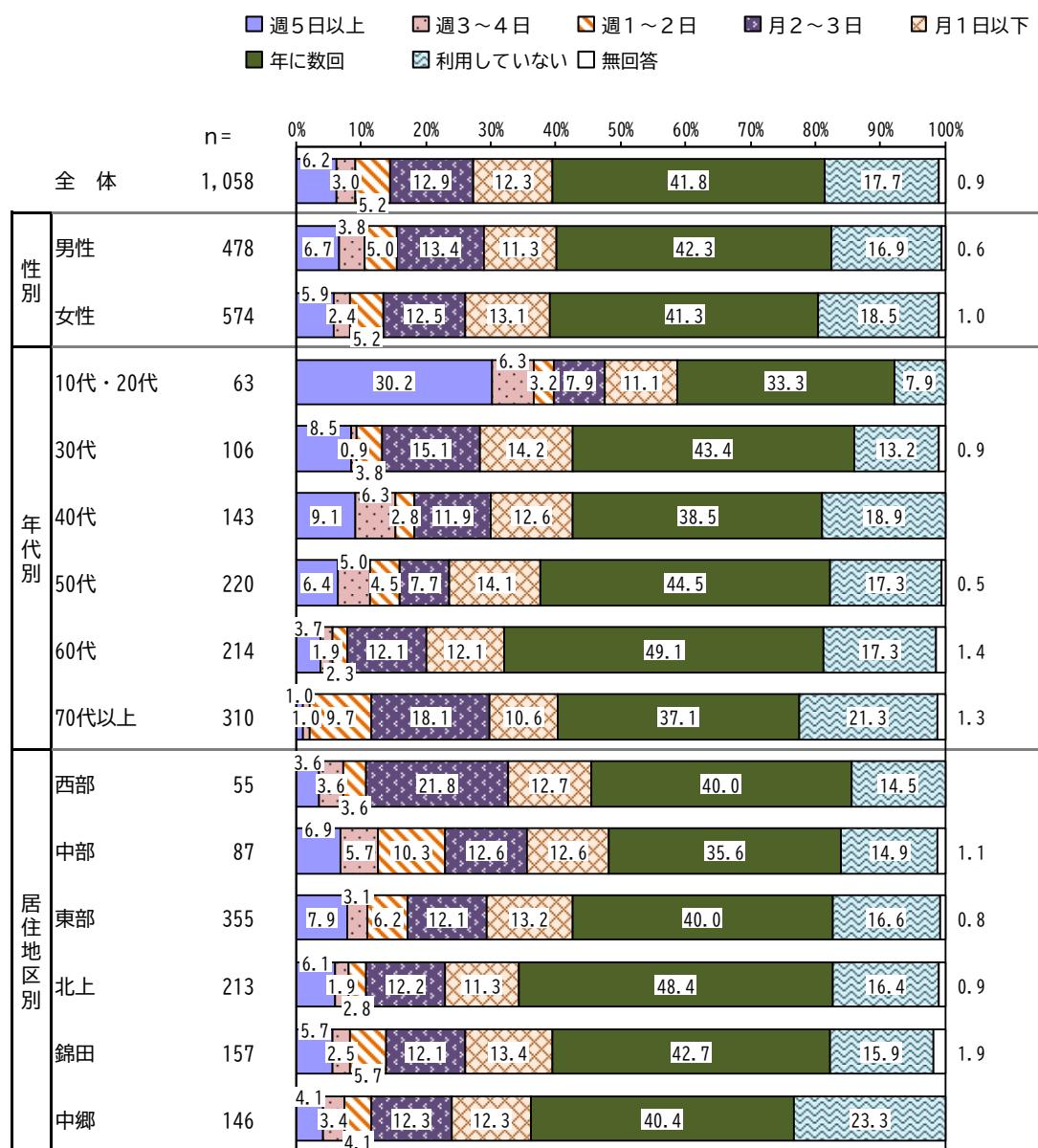
【経年比較】

過去調査と比較すると、令和5年度以降「利用していない」が下がっています。



【属性比較別】

性別でみると、男性・女性ともに、「年に数回」（男性 42.3%、女性 41.3%）が最も高くなっています。年代別でみると、「週5日以上」は、10代・20代（30.2%）で3割を占めて最も高くなっています。居住地区別でみると、「利用していない」は、中郷（23.3%）が最も高くなっています。



II 調査結果

12 『文化的環境』について

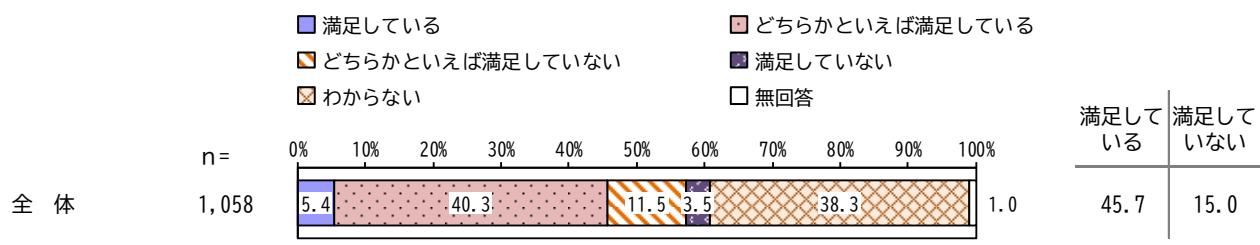
(1) 三島市の文化的環境の満足度

問 31 三島市の文化的環境(鑑賞機会、創作・参加機会、文化財や伝統的街並みの保存・整備など)に満足していますか。(○は一つ)

– 文化的環境に“満足している”は 45.7% –

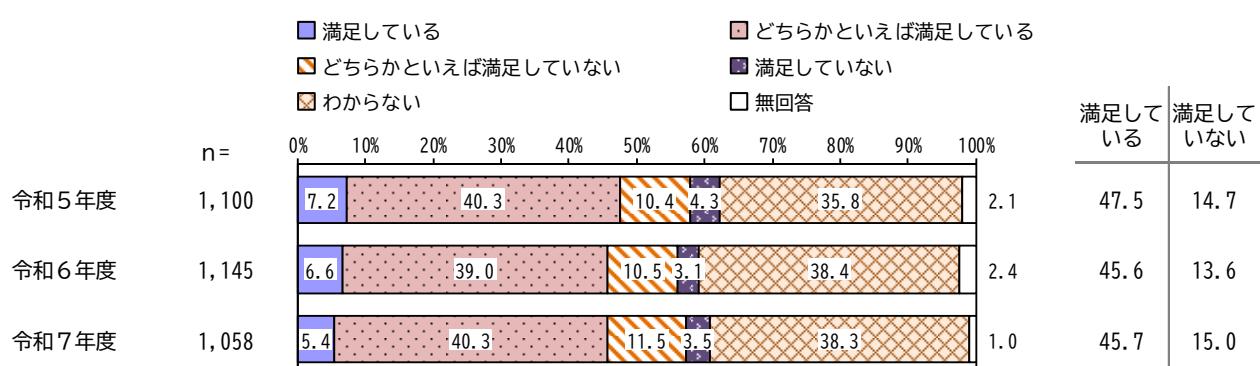
文化的環境に満足しているかについて、「満足している」(5.4%)と「どちらかといえば満足している」(40.3%)を合わせた“満足している”は45.7%となっています。

一方、「どちらかといえば満足していない」(11.5%)と「満足していない」(3.5%)を合わせた“満足していない”は15.0%となっています。



【経年比較】

過去調査と比較すると、令和6年度とあまり変化がありません。

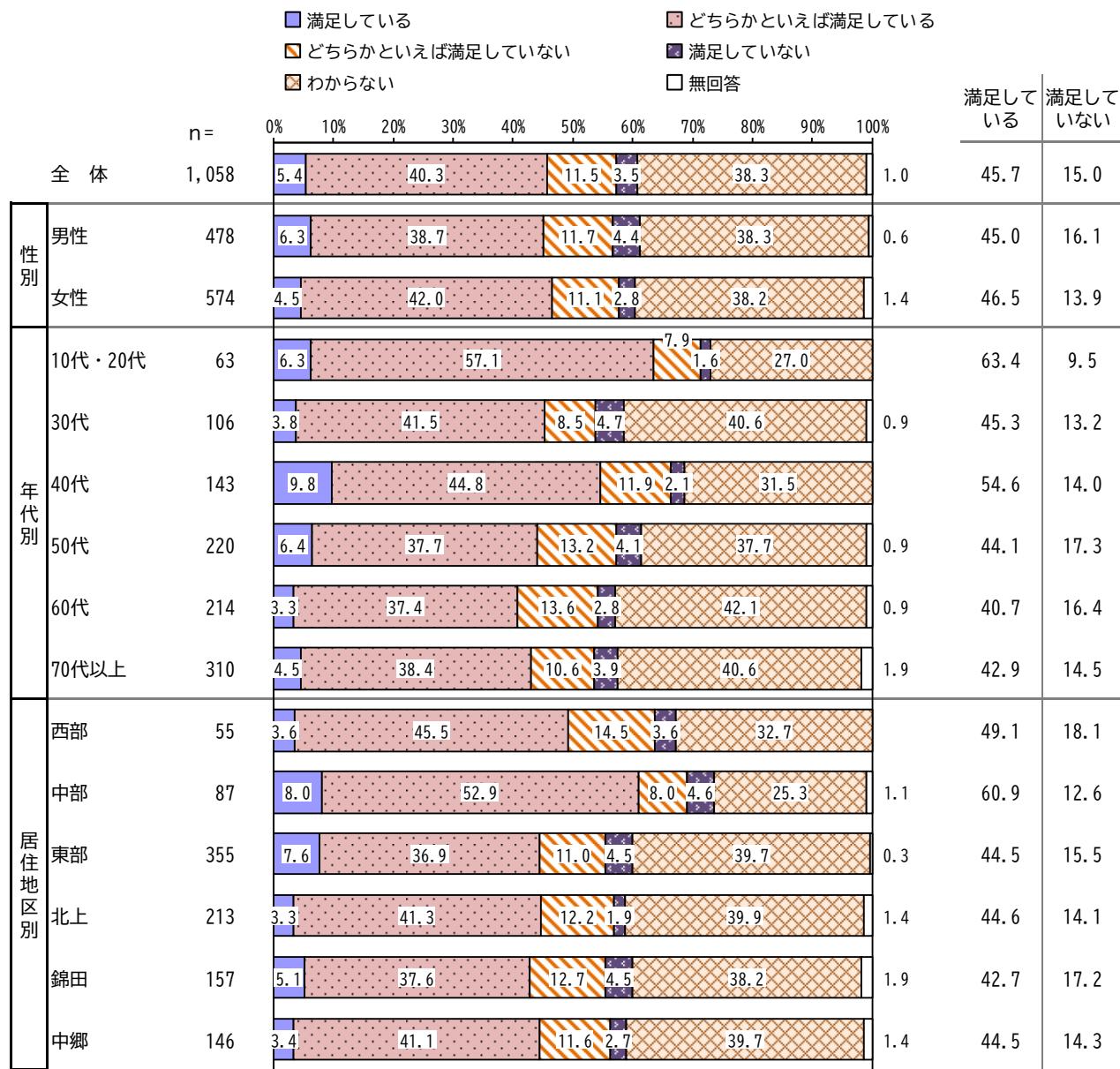


【属性比較別】

性別でみると、“満足している”（男性 45.0%、女性 46.5%）に大きな差異はみられません。

年代別でみると、“満足している”は、10代・20代（63.4%）で6割を超えて最も高くなっています。

居住地区別でみると、“満足している”は、中部（60.9%）が最も高くなっています。



満足している＝「満足している」+「どちらかといえば満足している」
 満足していない＝「どちらかといえば満足していない」+「満足していない」

II 調査結果

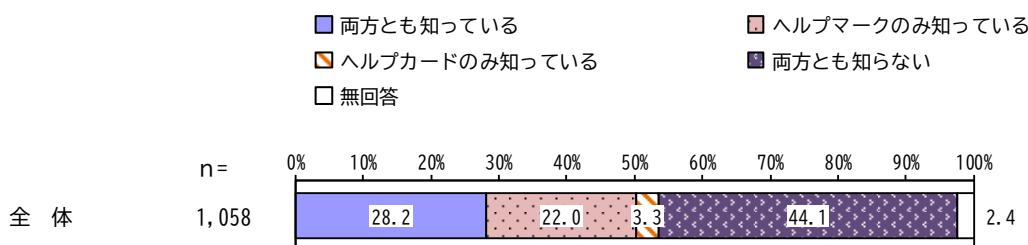
13 『障がいのある人への理解』について

(1) ヘルプマーク・ヘルプカードの認知状況

問32 ヘルプマーク・ヘルプカードを知っていますか。(○は一つ)

– ヘルプマーク・ヘルプカードを「両方とも知っている」は 28.2% –

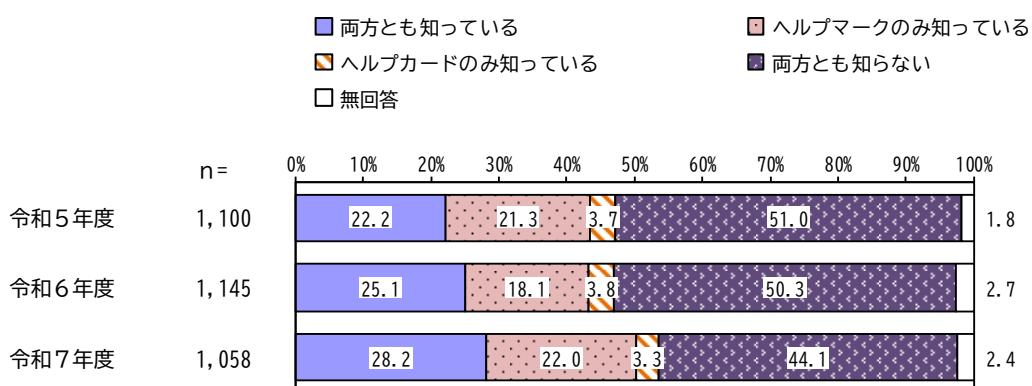
ヘルプマーク・ヘルプカードについて、「両方とも知らない」が 44.1% と最も高く、次いで「両方とも知っている」が 28.2%、「ヘルプマークのみ知っている」が 22.0% となっています。



【経年比較】

過去調査と比較すると、令和5年度以降「両方とも知っている」が上がっています。一方、「両方とも知らない」が下がっています。

また、「ヘルプマークのみ知っている」の割合は令和6年度より上がっています。

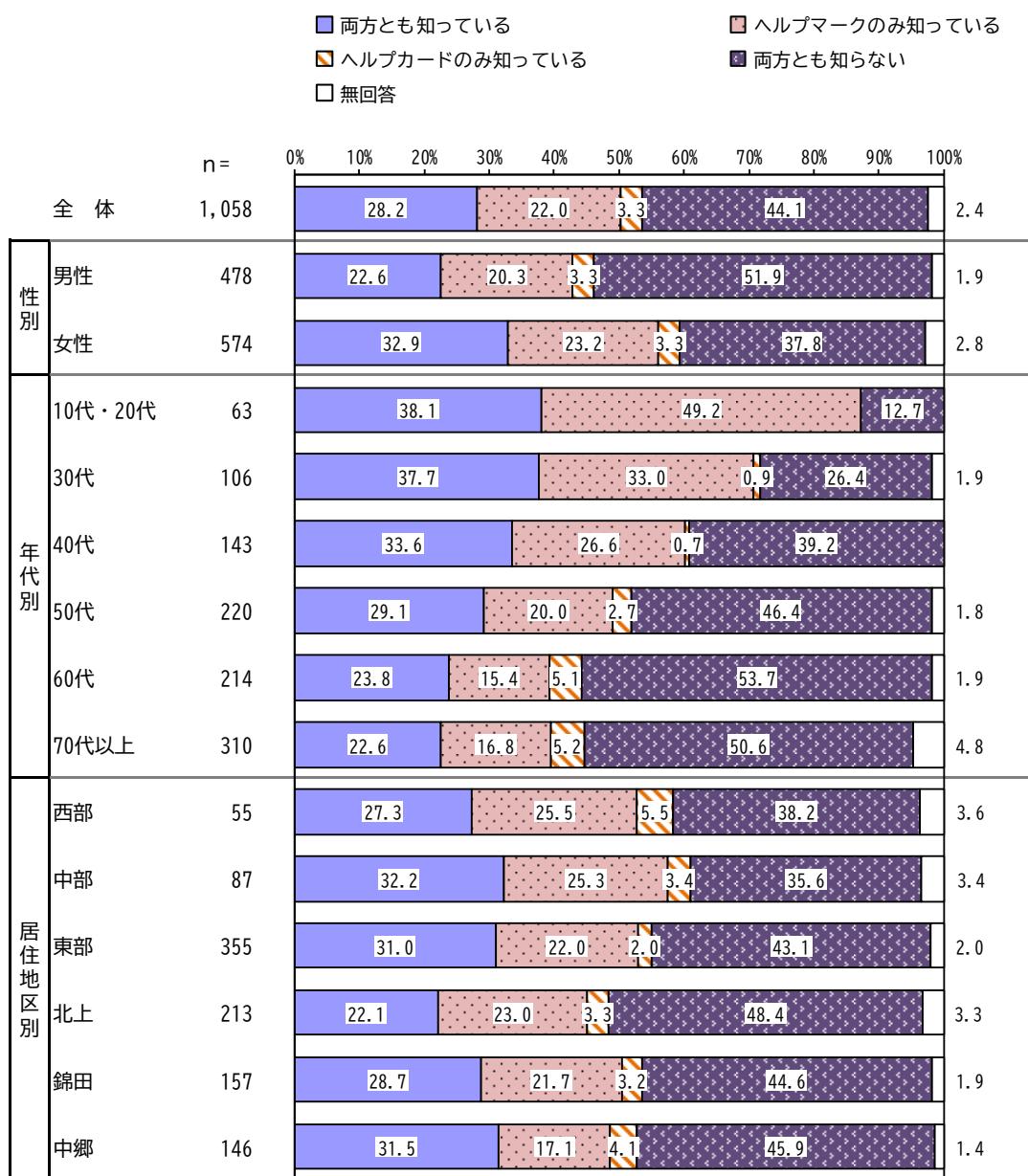


【属性比較別】

性別でみると、「両方とも知らない」は、男性（51.9%）の割合が、女性（37.8%）より14.1ポイント高くなっています。

年代別でみると、「両方とも知っている」は、年代が下がるにつれて高くなる傾向にあり、30代以下で4割近くを占めています。

居住地区別でみると、「両方とも知らない」は、北上（48.4%）が最も高くなっています。



II 調査結果

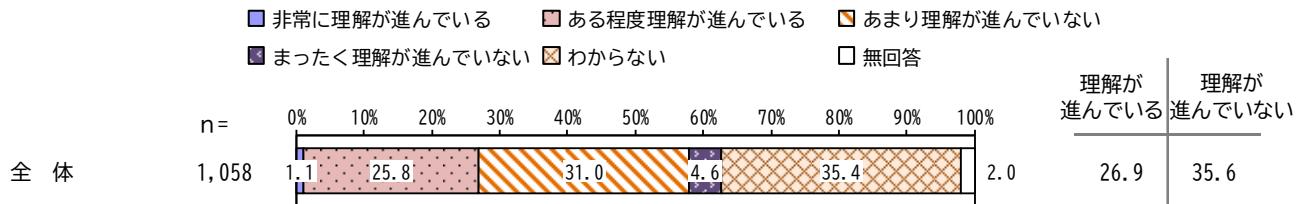
(2) 障がいのある人への理解促進状況

問33 市民の間に障がいのある人に対する理解が進んでいると感じますか。(○は一つ)

– 障がいのある人に対する“理解が進んでいる”と感じている割合は 26.9% –

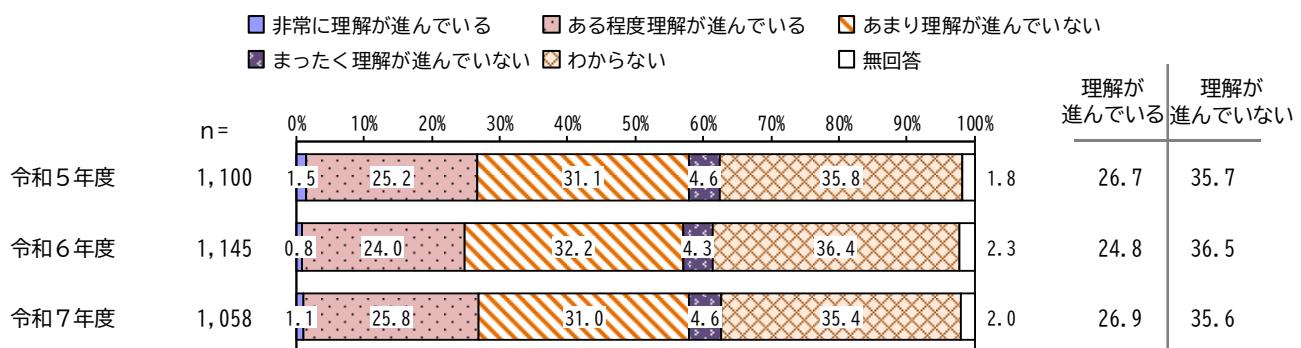
障がいのある人に対する理解の促進状況について、「非常に理解が進んでいる」(1.1%) と「ある程度理解が進んでいる」(25.8%) を合わせた “理解が進んでいる” は 26.9% となっています。

一方、「あまり理解が進んでいない」(31.0%) と「まったく理解が進んでいない」(4.6%) を合わせた “理解が進んでいない” は 35.6% となっています。



【経年比較】

過去調査と比較すると、令和6年度とあまり変化がありません。

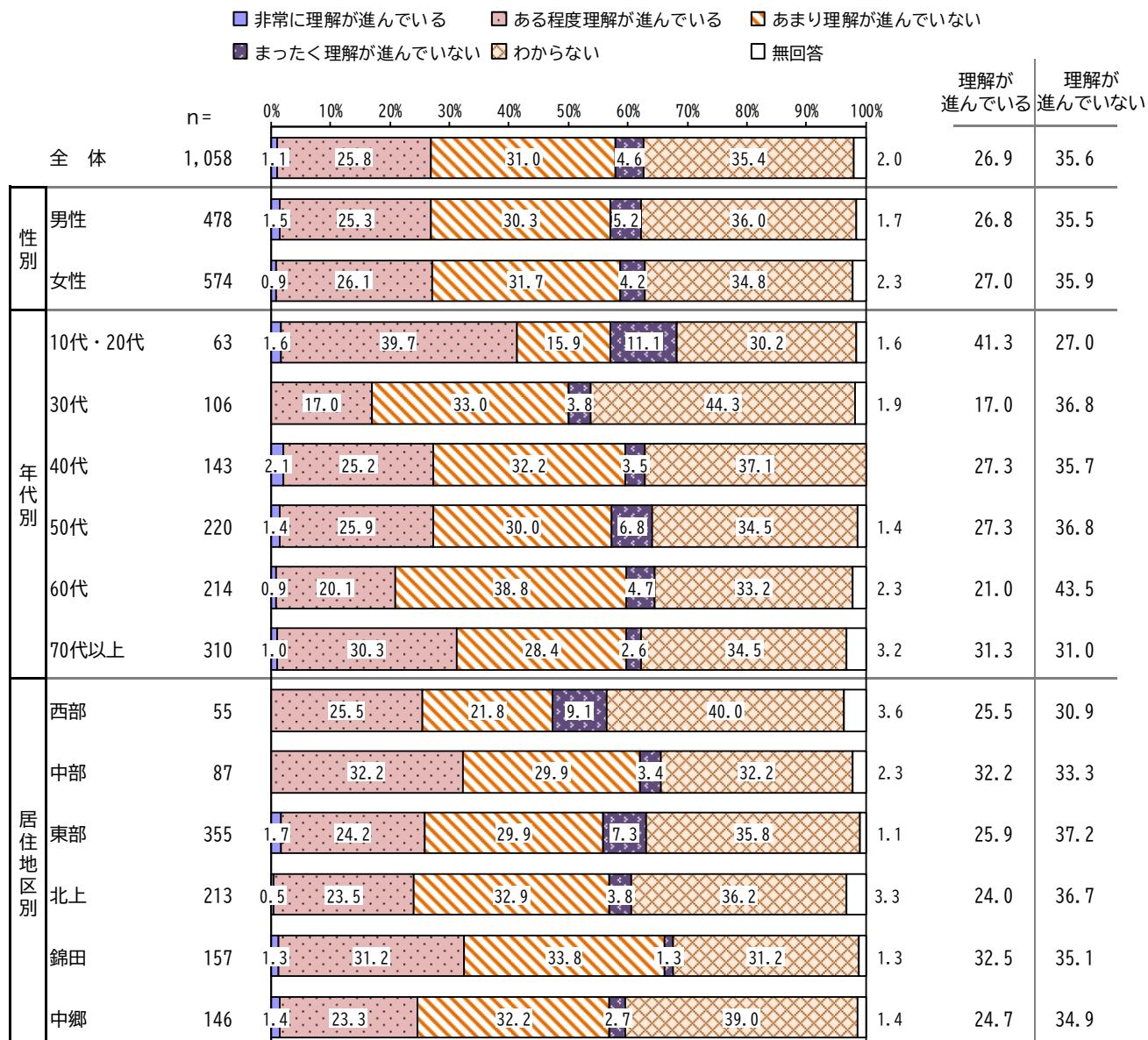


【属性比較別】

性別でみると、“理解が進んでいる”（男性 26.8%、女性 27.0%）に大きな差異はみられません。

年代別でみると、“理解が進んでいる”は、10代・20代（41.3%）が最も高くなっています。

居住地区別でみると、“理解が進んでいる”は、中部（32.2%）と錦田（32.5%）が3割を超えて高くなっています。



II 調査結果

14 『男女共同参画』について

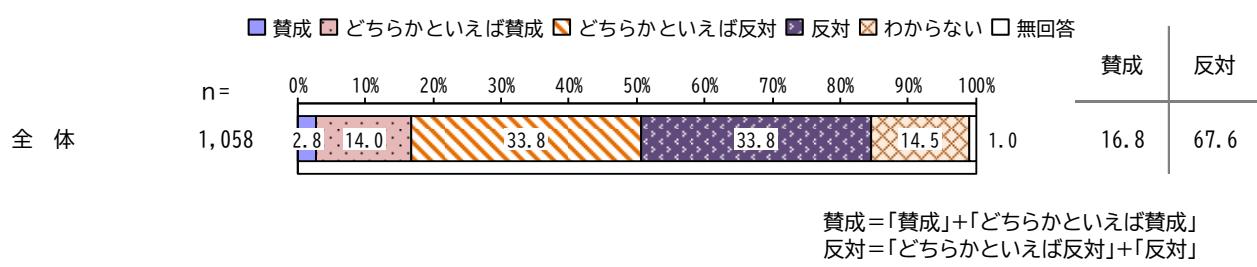
(1) 性別役割分担意識

問34 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方についてどう思いますか。(○は一つ)

– 性別役割分担意識に“反対”は 67.6% –

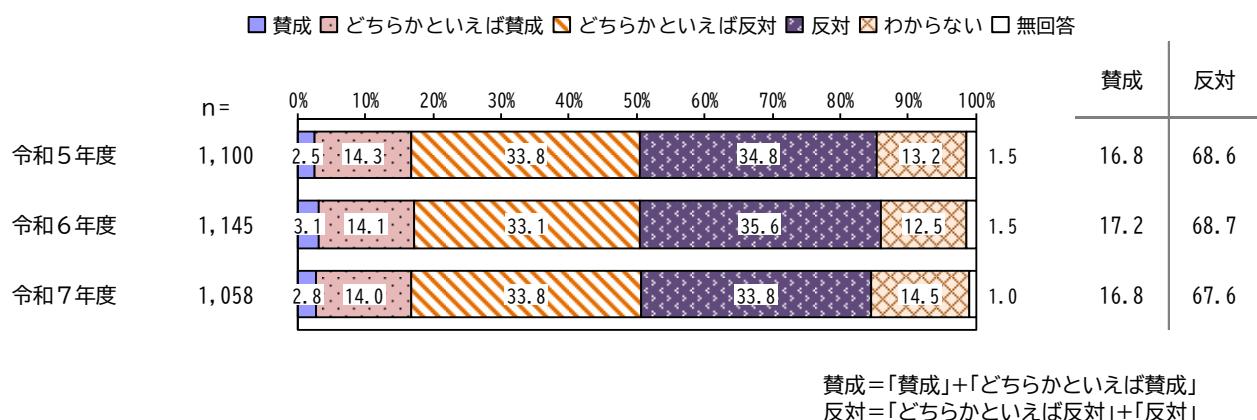
「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について、「賛成」(2.8%)と「どちらかといえば賛成」(14.0%)を合わせた“賛成”は 16.8% となっています。

一方、「どちらかといえば反対」(33.8%) と「反対」(33.8%) を合わせた“反対”は 67.6% となっています。



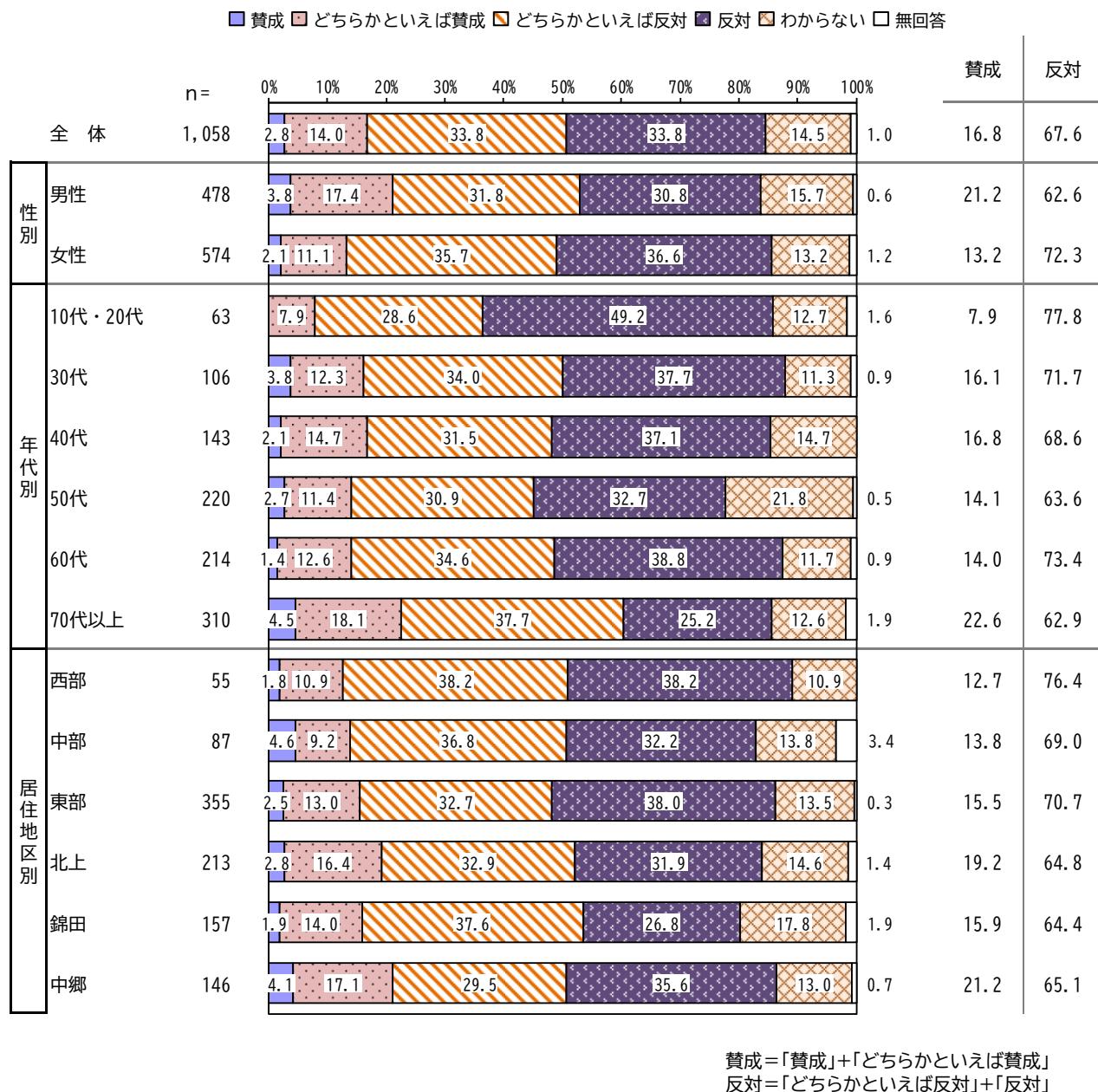
【経年比較】

過去調査と比較すると、令和6年度とあまり変化がありません。



【属性比較別】

性別でみると、“賛成”は、男性（21.2%）の割合が、女性（13.2%）より高くなっています。
 年代別でみると、“賛成”は、70代以上（22.6%）が2割を超えて最も高くなっています。
 居住地区別でみると、“賛成”は、中郷（21.2%）が最も高くなっています。



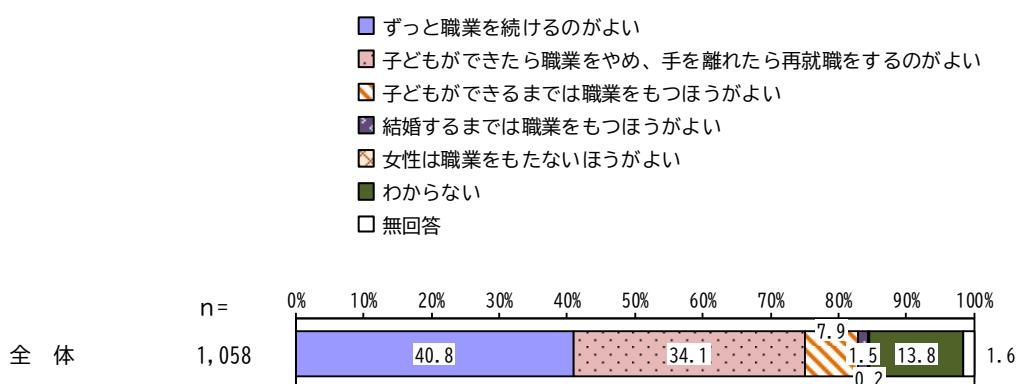
II 調査結果

(2) 望ましい女性の働き方

問35 一般的に女性の働き方で望ましいと思われるものはどれが一番近いですか。(○は一つ)

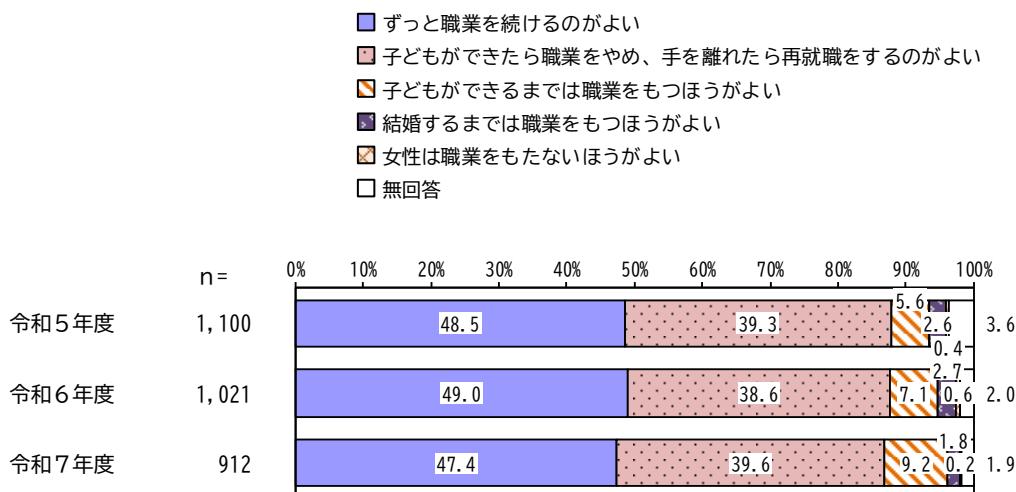
– 女性の働き方で望ましいと思われるものは「ずっと職業を続けるのがよい」が40.8% –

女性の働き方で望ましいと思われるものについて、「ずっと職業を続けるのがよい」が40.8%と最も高く、次いで「子どもができたら職業をやめ、手を離れたら再就職をするのがよい」が34.1%となっています。



【経年比較】

過去調査と比較すると、令和6年度とあまり変化がありません。

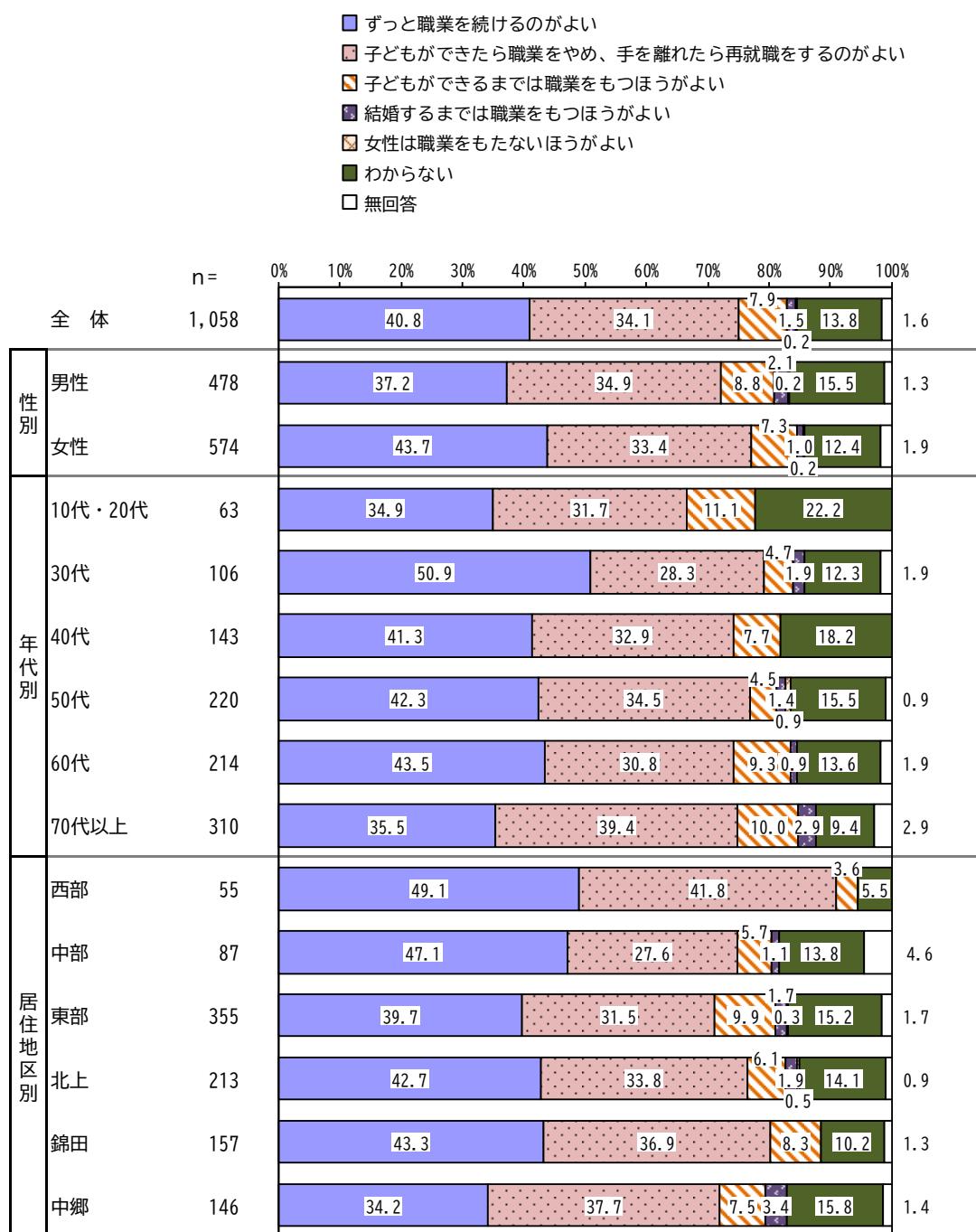


【属性比較別】

性別でみると、「ずっと職業を続けるのがよい」は、男性（37.2%）より女性（43.7%）の割合が高くなっています。

年代別でみると、「ずっと職業を続けるのがよい」は、30代（50.9%）で5割を占め、「子どもができたら職業をやめ、手を離したら再就職をするのがよい」は、70代以上（39.4%）で約4割を占めて最も高くなっています。

居住地区別でみると、「子どもができたら職業をやめ、手を離したら再就職をするのがよい」は、西部（41.8%）が4割を超えて最も高くなっています。



II 調査結果

(3) 男女平等の認識について

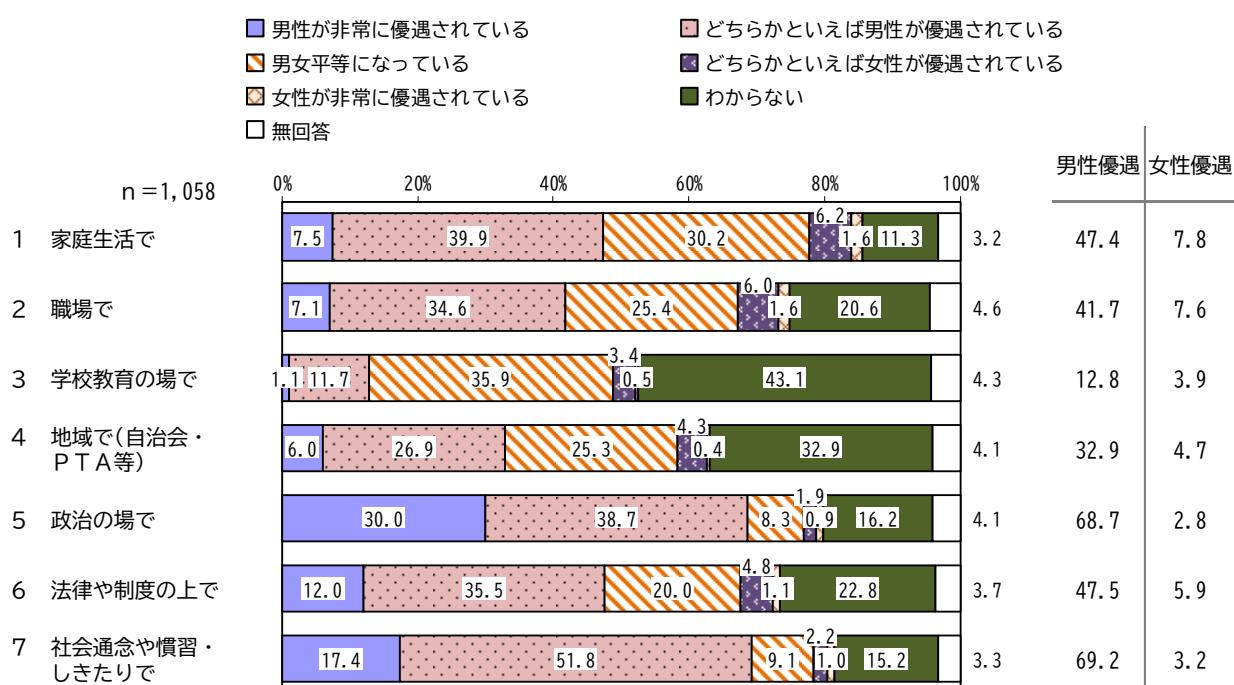
問36 次のような分野で男女は平等になっていると思いますか。(それぞれ○は一つ)

– 「男女平等になっている」と感じている割合が最も高いのは『学校教育の場で』で35.9% –

男女平等の認識について、「男性が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた“男性優遇”は、『7 社会通念や慣習・しきたりで』が最も高くなっています。

一方、「どちらかといえば女性が優遇されている」と「女性が非常に優遇されている」を合わせた“女性優遇”は『1 家庭生活で』が最も高くなっています。

また、「男女平等になっている」は、『3 学校教育の場で』が最も高くなっています。



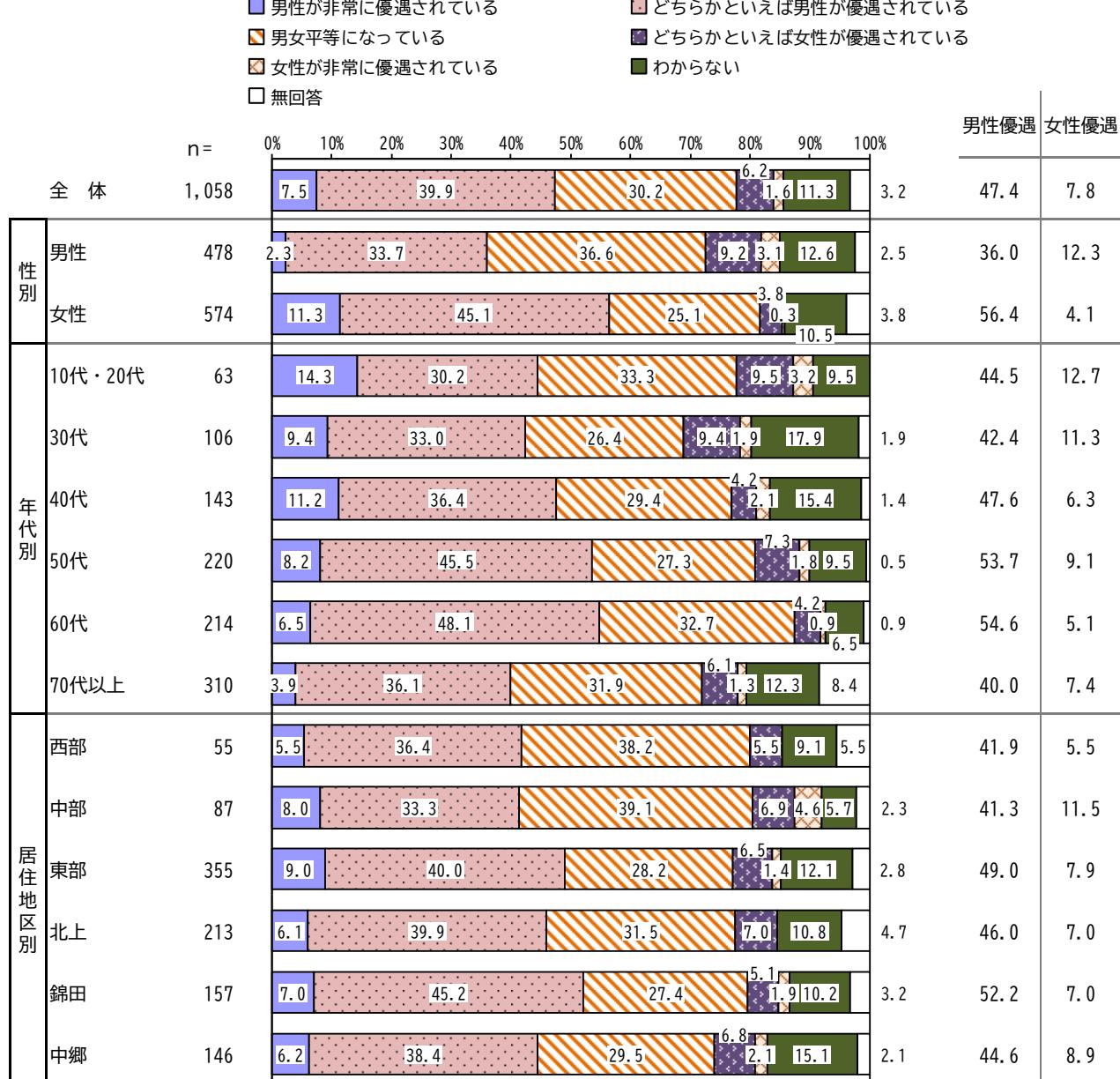
(36)-1 家庭生活で

【属性比較別】

性別でみると、“男性優遇”は、男性（36.0%）より女性（56.4%）の割合が20.4ポイント高くなっています。

年代別でみると、“男性優遇”は、50代（53.7%）と60代（54.6%）で5割台と高くなっています。

居住地区別でみると、“男性優遇”は、錦田（52.2%）が最も高くなっています。



男性優遇＝「男性が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性が優遇されている」

女性優遇＝「女性が非常に優遇されている」+「どちらかといえば女性が優遇されている」

II 調査結果

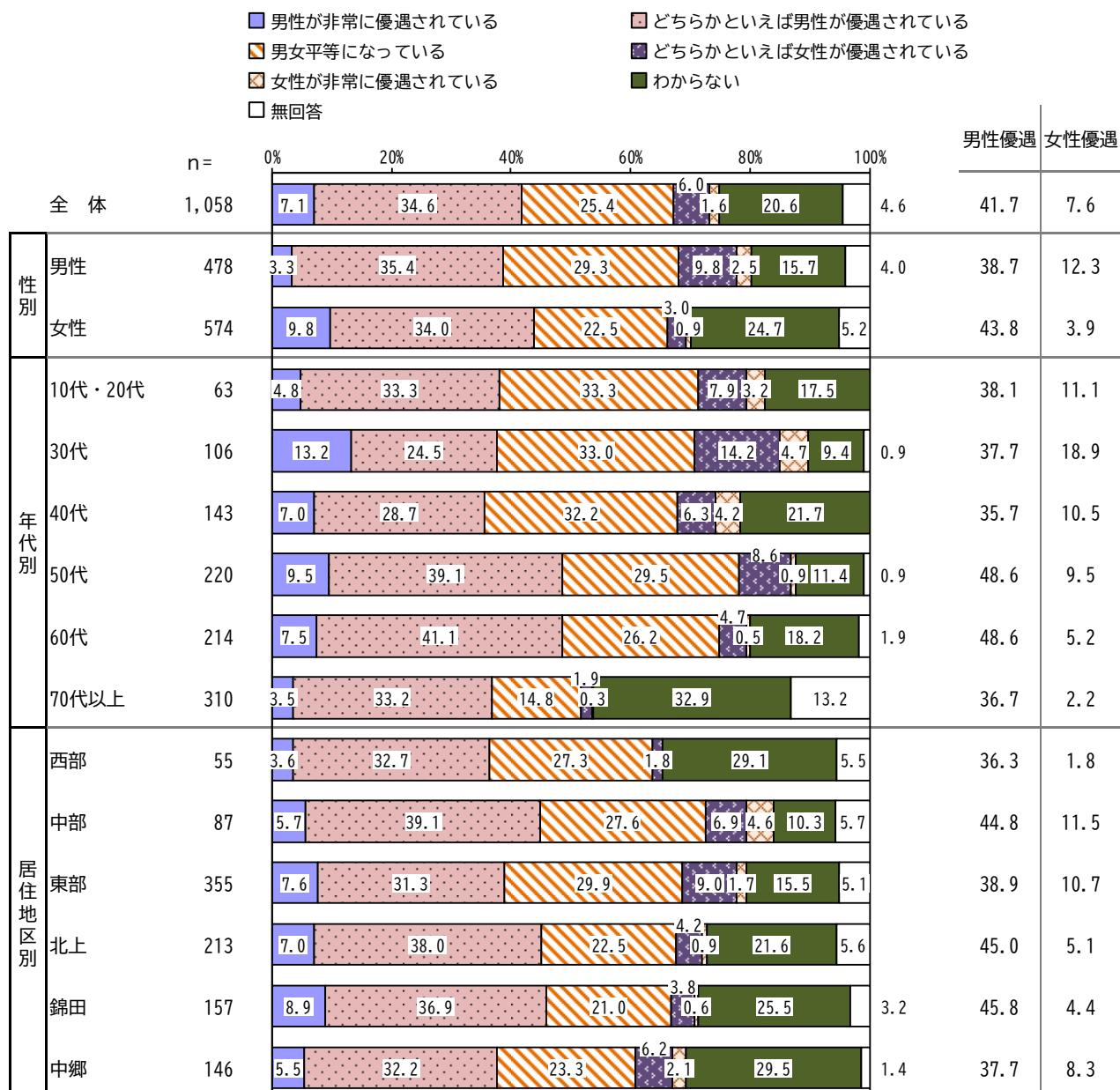
(36)-2 職場で

【属性比較別】

性別でみると、“女性優遇”は、男性（12.3%）の割合が女性（3.9%）より高くなっています。

年代別でみると、“女性優遇”は、30代（18.9%）で2割近くを占め最も高くなっています。

居住地区別でみると、“女性優遇”は、中部（11.5%）と東部（10.7%）で1割台と、他の地区よりも高くなっています。



男性優遇＝「男性が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性が優遇されている」

女性優遇＝「女性が非常に優遇されている」+「どちらかといえば女性が優遇されている」

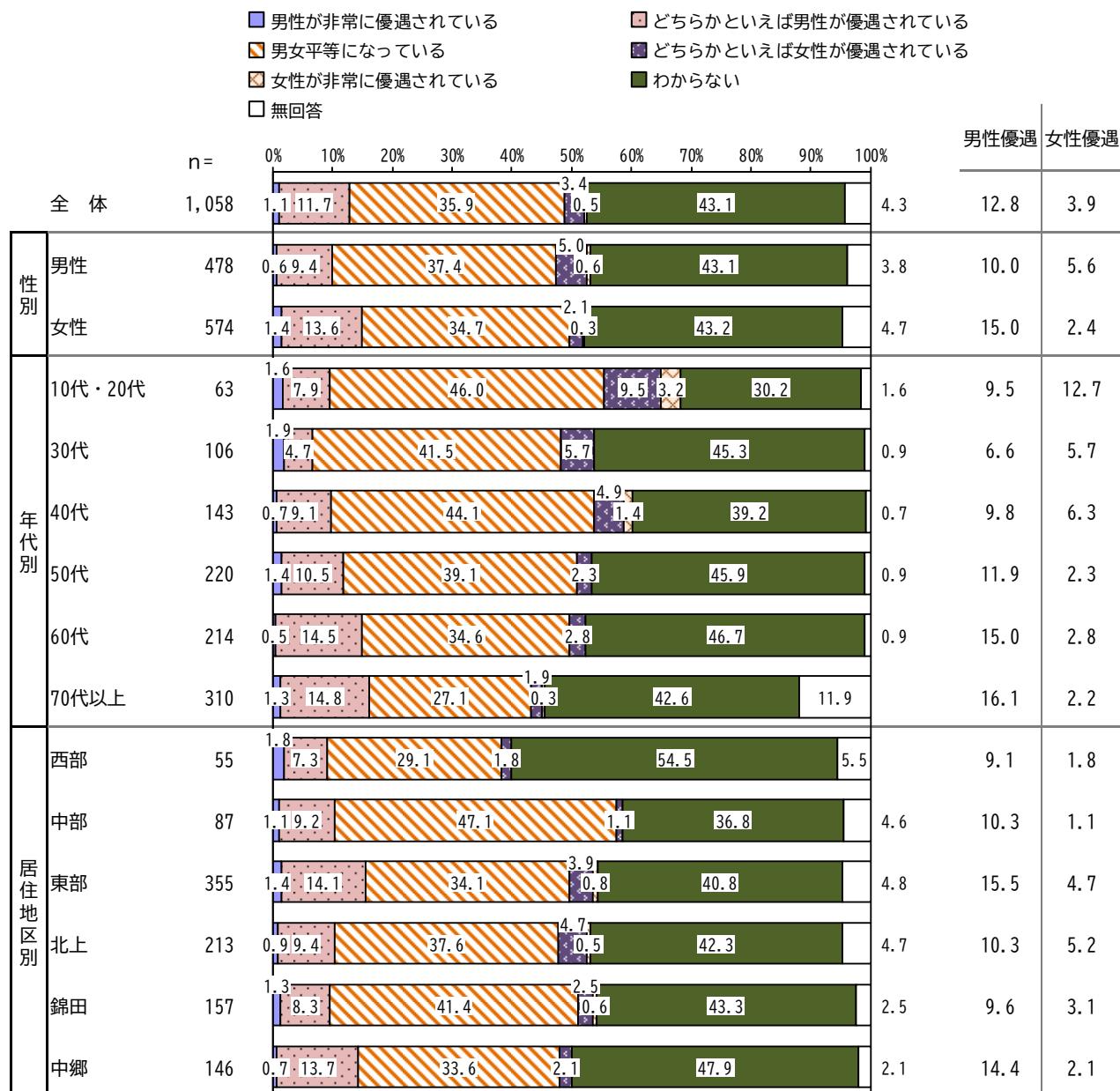
(36)-3 学校教育の場で

【属性比較別】

性別でみると、“男性優遇”は、男性（10.0%）より女性（15.0%）の割合が高くなっています。

年代別でみると、“女性優遇”は、10代・20代（12.7%）で1割を超えて最も高くなっています。

居住地区別でみると、“男性優遇”は、西部（9.1%）と錦田（9.6%）が1割を切って、他の地区よりやや低くなっています。

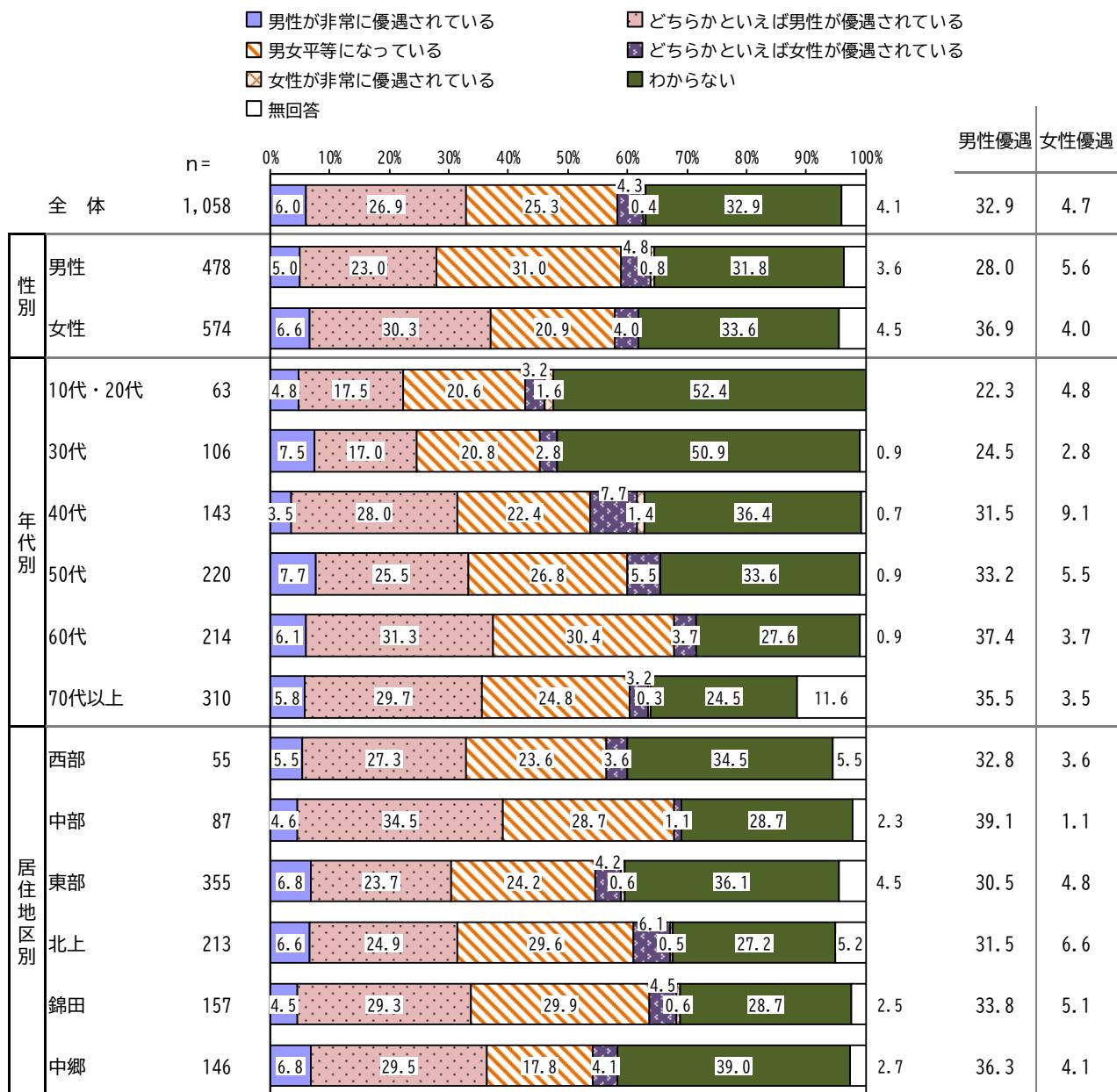


II 調査結果

(36)-4 地域で(自治会・PTA等)

【属性比較別】

性別でみると、“男性優遇”は、男性（28.0%）より女性（36.9%）の割合が高くなっています。年代別でみると、“男性優遇”は、60代（37.4%）で4割近くを占めて最も高くなっています。居住地区別でみると、“男性優遇”は、いずれの地区も3割を超えていました。



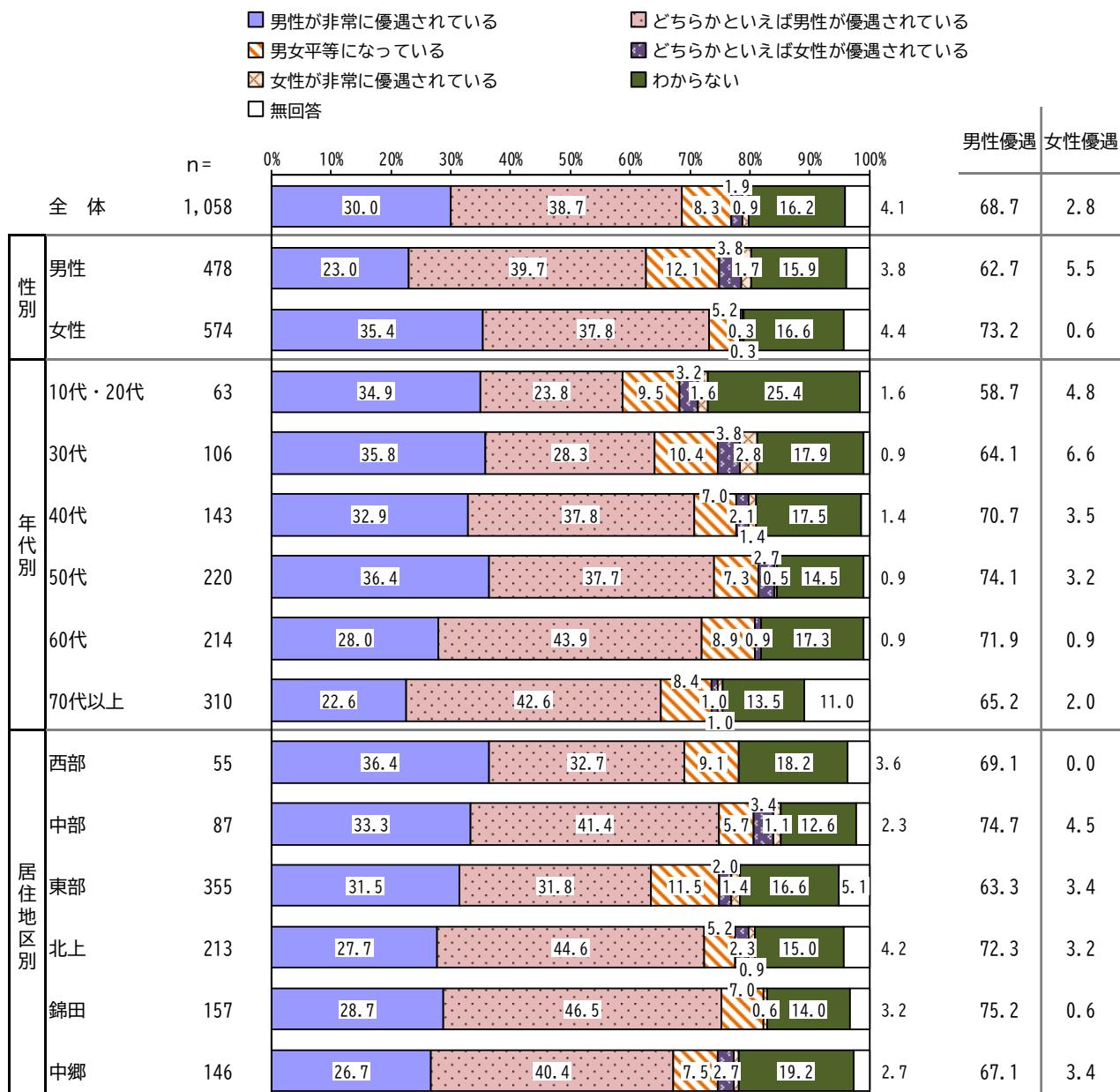
(36)-5 政治の場で

【属性比較別】

性別でみると、“男性優遇”は、男性（62.7%）より女性（73.2%）の割合が10.5ポイント高くなっています。

年代別でみると、“男性優遇”は、50代（74.1%）が最も高くなっています。

居住地区別でみると、“男性優遇”は、中部（74.7%）と錦田（75.2%）で7割台と高くなっています。



II 調査結果

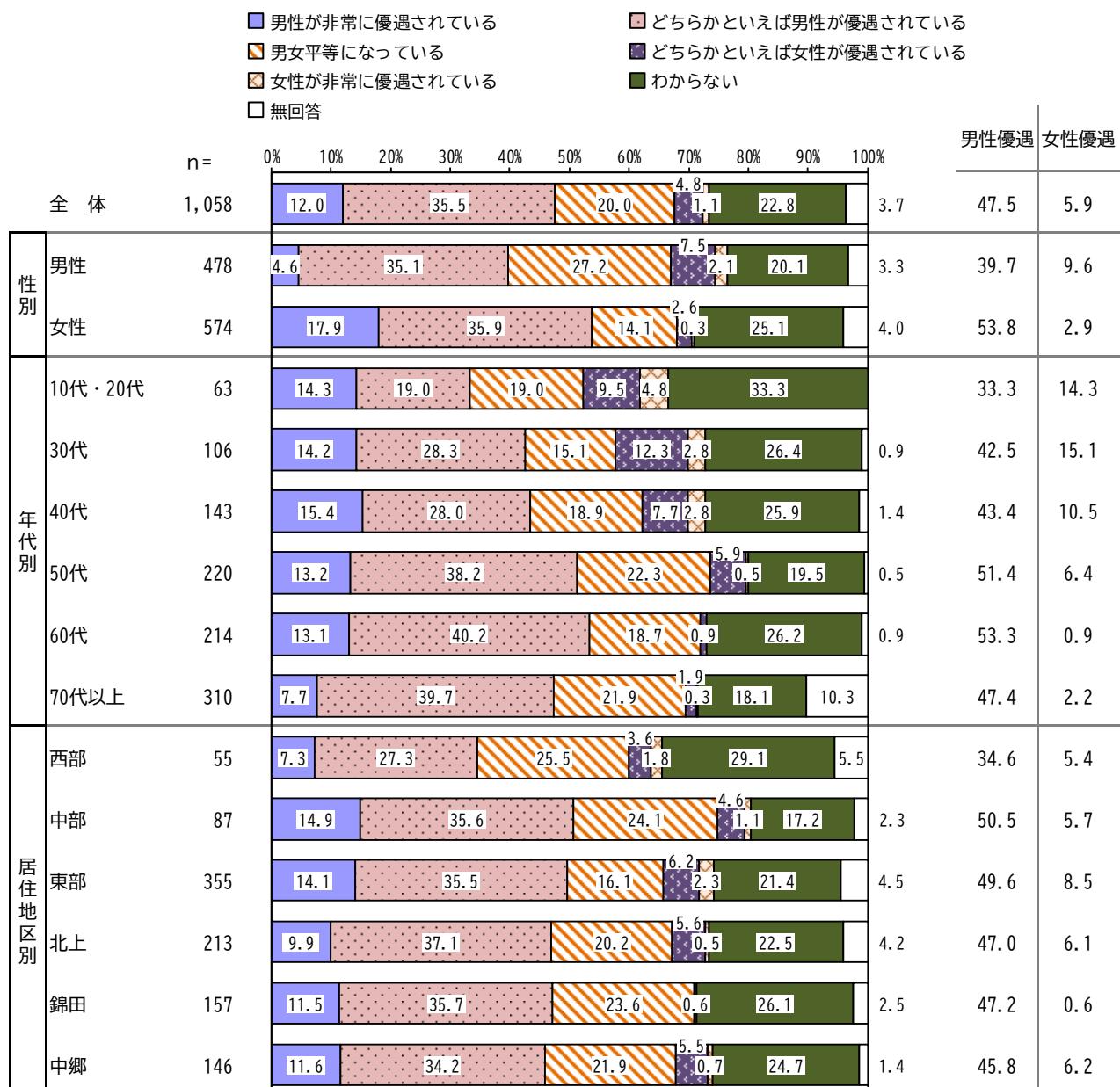
(36)-6 法律や制度の上で

【属性比較別】

性別でみると、“男性優遇”は、男性（39.7%）より女性（53.8%）の割合が14.1ポイント高くなっています。

年代別でみると、“女性優遇”は、40代以下の年代で1割以上となっています。

居住地区別でみると、“男性優遇”は、西部（34.6%）が4割を切って低くなっています。



男性優遇＝「男性が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性が優遇されている」
 女性優遇＝「女性が非常に優遇されている」+「どちらかといえば女性が優遇されている」

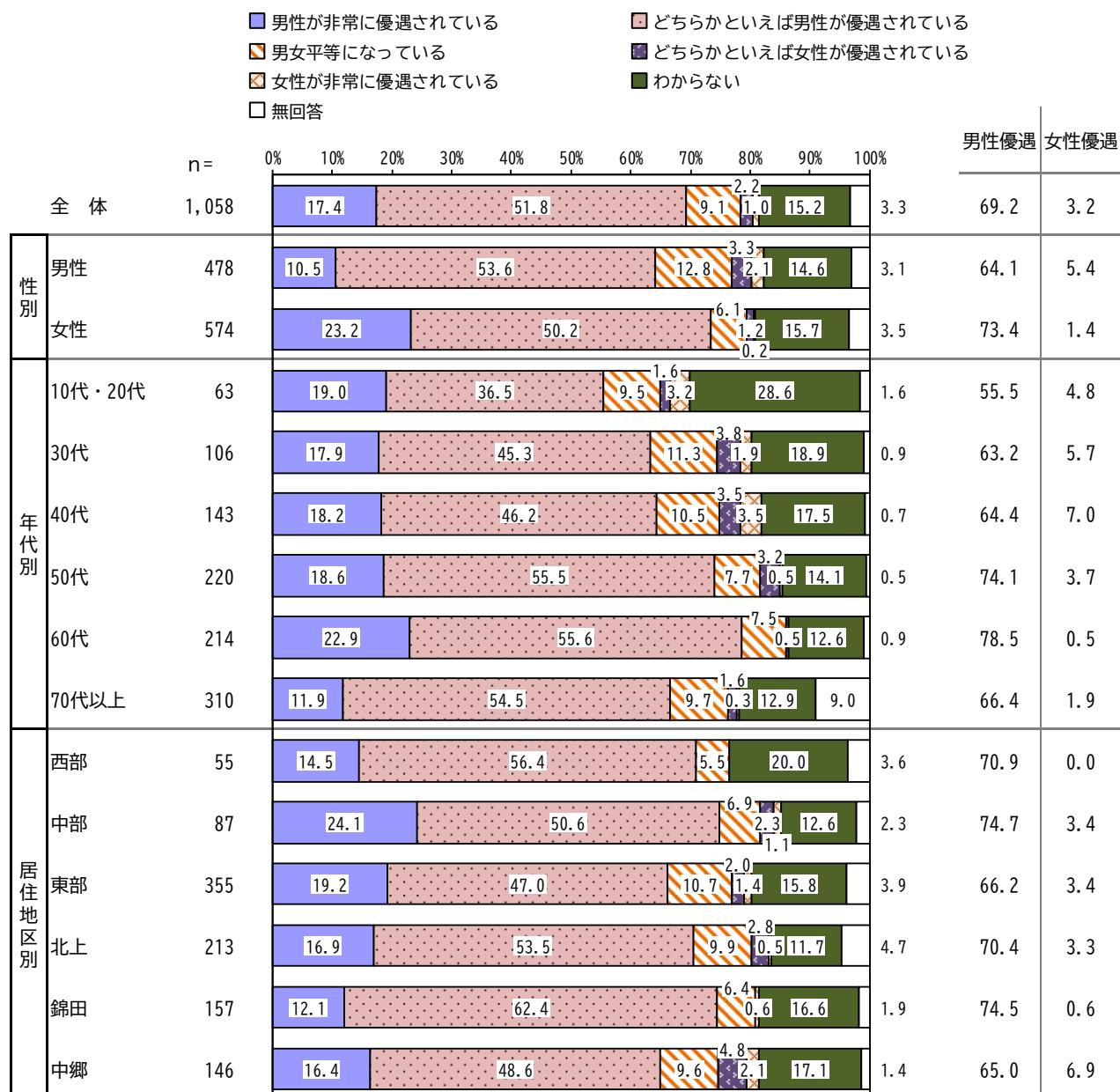
(36)-7 社会通念や慣習・しきたりで

【属性比較別】

性別でみると、“男性優遇”は、男性（64.1%）より女性（73.4%）の割合が高くなっています。

年代別でみると、“男性優遇”は、60代（78.5%）で8割近くを占めて最も高くなっています。

居住地区別でみると、“男性優遇”は、東部（66.2%）と中郷（65.0%）が7割を切って、他の地区よりもやや低くなっています。



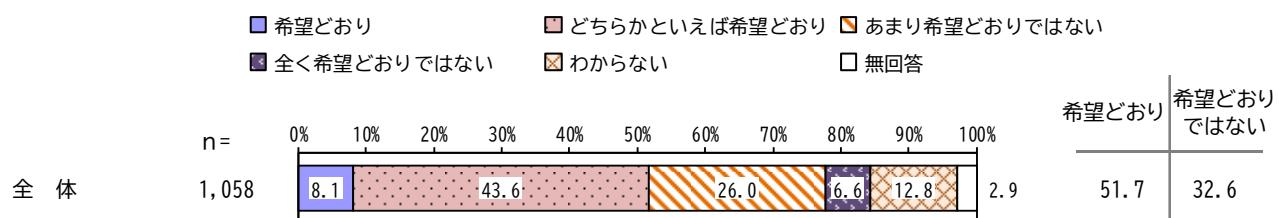
II 調査結果

(4) ワーク・ライフ・バランスについて

問37 今、「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」という考え方が注目されています。あなたの毎日の生活は希望どおりにバランスが取れていますか。(○は一つ)

– 毎日の生活バランスの取得状況は“希望どおり”が 51.7% –

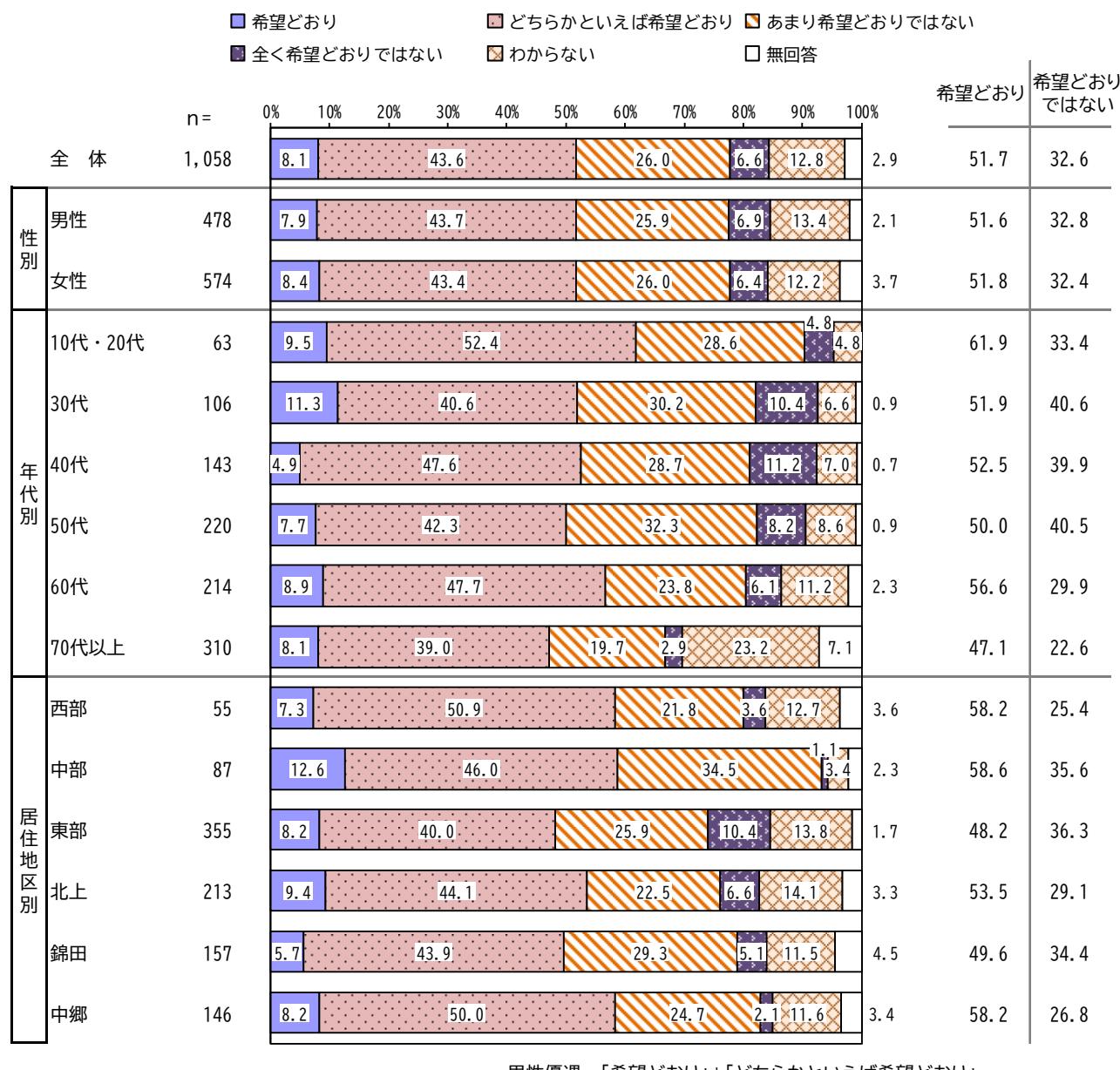
毎日の生活が希望どおりにバランスが取れているかについて「希望どおり」(8.1%) と「どちらかといえば希望どおり」(43.6%) を合わせた “希望どおり” が 51.7%、「あまり希望どおりではない」(26.0%) と ‘全く希望どおりではない」(6.6%) を合わせた “希望どおりでない” が 32.6% となっています。



男性優遇＝「希望どおり」+「どちらかといえば希望どおり」
女性優遇＝「あまり希望どおりではない」+「全く希望どおりではない」

【属性比較別】

性別でみると、“希望どおり”（男性 51.6%、女性 51.8%）に大きな差異はみられません。
 年代別でみると、“希望どおり”は、10代・20代（61.9%）で6割を超えてます。
 居住地区別でみると、“希望どおり”は、東部（48.2%）と錦田（49.6%）が5割を切って、他の地区よりやや低くなっています。



II 調査結果

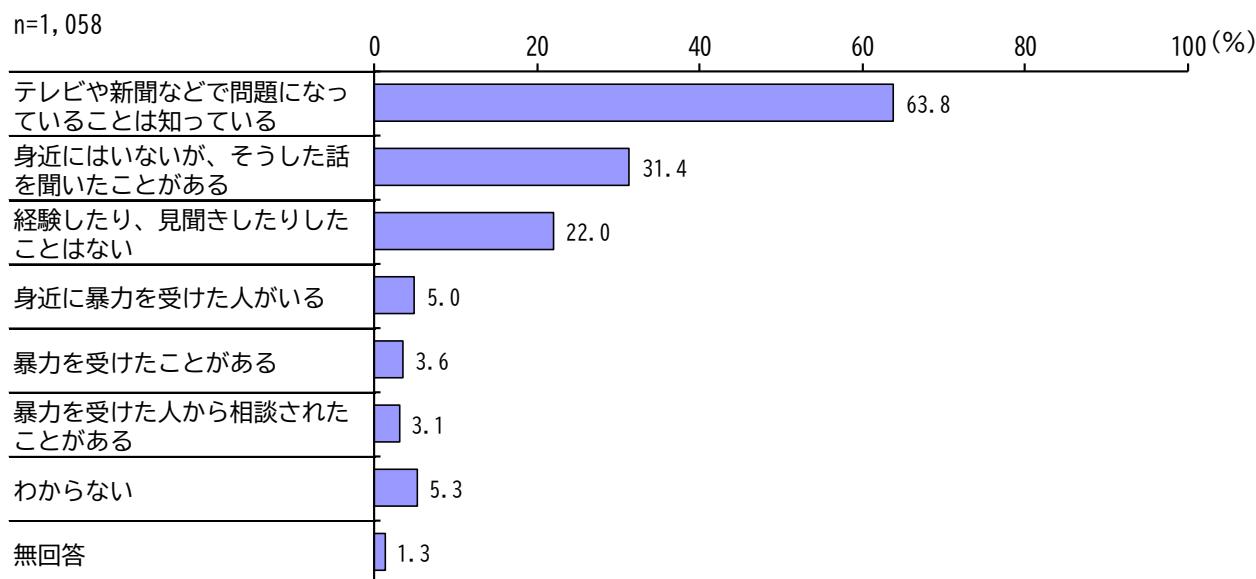
15 『ドメスティック・バイオレンス』について

(1) ドメスティック・バイオレンスの経験・見聞状況

問38 ドメスティック・バイオレンス(DV・夫婦や交際相手など親しい間柄にある男女間の暴力)を過去1年間に経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。

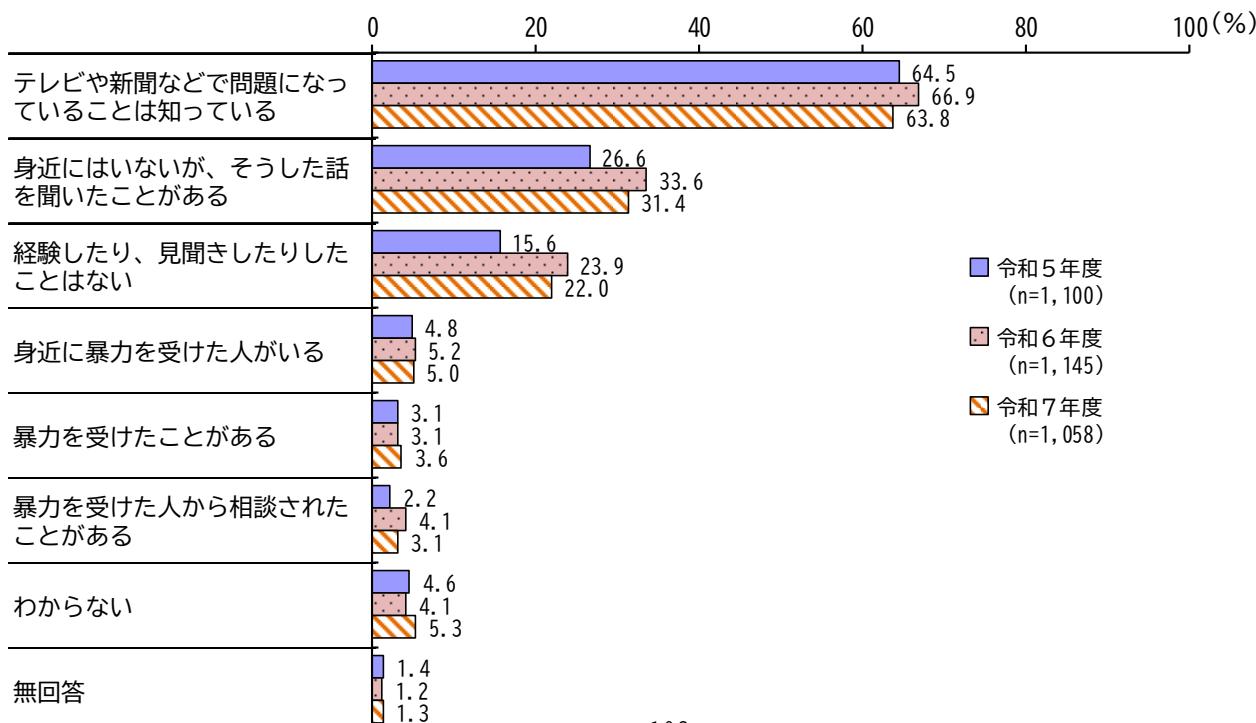
– ドメスティック・バイオレンスを「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が 63.8% –

ドメスティック・バイオレンスを過去1年間に経験したり、見聞きしたりしたことがあるかについて、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が 63.8% と最も高く、次いで「身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある」が 31.4%、「経験したり、見聞きしたりしたことはない」が 22.0% となっています。



【経年比較】

過去調査と比較すると、令和5年度以降「身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある」「経験したり、見聞きしたりしたことはない」に増加傾向がみられます。



【属性比較別】

性別でみると、「経験したり、見聞きしたりしたことはない」と「わからない」を除くいずれの項目も、男性より女性の割合が高くなっています。

年代別でみると、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」は、70代以上（75.2%）で7割半ばに達して高くなっています。

居住地区別でみると、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」は、中部（71.3%）が最も高くなっています。

単位：%

区分		回答者数 (件)	ある暴力を受けたことが	人が近い暴力を受けた	る相暴力を受けた人がから	身どうしある話聞いたが、	と問題は題レビは題にビやつ新ていてい聞るなどこで	経験したり、見聞きしたりしたことはなき	わからぬ	無回答
全 体	1,058		3.6	5.0	3.1	31.4	63.8	22.0	5.3	1.3
性別	男性	478	1.9	3.3	2.7	29.5	63.8	22.8	6.7	1.3
	女性	574	5.1	6.4	3.3	32.6	63.9	21.4	4.2	1.4
年代別	10代・20代	63	4.8	1.6	1.6	25.4	54.0	25.4	11.1	0.0
	30代	106	6.6	8.5	8.5	31.1	50.9	17.0	5.7	0.9
	40代	143	3.5	6.3	3.5	23.8	52.4	22.4	9.8	0.0
	50代	220	4.1	5.9	2.7	36.8	59.1	21.4	3.6	0.5
	60代	214	3.3	4.7	2.3	34.6	68.7	17.3	3.3	1.4
	70代以上	310	2.3	3.5	2.3	30.3	75.2	26.8	4.5	2.9
居住地区別	西部	55	1.8	1.8	1.8	38.2	60.0	21.8	1.8	3.6
	中部	87	5.7	5.7	4.6	29.9	71.3	16.1	2.3	1.1
	東部	355	3.7	6.5	2.8	31.0	59.4	20.3	7.3	1.4
	北上	213	2.3	3.8	2.3	30.5	68.5	24.4	4.7	0.5
	錦田	157	1.9	3.2	5.1	34.4	63.7	24.2	3.2	1.3
	中郷	146	3.4	5.5	2.7	30.1	63.7	23.3	6.2	1.4

1位

2位

3位

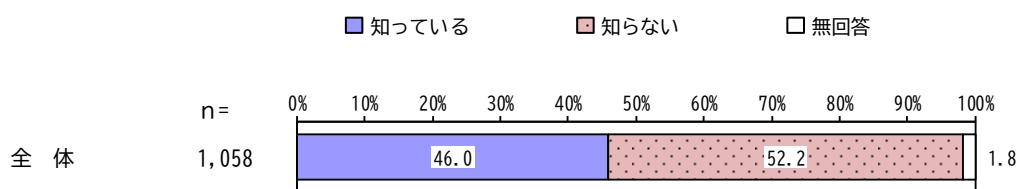
II 調査結果

(2) ドメスティック・バイオレンスに関する相談窓口の認知状況

問39 ドメスティック・バイオレンスの相談窓口があることを知っていますか。(○は1つ)

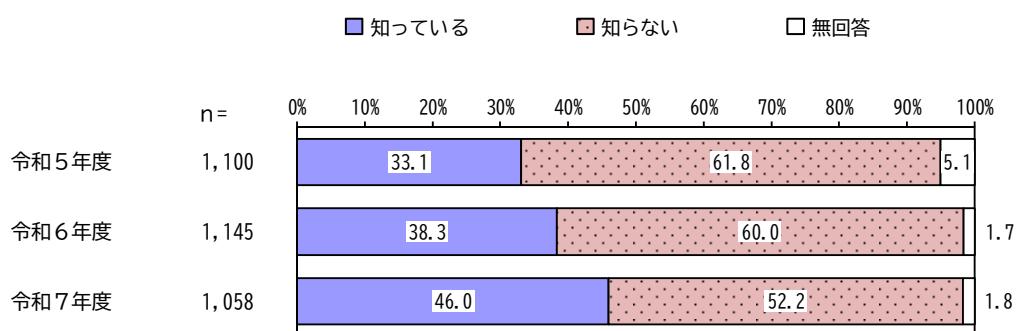
– ドメスティック・バイオレンスの相談窓口を「知っている」は46.0% –

ドメスティック・バイオレンスに関する相談窓口について、「知っている」が46.0%、「知らない」が52.2%となっています。



【経年比較】

過去調査と比較すると、令和5年度以降「知っている」が上がっています。



【属性比較別】

性別でみると、「知っている」は、男性（41.0%）より女性（49.8%）の割合が高くなっています。
 年代別でみると、「知っている」は、30代（51.9%）が最も高くなっています。
 居住地区別でみると、「知らない」は、北上（60.1%）が最も高くなっています。

